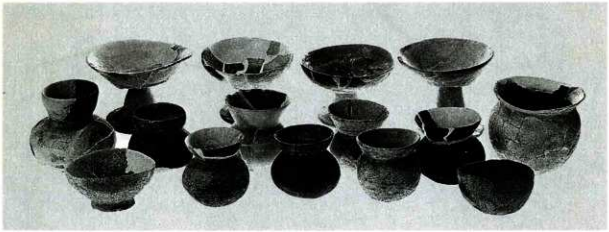
高岡市埋蔵文化財調査概報第66冊

市内遺跡調査概報XVII

── 平成18年度、越中国府関連遺跡の調査他 ──



2008年３月

高岡市教育委員会

高岡市埋蔵文化財調査概報第66冊

市内遺跡調査概報XVII

―― 平成18年度、越中国府関連遺跡の調査他 ――

2008年３月

高岡市教育委員会

※表紙・大扉カット：石塚遺跡大井２地区出土古墳時代土師器

1．越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　遠景（西）

※上方の川は小矢部川河口部、さらに上に庄川河口部、北西は富山湾。調査地区は中央やや下方。

2．前田墓所レオパレス21地区　遠景（東）

※褐色の所が前田庭球場（テニスコート）、庭球場の中央上方が内堀で区画された墳墓部分の「御廟」。
庭球場の左側下方が調査地区。

序

この度報告いたしますのは、高岡市内において平成18年度に実施した埋蔵文化財試掘調査の成果です。

この調査はさまざまな開発行為に対処して16遺跡24箇所において実施したものです。

越中国府関連遺跡は、高岡市街地の北側、伏木台地に所在します。越中国庁跡を中心とした遺跡です。今回の調査で、古墳時代及び奈良・平安時代の集落跡が確認されました。この遺跡ではこれまでのなかで一番まとまって生活跡が判明した調査となりました。

前田墓所遺跡は、加賀２代藩主前田利長の墳墓である「御廟」とその墓域です。東側外堀に該当すると思われる南北の溝が初めて確認されました。

高岡市街地の南西郊外、佐野台地に立地するのが石塚遺跡と東木津遺跡です。東西に走る市道六家佐野線が開通してからは開発行為が増加している地区です。石塚遺跡では古墳時代、東木津遺跡では奈良・平安時代を中心とする遺構・遺物が確認されました。

これら上記の主要な４遺跡と、古定塚、江尻Ａ、下佐野、石塚蜻保、出来田南、中曽根、山川ウシロダン、下石瀬、岩坪関田島、上蓑中田、山園町、上北島の各遺跡での調査です。

最後になりましたが、調査実施にご協力いただきました関係各位、地元の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成20年３月

高岡市教育委員会
教育長　村井　和

例　言

1．本書は富山県高岡市において平成18年度に実施した、埋蔵文化財発掘調査の調査概要報告書である。

2．当調査は、開発工事に伴い実施した試掘調査である。

3．現地調査は平成18年度国庫補助金、報告書作成は平成19年度国庫補助金の交付を受けて、高岡市教育委員会が実施した。

4．本書で報告する遺跡ならびに調査地区は、16遺跡24箇所である。

5．調査関係者は以下のとおりである。

［高岡市教育委員会文化財課］

文化財課長：笹島千恵子

〔埋蔵文化財担当〕

主幹：木林弘吉、副主幹：山口辰一、主査：荒井隆

6．当調査は、山口・荒井が担当した。

7．現地調査・報告書作成において、桶谷潤（調査補助員、現在株式会社エイ・テック文化財調査部）、常深尚・小出拓磨・伊藤順一（以上、毛野考古学研究所）の支援を受けた。

8．珪藻遺骸分析は邑本順亮氏（高岡市文化財保護審議委員）に実施していただいた。

9．石器については西井龍儀氏（富山考古学会副会長）に御教示を得た。

10．本書における遺構番号は次のとおりである。

ＳＩ－竪穴建物址、ＳＫ－土坑、ＳＤ－溝、ＳＸ－その他の遺構

11．本書における遺物番号は以下のとおりである。

1101～1170番：越中国府関連遺跡、古墳時代・土器類

1201～1235番：越中国府関連遺跡、古代・土器類

1301～1308番：越中国府関連遺跡、古代瓦

1501～1509番：越中国府関連遺跡、土製品

1601番：越中国府関連遺跡、鉄製品

1701～1706番：越中国府関連遺跡、石製品

2301～2325番：前田墓所遺跡、瓦

2401～2403番：前田墓所遺跡、木製品

3101～3176番：石塚遺跡、土器類

3401～3409番：石塚遺跡、木製品

3701～3719番：石塚遺跡、石製品

4101～4105番：東木津遺跡、古墳時代・土器類

4201～4275番：東木津遺跡、古代・土器類

4501～4504番：東木津遺跡、土製品

12．本書においては、主要な試掘調査地区である４遺跡４箇所について比較的詳細に報告し、他の14遺跡20箇所を簡潔に記述した。

13．本書の執筆担当者は以下のとおりである。

越中国府関連遺跡、オダケホーム２地区：常深

前田墓所遺跡溝ＳＤ01の珪藻遺骸（予報）：邑本

上記以外：荒井、桶谷

全体調整：山口

目　　次

巻首図版
序
例　言
目　次

1．越中国府関連遺跡、オダケホーム２地区 …… 1
　Ⅰ 序 説 …… 3
　Ⅱ 遺 構 …… 5
　Ⅲ 遺 物 …… 9
　Ⅳ 結 語 …… 11

2．前田墓所遺跡、レオパレス21地区 …… 13
　Ⅰ 序 説 …… 15
　Ⅱ 遺 構 …… 17
　Ⅲ 遺 物 …… 17
　Ⅳ 結 語 …… 18
　Ⅴ 分 析 …… 19

3．石塚遺跡、大井２地区 …… 27
　Ⅰ 序 説 …… 29
　Ⅱ 遺 構 …… 31
　Ⅲ 遺 物 …… 32
　Ⅳ 結 語 …… 34

4．東木津遺跡、泉が丘内科クリニック駐車場地区 …… 35
　Ⅰ 序 説 …… 37
　Ⅱ 遺 構 …… 39
　Ⅲ 遺 物 …… 41
　Ⅳ 結 語 …… 42

5．その他の調査地区 …… 43

図 面 目 次

図面01～図面20　遺構図
図面21～図面46　遺物実測図

図 版 目 次

巻首図版　1．越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　遠景（西）
　　2．前田墓所遺跡レオパレス21地区　遠景（東）
図版01～図版23　遺跡、遺構写真
図版24～図版40　遺物写真

挿 図 目 次

第１図　越中国府関連遺跡位置図［1］（1／15万）…… 1
第２図　越中国府関連遺跡位置図［2］（1／５万）…… 2
第３図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区位置図（1／5,000）…… 3
第４図　越中における古墳時代中期から後期の集落内祭祀関連遺物 …… 12
第５図　前田墓所遺跡位置図［1］（1／15万）…… 13
第６図　前田墓所遺跡位置図［2］（1／５万）…… 14
第７図　前田墓所遺跡レオパレス21地区位置図（1／5,000）…… 15
第８図　前田墓所遺跡レオパレス21地区全体図（1／400）…… 16
第９図　溝ＳＤ01サブトレンチ断面と試料採取位置図（1／20）…… 19
第10図　試料採取地（1／２万５千）…… 20
第11図　溝ＳＤ01の珪藻遺骸［1］…… 23
第12図　溝ＳＤ01の珪藻遺骸［2］…… 24
第13図　溝ＳＤ01の珪藻遺骸［3］…… 25
第14図　溝ＳＤ01の珪藻遺骸［4］…… 26
第15図　石塚遺跡位置図［1］（1／15万）…… 27
第16図　石塚遺跡位置図［2］（1／５万）…… 28
第17図　石塚遺跡大井２地区位置図（1／5,000）…… 29
第18図　石塚遺跡大井２地区全体図（1／400）…… 30
第19図　石塚遺跡大井２地区周辺、既往の調査地区位置図（1／2,000）…… 31
第20図　東木津遺跡位置図［1］（1／15万）…… 35
第21図　東木津遺跡位置図［2］（1／５万）…… 36
第22図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区位置図（1／5,000）…… 37

第23図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区全体図（1／400）……38
第24図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区土師実測図（1／2）……42
第25図　古定塚遺跡位置図（1／5万）……45
第26図　古定塚遺跡積水ハウス地区位置図（1／5,000）……45
第27図　越中国府関連遺跡位置図（1／5万）……46
第28図　越中国府関連遺跡森の祭典地区位置図（1／5,000）……46
第29図　越中国府関連遺跡森の祭典地区遺構図（1／400）……46
第30図　越中国府関連遺跡位置図（1／5万）……47
第31図　越中国府関連遺跡ロクショウ2地区位置図（1／5,000）……47
第32図　江尻A遺跡位置図（1／5万）……48
第33図　江尻A遺跡高伏町区画整理地区位置図（1／5,000）……48
第34図　越中国府関連遺跡位置図（1／5万）……49
第35図　越中国府関連遺跡佐野地区位置図（1／5,000）……49
第36図　下佐野遺跡位置図（1／5万）……50
第37図　下佐野遺跡堀地所・広瀬エステート企画地区位置図（1／5,000）……50
第38図　石塚蜻保遺跡位置図（1／5万）……51
第39図　石塚蜻保遺跡平島地区位置図（1／5,000）……51
第40図　石塚蜻保遺跡平島地区遺構図（1／200）……51
第41図　石塚遺跡位置図（1／5万）……52
第42図　石塚遺跡吉本地区位置図（1／5,000）……52
第43図　出来田南遺跡位置図（1／5万）……53
第44図　遺物実測図（1／3）……53
第45図　出来田南遺跡レオパレス21地区位置図（1／5,000）……53
第46図　中曽根遺跡位置図（1／5万）……54
第47図　中曽根遺跡区画整理事務所地区位置図（1／5,000）……54
第48図　山川ウシロダン遺跡位置図（1／5万）……55
第49図　山川ウシロダン遺跡不燃物処理場地区位置図（1／5,000）……55
第50図　下石瀬遺跡位置図（1／5万）……56
第51図　下石瀬遺跡幡地区位置図（1／5,000）……56
第52図　岩坪岡田島遺跡位置図（1／5万）……57
第53図　岩坪岡田島遺跡山口地区位置図（1／5,000）……57
第54図　上蚕中田遺跡位置図（1／5万）……58
第55図　上蚕中田遺跡川堰地区位置図（1／5,000）……58
第56図　上蚕中田遺跡川堰地区遺構図（1／400）……58
第57図　石塚遺跡位置図（1／5万）……59
第58図　石塚遺跡大田2地区位置図（1／5,000）……59
第59図　石塚遺跡大田2地区遺構図（1／200）……59
第60図　越中国府関連遺跡位置図（1／5万）……60
第61図　越中国府関連遺跡伏木配水池地区位置図（1／5,000）……60
第62図　山園町遺跡位置図（1／5万）……61

第63図　山園町遺跡谷内（2）小規模急傾斜地区位置図（1／5,000）……61
第64図　上北島遺跡位置図（1／5万）……62
第65図　上北島遺跡中部地所地区位置図（1／5,000）……62
第66図　上北島遺跡中部地所地区遺構図（1／400）……62
第67図　石塚遺跡位置図（1／5万）……63
第68図　石塚遺跡文苑堂駐車場地区位置図（1／5,000）……63
第69図　石塚遺跡文苑堂駐車場地区遺構図（1／400）……63
第70図　中曽根遺跡位置図（1／5万）……64
第71図　中曽根遺跡区画整理地区位置図（1／5,000）……64

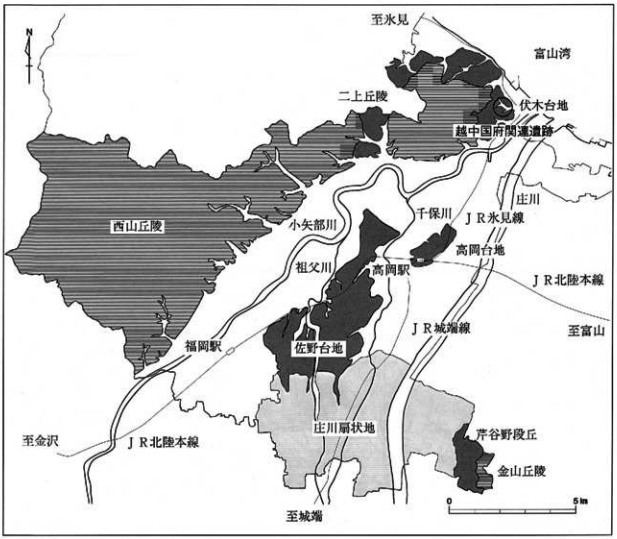
別表目次

別表1　前田墓所遺跡溝SD01の珪藻遺骸（予報）……21
別表2　土器観察表……65

調査協力者名簿　河内公夫・植田泰之（以上、当時国際航業株式会社）
江藤敦（国際航業株式会社）
澤田雅志・宮脇満（以上、株式会社エイ・テック文化財調査部）

調査参加者名簿　**発掘**　安藤誠吾、大橋欣次、河原康弘、小板達郎、小林央、沢田和明、清水不二雄
新堂秀次、高岡誠一、中山賢富、松本真由美、山崎一男、山城一夫、山田誠晃
整理　安藤誠吾、木村宏次、上坂哲也、小島智子、小林央、菅谷万須美、杉恵理子
竹部光希、野雅貴、宮野美重子

1．越中国府関連遺跡、オダケホーム２地区



第１図　越中国府関連遺跡位置図〔１〕（１／１５万）

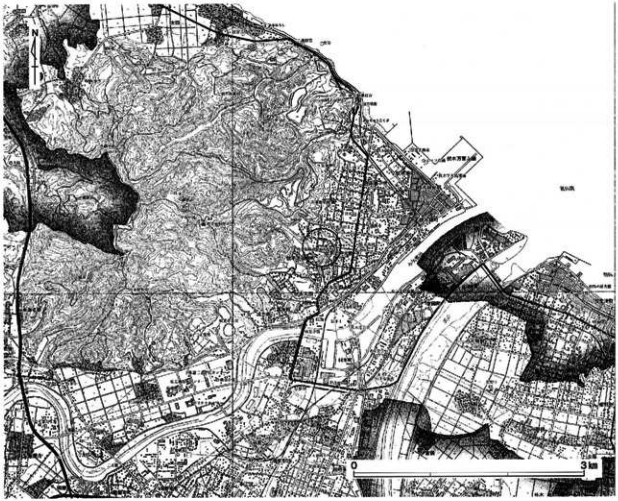
越中国府関連遺跡オダケホーム２地区、目次

Ⅰ 序　説 …… 3

Ⅱ 遺　構 …… 5
1．竪穴建物址 …… 5
2．土坑 …… 7
3．溝 …… 8

Ⅲ 遺　物 …… 9
1．古墳時代の土器類 …… 9
2．奈良平安時代の土器類 …… 9
3．瓦 …… 10
4．土製品 …… 10
5．鉄製品 …… 10
6．石製品 …… 10

Ⅳ 結　語 …… 11



第２図　越中国府関連遺跡位置図〔2〕（1／5万）

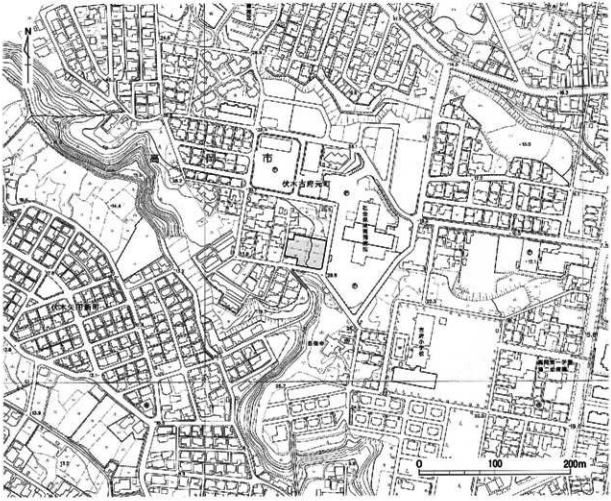
Ⅰ 序　説

遺跡概観

越中国府関連遺跡は、高岡市街地の北側、市域のほぼ中央を蛇行しながら富山湾へと注ぐ小矢部川河口の左岸にある伏木台地上に所在する。伏木台地は南北2.15km、東西1.75kmを測り上位・下位二つの段丘から構成され、本遺跡は下位段丘に立地する。

越中国府関連遺跡とは、越中国庁跡推定地、県指定史跡越中国分寺跡、越中国分尼寺想定地を中心として、これらに関連した伏木台地一帯に拡がる遺跡群の総称である。周辺には国府以前の遺跡として、未調査であるが方墳１基、円墳５基から構成される古府古墳群や白鳳期の瓦が出土することで知られる御亭角廃寺跡、また国府以降の遺跡としては古国府城跡が所在する。

小矢部川左岸に所在する伏木台地から連なる二上丘陵一帯は多くの古墳が存在する。これらは国府が置かれる律令期以前からこの地域が越中における中心的な位置を占めていたことを示唆している。また、このことは白鳳期の瓦が出土する御亭角廃寺跡の存在からも十分勘案できる。今回の調査では古墳時代の集落が検出されており、周辺に立地する古府古墳群や御亭角廃寺跡との関連が想定される。



第３図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区位置図（1／5,000）

調査に至る経緯

平成18年３月13日、オダケホーム株式会社より、木造アパートの建設と宅地分譲地造成の届出があった。試掘調査を実施したところ、開発予定地全体に遺構が良好な状態で残存していることが判明したため、オダケホーム株式会社との協議により、工事により掘削される部分の本調査を実施することになった。本調査対象地以外の開発予定地については試掘調査を続行した。

調査経過

試掘調査は平成18年４月19日に着手した。試掘坑を２箇所設定し、表土をバックフォーにより除去した。２箇所とも遺構が検出されたため、試掘坑を拡張し、開発対象地全体の遺構検出を行った。試掘調査地区では竪穴建物址を中心に掘り下げを行い、建物址の構造や時期の把握に努めた。本調査地区の調査は平成18年５月29日から同年６月28日まで実施し、竪穴建物址３基、土坑７基、溝６条が検出された。６月10日・11日には現地説明会を実施し、参加者は690名を数えた。調査面積は本調査地区107㎡、試掘調査地区999㎡である。

基本層序

表土下には基盤層となる黄褐色粘質土が存在し、この黄褐色粘質土の上面を遺構検出面とした。基盤層の標高は北西（31.00m）から南東（29.50m）へ緩やかに降っている。

検出遺構

検出遺構は次の通りである。

竪穴建物址17軒（ＳＩ01～17）

土坑50基（13基調査、ＳＫ01～13）

溝115条

ピット190基

出土遺物

出土遺物は次の通りである。

土器類：土師器、須恵器

瓦：国分寺系平瓦

土製品：置き竈、羽口

鉄製品：刀子

石製品：石鏃、磨製品、石製模造品

Ⅱ 遺　構

1．竪穴建物址

17軒の竪穴建物址が検出された（本調査地区３軒、試掘調査地区14軒）。このほか、竪穴建物址の炉址の可能性がある焼土が複数検出されている。

竪穴建物址ＳＩ01

本調査地区に位置する。ＳＩ02と切りあい、ＳＩ01が新しい。平面は隅丸長方形を呈し、規模は長軸4.38ｍ×短軸3.76ｍを測る。長軸の方位はＮ-57°-Ｗを示す。深さは北西部で28㎝を測る。主柱穴は短軸方向の壁沿い中央にあるＰ１及びＰ２と考えられ、深さはそれぞれ20㎝、19㎝を測る。北東壁沿い中央部には径32㎝の火床があり、カマドの痕跡と考えられる。火床の周囲で出土した白色粘土塊がカマド構築材とみられる。出土遺物には須恵器杯・壺がある。

竪穴建物址ＳＩ02

本調査地区に位置する。ＳＩ01・03と切りあい、ＳＩ03→ＳＩ02→ＳＩ01の順に新しい。平面は不整方形を呈し、規模は4.84ｍ×4.36ｍを測る。方位は南西壁がＮ-38°-Ｗを示す。深さは北西部で24㎝を測る。柱穴は壁沿いに検出された10基のピットと考えられる（Ｐ１～Ｐ10）。北西壁及び南東壁に２基、北東壁及び南西壁に３基のピットが配置される。ピットの深さはＰ１・Ｐ２・Ｐ５・Ｐ10で40㎝～55㎝、それ以外は10㎝～25㎝を測る。建物中央の北西寄りには炉址がある。炉址は長軸1.29ｍ×短軸69㎝の楕円形を呈し、深さ９㎝を測る。底面には長軸90㎝×短軸43㎝の楕円形の範囲内に焼土が検出され、焼土の表面は硬化が顕著であった。遺物は土師器高杯、須恵器杯蓋が出土した。

竪穴建物址ＳＩ03

本調査地区に位置する。ＳＩ02と切りあい、ＳＩ03が古い。形状は不明であり、規模は北西壁で4.06ｍを測る。方位は北西壁がＮ-43°-Ｅを示す。深さは16㎝を測る。主柱穴は不明である。遺物は土師器鉢が出土した。

竪穴建物址ＳＩ04

試掘調査地区の西側に位置する大型建物址である。ＳＩ05とわずかに切りあうが、新旧は不明であった。平面は不整方形を呈し、規模は9.52ｍ×9.18ｍを測る。方位は南西壁がＮ-39°-Ｗを示す。調査は、ほぼ床面を検出した段階までであり、柱穴や炉址の検出は行われていない。深さは西隅付近で16㎝を測る。床面上には炭化物が多く検出されており、本建物が焼失した可能性を示している。遺物は２箇所にまとまった出土がみられる。建物中央北寄りには土師器甕が多く出土し、置き竈（1501・1503・1504・1506・1508）も散見されることから、付近に炉址の存在が想定される。一方、建物西隅付近では土師器杯が多く出土している。石製模造品（有孔円板・剣形）は、いずれも建物南半の壁沿いで出土したものである。

竪穴建物址ＳＩ05

試掘調査地区中央に位置する大型建物址である。ＳＩ08より新しいが、ＳＩ04・10との新旧は不明であった。平面は隅丸長方形を呈し、規模は長軸9.56ｍ×短軸8.90ｍを測る。長軸方位はＮ-24°-Ｗを示す。深さは北西部で26㎝を測る。主柱穴はＰ１～Ｐ４の４基と考えられるが、Ｐ４は撹乱のため検出されなかった。長軸方向の主柱穴間には、補助的な柱穴Ｐ５及びＰ６が存在する。ピットの掘り下げは行われておらず、深さは不明である。建物中央には炉址があり、長軸44㎝×短軸32㎝の範囲がうっすらと焼土化していた。出土遺物は少なかったが、土師器小型土器や須恵器杯・壺、置き竈（1505）が少量みられた。

竪穴建物址ＳＩ06

試掘調査地区の北東部に位置する大型建物址である。ＳＩ07・10と切りあうが、新旧は不明であった。平面は不整方形を呈し、規模は9.84m×9.56mを測る。方位は南西壁がＮ-40°-Ｗを示す。深さは北西部で28cmを測る。調査は、ほぼ床面を検出した段階までであり、柱穴の検出は行われていない。建物中央には３基の炉址が確認された。いずれも隅丸長方形状の平面形で、規模は北から、36cm×24cm、62cm×40cm、44cm×26cmを測る。火床の硬化は顕著であった。遺物は建物北西部にまとまりがみられる。土師器は、甕や甑が少なく、杯・高杯が多い。須恵器は杯・高杯が少量と大甕の破片が比較的多く出土した。置き竈の基部も少量出土している。須恵器蓋（1226・1229）は溝からの混入と考えられる。

竪穴建物址ＳＩ07

試掘調査地区の北東部に位置する。ＳＩ06と切りあうが、新旧は不明であった。平面は方形と推定され、規模は東西幅4.12mを測る。方位は西壁がＮ-36°-Ｗを示す。深さは14cmを測る。柱穴の検出は行われていない。建物中央の北西寄りには炉址がある。炉址は長軸76cm×短軸68cmの不整長方形を呈し、深さ４cmを測る。火床の硬化が顕著であった。遺物は少ないが、建物南隅付近では土師器甕２個体が同一方向に倒れた状態で出土している。

竪穴建物址ＳＩ08

試掘調査地区の中央に位置する。ＳＩ05と切りあい、ＳＩ08が古い。平面は方形と推定され、規模は東西幅5.28mを測る。方位は東壁がＮ-44°-Ｗを示す。深さは22cmを測る。ピットは５基検出されたが、掘り下げは行われていない。炉址は検出されなかった。遺物は、北壁沿いに土師器壺２個体（1128・1129）、南側のピット周辺に土師器甕が少量出土した。

竪穴建物址ＳＩ09

試掘調査地区の北東隅に位置する。全容は明らかでないが、一辺４m以上の規模である。方位は西壁がＮ-25°-Ｗを示す。深さは20cmを測る。ピットは南西部に１基検出されている。南壁には長さ68cm、幅56cmの張り出しがみられる。この張り出しは深さ約３cmのごく浅い掘り込みであるが、焼土が検出されていることから、カマドの痕跡と考えられる。遺物は土師器甕、須恵器杯・蓋などが少量出土している。

竪穴建物址ＳＩ10

試掘調査地区の中央に位置する。ＳＩ05・06と切りあうが、新旧は不明であった。平面は方形と推定され、南北幅は4.42mを測る。方位は西壁がＮ-31°-Ｗを示す。深さは16cmを測る。ピットは３基検出されたが、柱穴とは判断されない。建物の中央北寄りには炉址が２基ある。規模は北から38cm×24cm、82cm×57cmを測り、深さは両者とも３cmである。遺物は土師器甕が少量出土した。

竪穴建物址ＳＩ11

試掘調査地区の北隅に位置する。平面は約4.20m四方の方形と推定される。方位は北東壁がＮ-46°-Ｗを示す。深さは12cmである。柱穴は検出されていない。建物の中央西寄りには炉址がある。炉址は114cm×75cmの隅丸長方形を呈し、火床は周囲の床より約３cm高い。火床の硬化は顕著であった。炉址の北側と南側には炭化物の拡がりが検出された。また建物南東部には白色粘土が検出された。粘土の拡がりは長軸89cm×短軸52cmの不整楕円形を呈し、厚さは約３cmである。遺物は白色粘土の周辺から土師器高杯・甕（1146）が出土した。須恵器杯蓋（1154）は北隅で出土した。

竪穴建物址ＳＩ12

試掘調査地区北隅に位置する。一辺４m以上の規模である。方位は西壁がＮ-39°-Ｗを示す。柱穴は検出されていない。建物南部には32cm×24cmの楕円形を呈する炉址がある。炉址は周囲の床面より約２cm高い。遺物は少ないが、須恵器大甕や置き竈（1502）の基部が少量出土した。

竪穴建物址ＳＩ13

試掘調査地区南部に位置する。平面は南北3.48m×東西3.18mの不整方形を呈するが、南半は削平を受けている。方位は西壁がN-34°-Wを示す。床面の深さは10cmであるが、南半は土坑状にさらに10cmほど低くなる。この段差は建物の建て替えによる可能性が考えられる。それは、検出された複数の炉址の高低差に表れている。最も規模の大きい炉址（62cm×44cm）及び北側の小規模な炉址（24cm×20cm）は高い床面に伴うものである。これに対し、南側の小規模な炉址２基（28cm×20cm）は低い床面に伴うものである。ピットは検出されていない。遺物は北西部で土師器甕が出土している。

竪穴建物址ＳＩ14

試掘調査地区の西部に位置する。ＳＩ15を切る。平面形は不明であるが、南東壁は7.60mを測る。方位は南東壁がN-39°-Eを示す。調査はプランの検出までであり、深さ等は不明である。遺物は土師器甕が少量出土している。

竪穴建物址ＳＩ15

試掘調査地区の西部に位置する。ＳＩ14に切られる。平面形は不明である。南東壁は一辺4.6m以上の規模である。方位は南東壁がN-38°-Eを示す。調査はプランの検出までであり、深さ等は不明である。遺物は土師器甕が少量出土している。

竪穴建物址ＳＩ16

試掘調査地区の南西部に位置する。ＳＩ17との新旧は不明である。平面は一辺約6.6mの方形と推定され、東壁の方位はN-28°-Eを示す。調査はプランの検出までであり、深さ等は不明である。遺物は土師器甕が少量出土している。

竪穴建物址ＳＩ17

試掘調査地区の南西部に位置する。ＳＩ16との新旧は不明である。平面は一辺2.8mの方形と推定され、北西壁の方位はN-50°-Eを示す。建物中央には長軸120cm×短軸80cmの不整長方形を呈する炉址が検出された。調査はプランの検出までであり、深さ等は不明である。遺物は土師器甕が少量出土している。

２．土坑

50基の土坑が検出され、そのうちの13基の調査を行った。ＳＫ01～10は古代の土坑群を形成しており、この土坑群は帯状に南西方向へ延びる様子が窺われる。ＳＫ11は古墳時代、ＳＫ13は平安時代の土坑である。

土坑ＳＫ01

本調査地区に位置し、ＳＫ02を切っている。平面は長軸1.75m×短軸1.52mの隅丸長方形を呈する。長軸の方位はN-73°-Wを示す。深さは34cmを測る。覆土中には炭化粒が多く含まれており、上層からは土師器甕、須恵器杯・蓋が出土した。須恵器蓋（1227）はSK08・09出土破片と接合したものである。

土坑ＳＫ02

本調査地区に位置し、ＳＫ01に切られる。平面は長軸1.77m×短軸1.21mの隅丸長方形を呈する。長軸の方位はN-29°-Wを示す。深さは41cmを測る。覆土には炭化粒・焼土粒が含まれる。遺物は土師器杯（内黒）・甕、炉壁が少量出土した。

土坑ＳＫ03

本調査地区に位置し、ＳＫ04を切っている。平面は1.50m四方の隅丸方形を呈する。南壁の方位はN-90°-Wを示す。深さは25cmを測る。回転糸切りの土師器杯（内黒）や椀、須恵器杯、輪羽口などが出土した。

土坑ＳＫ04

本調査地区に位置する。ＳＫ03に切られ、ＳＫ06を切る。ＳＫ05との新旧は不明である。平面は東西2.4ｍ×南北2.2ｍの隅丸方形と推定される。北壁の方位はＮ-82°-Ｅを示す。深さは20cmを測る。遺物は土師器杯・甕、炉滓が多く出土した。

土坑ＳＫ05

本調査地区に位置する。ＳＫ06を切り、ＳＫ04との新旧は不明である。平面は東西1.53ｍ×南北2.75ｍの隅丸長方形を呈する。長軸方位はＮ-30°-Ｅを示す。深さは18cmを測る。土師器杯が少量出土した。

土坑ＳＫ06

本調査地区に位置する。ＳＫ04・05に切られる。平面は長軸1.20ｍ×短軸0.8ｍの不整楕円形を呈し、長軸方位はＮ-40°-Ｅを示す。深さは47cmを測る。遺物は土師器杯・甕が少量出土した。

土坑ＳＫ07

本調査地区に位置する。平面は南北2.70ｍ×東西1.80ｍ以上の隅丸長方形と推定されるが、東部は削平される。西壁の方位はＮ-22°-Ｗを示す。深さは10cmを測る。遺物は土師器甕、炉壁が少量出土した。

土坑ＳＫ08

試掘調査地区の東部に位置し、ＳＫ09・10と接する。平面は長軸1.76ｍ×短軸0.88ｍの隅丸長方形を呈する。長軸方位はＮ-22°-Ｗを示し、深さ15cmを測る。土師器杯・甕、須恵器杯・蓋、瓦、刀子、炉壁が出土した。

土坑ＳＫ09

試掘調査地区の東部に位置する。平面は長軸1.12ｍ×短軸0.84ｍの不整楕円形を呈し、長軸方位はＮ-19°-Ｅを示す。深さは42cmを測る。遺物は土師器甕、須恵器杯・蓋・椀が比較的多く出土した。

土坑ＳＫ10

試掘調査地区の東部に位置する。平面は東西1.22ｍ×南北推定1.00ｍの不整楕円形を呈し、長軸方位はＮ-60°-Ｅを示す。深さは22cmを測る。遺物は土師器杯が少量出土した。

土坑ＳＫ11

試掘調査地区の北西部に位置する。平面は長軸1.61ｍ×0.73ｍの隅丸長方形を呈する。長軸方位はＮ-45°-Ｅを示し、深さは17cmを測る。土坑底面上５cm～10cm付近には土師器が多く出土し、北部では高杯３個体と甕の胴部が、南部では甕口縁部と棒状礫が検出された。

土坑ＳＫ12

ＳＫ11の北西に近接する。長軸1.1ｍ×短軸0.8ｍの隅丸長方形を呈し、長軸方位はＮ-74°-Ｗを示す。深さ20cmである。遺物は土師器甕が少量出土した。

土坑ＳＫ13

試掘調査地区南東隅に位置。径60cm、深さ32cmの円形を呈し、壁面は抉られ、弱く被熱していた。覆土には多量の炭化物と鉄滓、少量の羽口と凹面が被熱した凹分寺系平瓦が含まれ、鍛冶炉の可能性が考えられる。

３．溝

調査地区の南東部を中心に約115条の溝が検出された。溝は幅10cm～50cm、長さ１ｍ～12ｍを測り、複数の溝が等間隔で並走することから、畑の畝溝と考えられる。溝は重複関係から少なくとも３時期に分かれるが、竪穴建物址ＳＩ01を切ることや平安時代の土坑ＳＫ01～ＳＫ06の周囲で途切れる配置から、いずれも平安時代の所産である可能性が考えられる。

Ⅲ 遺　物

1．古墳時代の土器類

土師器（図面21～24）

1101～1148は古墳時代の土師器である。内訳は、杯10点（1101～1110）、台付の杯８点（1111～1118）、高杯３点（1119～1121）、鉢６点（1122～1127）、壺４点（1128～1131）、甕17点（1132～1148）である。

杯は器高４cm弱の1101・1102と、器高５cm前後の1103～1109に区分され、口径は12.6～14.9cmである。口縁部の形状は1101～1108が内弯ないし直立し、1109・1110は体部との境に稜を持ち外傾する。内面の調整は1104・1106・1109がヘラ磨き、1107が刷毛目、それ以外はナデである。1109は内面黒色処理である。1111～1118は台付の杯である。口径は14.4～19.1cmで、体部との境に稜を持ち外反する口縁部を有する。1111～1115は内面黒色処理とヘラ磨きを施す。台部は直線的に開き、1116は内面に刷毛目を施す。

1119～1121はＳＫ11で一括出土した高杯である。杯口縁部は、杯底部との境に強い稜を持ち外方へ大きく開く（1119）。柱状で屈折する脚部は、裾部が大きく開く（1120・1121）。

1122～1127は鉢である。1122はＳＩ05で出土したミニチュア土器である。1123～1126は甑と考えられ、膨らみのない胴部から、口縁部は外反する。内外面の調整は刷毛目である。1127は甑の把手と考えられる。

1128～1131は壺である。1128・1129はＳＩ08から出土した。1128は口径7.9cm、器高9.8cmで、丸底である。1132～1148は甕である。甕は、口径により、やや大型の1132～1136・1147（18.0～20.8cm）、中型の1137・1138・1140・1142（15.9～16.0cm）、小型の1143～1146（11.8～15.0cm）に分けられる。口縁部は外傾ないし外反し、胴部は球形のもの（1147）、膨らみが少なく甑に近いもの（1141）などがある。内外面の調整には刷毛目が多用される。1143は頸部外面に円形粘土が貼り付いている。

須恵器（図面25）

古墳時代の須恵器は杯身１点、杯蓋11点、高杯２点、壺１点、甕３点を図示した。杯身（1149）は推定径10.2cmと小型で、口縁部は直線的に立ち上がる。1150～1160は杯蓋である。1150～1155は口径13.9～15.0cmの中型品で、1151・1154が凹線状に稜線を表現するほかは不明瞭な稜である。1156～1160は口径13.1cm以下の小型品である。1159は天井部が肥厚し、1160は稜線が退化し口縁が屈曲する。小型の無蓋高杯（1161）は波状文を施す。壺（1163）はＳＩ04・05で接合したものである。1165～1167は甕の口縁部である。

2．奈良平安時代の土器類

土師器（図面25）

図示した杯３点・椀１点は土坑出土である。1201は口径18.0cmの大型品である。1201・1202・1204は内面研磨、1201・1204は内黒処理を施す。1203は底部回転糸切りで、1204は底径5.3cmの高台を貼り付ける。

須恵器（図面25・26）

杯20点、蓋11点、瓶・壺類４点を図示した。1205～1210は杯Ａである。1205・1206は器高2.7～2.8cmと浅く、他は器高3.1～3.4cmである。1211～1224は杯Ｂで、口径15.6cm、器高6.1cmの大型（1211）、口径13.0～13.6cmの中型（1212～1214）、口径10.4～11.4cmの小型（1215～1221）に分類される。底部切り離しは全て回転ヘラ切りであるが、1224は手持ちヘラ削りを施す。1164は長頸瓶、1168～1170は瓶・壺類の底部である。

3．瓦

国分寺系平瓦（図面27）

国庁・国分寺所用の瓦である。平安時代の土坑や溝から出土した。凸面は縄目叩きで離れ砂が付着する。凹面は布目である。1302・1304は還元焔焼成で硬質であることや、布目のよじれから同一個体とみられる。他の個体は弱還元焔による焼成で、やや軟質である。狭端面の調整は1301がナデ、1302はケズリである。1301は鍛冶炉（ＳＫ13）の炉壁へ転用された可能性があり、割れ口にも鉄滓が付着している。

4．土製品

置き竈（図面28）

少量であるが、竪穴建物址から置き竈の破片が出土している。ＳＩ04が最も多く５点を数える。1501が掛口付近であるほかは、基部片である。器面調整は外面が縦方向の刷毛目、内面は横方向の刷毛目を施す。内面には粘土の輪積み痕が残る。胎土と色調には２種がある。海綿骨針を含み、明赤褐色を呈し黒斑が残るもの（1502・1505・1507）と、砂粒を多く含み、灰褐色を呈するもの（1501・1503・1504・1506・1508）である。前者の基部は面取りがなされ、端面にも刷毛目がみられるなど、丁寧な整形である。厚さは体部で８㎜、底部で２㎝ほどである。1501の内面にはわずかに煤の付着があり、使用痕と考えられる。

輔羽口（図面29）

1509はＳＫ13から出土した輔羽口である。外径7.2cm、内径3.0cmを計り、外面はナデ調整されている。

5．鉄製品

刀子（図面29）

ＳＫ08から出土した両関の刀子である（1601）。切先を欠くが、全長15.5cm以上、茎部長8.0cm、刃部幅は1.5cmである。茎部に木質が遺存している。

6．石製品

石器類（図面29）

遺構検出面で２点の石器が出土した。1701は硬質頁岩製の尖頭器である。上下を欠損するが、残長4.1cm、幅1.65cm、厚さ3.5mmである。1702は蝋石質の磨製品で、石剣に類似したものである。残長4.0cm、幅2.7cm、厚さ1.0cmを計る。

石製模造品（図面29）

ＳＩ04から有孔円板３点と剣形１点が出土した。いずれも滑石製である。有孔円板は単孔（1703）と双孔（1704・1705）がある。1703は1.8cm×1.6cmの八角形を呈し、厚さ2.8mmである。1704は1.70cm×1.45cmの楕円形、厚さ2mmである。1705は1.60cm×1.55cmの円形を呈し、厚さ2.5mmを計る。孔径はいずれも1.5mmである。1706は剣形の破片と考えられ、幅1.7cm、厚さ3.5mmである。

Ⅳ 結　語

本遺跡の立地する伏木台地は、白鳳期の寺院跡や越中国府跡が所在する歴史的に重要な地域である。今回の発掘調査では、その前段階にあたる古墳時代中期から後期にかけての遺構が検出され、当地における古代の遺構群の成立過程を探る上で重要な発見となった。

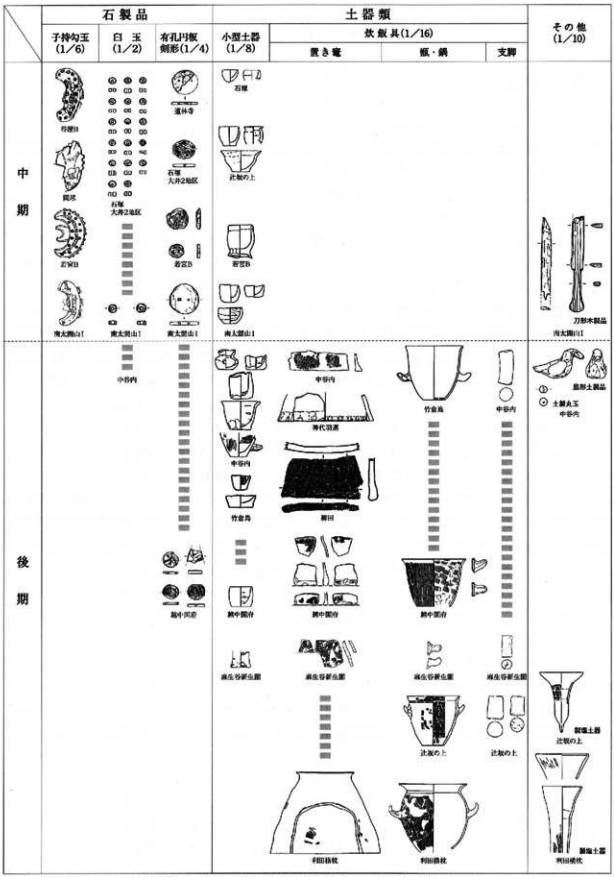
検出された竪穴建物址の時期は５世紀後半から６世紀代と８世紀代とに分けられ、６世紀代が主体である。５世紀後半は竪穴建物址ＳＩ08及び土坑ＳＫ11が存在する。ＳＫ11は小矢部市北反畝遺跡で墓坑とされた同時期の土坑との類似から、墓坑と考えられ、竪穴建物址と墓坑が近接して存在する様子が窺われる。ＳＫ11出土土器は底面から浮いた状態にあり、墓坑上に供献されたものと考えられる。

６世紀代には３軒の大型竪穴建物址ＳＩ04～06が出現する。９ｍを超える規模は県内の古墳時代中期から後期では最大級である。小型の竪穴建物址は７軒確認された。大型と小型の建物址では、出土遺物や炉址の大きさに以下のような際立った違いがみられる。

小型の建物址は、隅丸長方形を基調とする規模の大きい炉址を有し、焼土面の硬化が顕著である。一方、大型の建物址は円形基調で小規模な炉址を有し、焼土面の硬化は認められない。これに関連して、大型建物址から出土する置き竈の存在が注意される。古墳時代における北陸地方出土の置き竈の基部径は概ね30cm～40cmを示すが、これは大型建物址の炉址の規模と一致することから、炉址で置き竈が使用された可能性が高い。置き竈は内面に二次被熱や煤の付着がほとんどみられないことから、日常的な使用が想定されず、祭祀に関連する遺物と理解されている。大型建物の炉址の焼土が不鮮明であることは、このような置き竈の非日常的な性格と一致しているといえる。本遺跡の大型建物址は、炉址と置き竈の相関関係、石製模造品やミニチュア土器の出土など、祭祀的要素が色濃くみられる。これに対し小型建物址の炉址は、石川県羽咋市寺家遺跡第12次調査での１号竪穴式建物に類例が求められる。１号竪穴式建物は、鉄滓の出土から鍛冶工房の可能性も考えられるが、炉址は長軸１ｍ以上、短軸40cmの隅丸長方形である。本遺跡の小型建物址で鉄滓は確認されていないが、特異な炉址の類似から、寺家遺跡例のような工房的性格は十分に想定されるところである。これらのことから、本遺跡の建物群は一般的な集落とはやや趣を異にし、祭祀的ないし工房的性格を帯びている。置き竈の渡来系遺物としての性格を重視すれば、置き竈を保有する渡来系の技術者を想定することも可能となるが、なおも慎重な検討を要する課題である。また遺跡南東に所在する古府古墳群との関係も残された課題である。

古墳時代の集落内祭祀関連遺物については第４図に示した。本遺跡の石製模造品については、有孔円板の出土数３点は県内で最多であり、剣形は県内で初めての資料となる。置き竈については５世紀末において能登地方の羽咋・七尾に集中することから、十二町潟を経由して当地域に流入したものと考えられる。置き竈の胎土や調整手法に２種あったことから、他遺跡出土品との比較によって、生産・流通経路を明らかにできる可能性も考えられる。

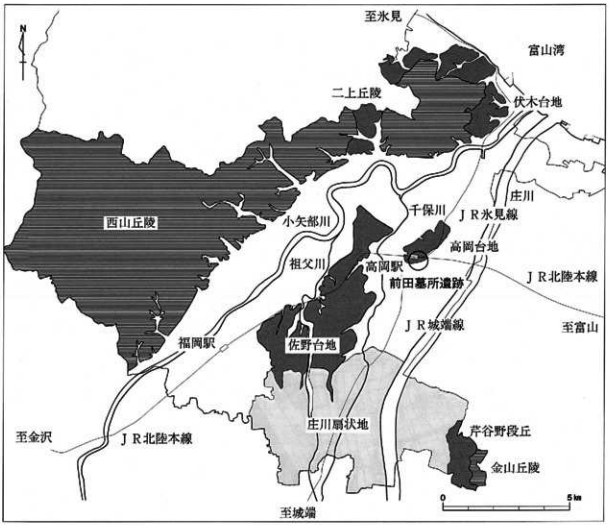
奈良時代では、８世紀後半に竪穴建物址ＳＩ01・09の２軒があり、造り付けの竈が導入されている。この時期に竪穴建物址が再び出現するのは、越中国府の成立に関連した事象と捉えられるが、平安時代には継続しない短期的な集落である。平安時代には畑と考えられる溝及び製鉄関連遺物を出土する土坑群があり、国分寺系平瓦も出土することから、国府に付属した生産域へと変化していったことが窺われる。



高岡市：岡尻、石塚、越中国府、麻生谷新生面　氷見市：谷屋B、中谷内、神代羽遊、柳田　小矢部市：道林寺、竹倉鳥
射水市：南太閤山Ⅰ　立山町：若宮B、辻坂の上、利田横枕

第4図　越中における古墳時代中期から後期の集落内祭祀関連遺物

2．前田墓所遺跡、レオパレス21地区



第５図　前田墓所遺跡位置図〔1〕（1／15万）

前田墓所遺跡レオパレス21地区、目次

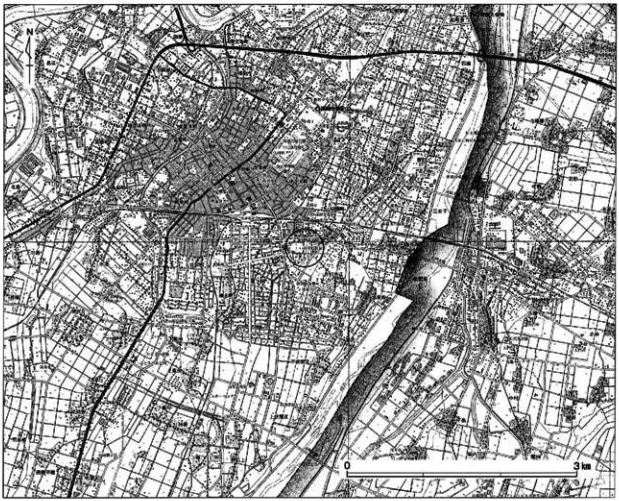
Ⅰ 序　　説 ……15

Ⅱ 遺　　構 ……17
　1．溝 ……17

Ⅲ 遺　　物 ……17
　1．瓦 ……17
　2．木製品 ……17

Ⅳ 結　　語 ……18

Ⅴ 分　　析 ……19



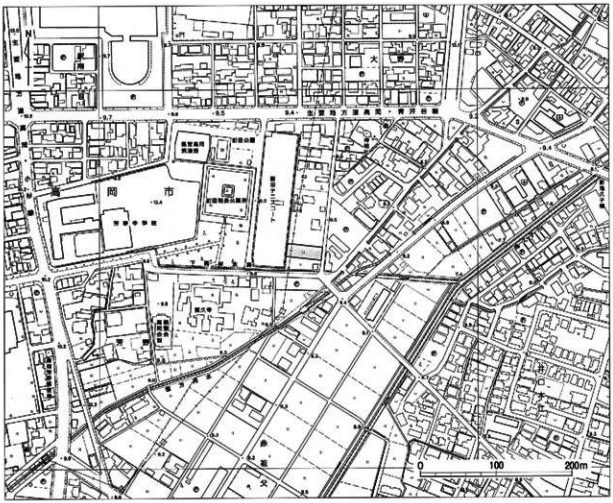
第6図　前田墓所遺跡位置図〔2〕（1／5万）

Ⅰ 序　　説

遺跡概観

当「前田墓所遺跡」は、高岡市街地の南東、ＪＲ高岡駅の東南東側約0.8㎞に位置し、加賀藩の２代藩主前田利長の廟所であり、現在県指定史跡である。

前田利長は、慶長14年(1609)に高岡城を築くと共に、城下町を開いた。慶長19年(1614)に利長が死去し、高岡城の南約1.2㎞の地で火葬に付された。加賀３代藩主前田利常は、利長の33回忌にあたる正保３年(1646)に火葬に付した跡に利長の廟を造営し、前田墓所となった。造営当初は約５万坪（16.5万㎡）の広さに、２重に堀をめぐらし、往来に面する側には堅固な石垣が築いてあったと伝えられている。また、菩提寺の瑞龍寺の伽藍造営と、墓所と菩提寺を結ぶ八丁道の築造も同時に行われている。しかし明治維新後には荒廃し、明治42年（1909）に第16代藩主前田利為により敷地の大修復がなされ9,500坪（約２万８千㎡）の墓域とされた。戦後には規模が縮小し、現在では3,300坪（１万㎡）となっている。



第７図　前田墓所遺跡レオパレス21地区位置図（１／5,000）

調査に至る経緯

平成18年６月に、施主の株式会社レオパレス21により当該地において共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘の届出が提出された。その後、協議を行い、施主及び地主の和久田茂明氏の承諾を得て、試掘調査を実施するに至った。

調査経過

発掘調査は、平成18年６月17日から同年６月19日までの３日間実施した。２箇所の試掘坑（トレンチ）を設定し、表土の除去をバックフォーを使って行い、場内に積み上げた。試掘坑西側より溝と思われる遺構を検出したため、可能な限りの拡張を行い遺構の確認に努めた。その後、遺構の検出、確認、記録の作成を行った。また、今回は試掘調査のため、遺構は検出面の確認に止め、遺構の一部を掘り下げ、内容の確認を行った。

調査対象面積は1,260㎡、調査面積は172㎡である。

基本層序

厚さ約20cmの表土（耕作土）の下に、暗褐色粘質土があり、黄灰色砂質土、青灰色砂質土からなる地山（基盤層）を確認した。

検出遺構

溝１条（ＳＤ01）

出土遺物

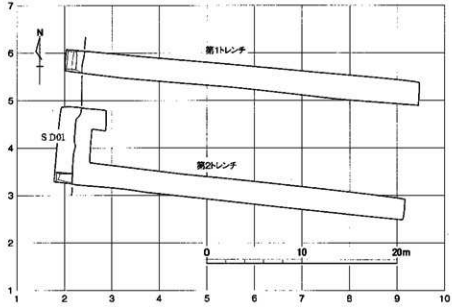
土器類：土師器、磁器

瓦：燻し瓦、釉薬瓦

木製品：漆器

グリッド

調査地区のグリッドは世界測地系の平面直角座標系の第Ⅶ座標系（原点は北緯36° 00′ 00″、東経137° 10′ 00″）に合わせた。東西をＸ軸とし、南北をＹ軸とした。グリッドの左下隅の数値がそのグリッドを表す。Ｘ＝１、Ｙ＝１の地点は、原点より、西へ12.755km、北へ81.770km向かった位置である。一辺５ｍ四方を一区画とし、グリッドを割り付け、メッシュを表示した。



第８図　前田墓所遺跡レオパレス 21 地区全体図（1／400）

Ⅱ 遺　　構

1．溝

溝ＳＤ01

第１・第２トレンチの西側端部で検出した。ほぼ南北方向に延びる溝である。規模は長さ14m以上、幅２m以上、深さ76cm以上を測る。溝の西端、北側、南側は調査地区外へ延びる。

溝の覆土は暗灰色粘質土が主体で、底の部分で灰色粘質土に変わる。暗灰色粘質土には多くの腐植物が含まれ、遺物もこの層から出土している。第２トレンチに設定したサブトレンチからはまとまった量の瓦が出土したが、第１トレンチでは瓦は出土していない。部分的な確認のため正確な範囲は判らないが、限られた範囲に瓦が集中しているものと思われる。

出土した遺物は、土器類、瓦（燻し瓦、釉薬瓦）、漆器である。土器類は土師器と磁器の細片各１点である。

Ⅲ 遺　　物

1．瓦

燻し瓦：図面 30・31 － 2301 ～ 2316。燻し焼きによる瓦である。2301 ～ 2307 が丸瓦で、2308 ～ 2316 が平瓦である。形態的には全て本葺き瓦であり、桟瓦はない。色調は黒色・黒灰色を呈し、銀化しているものや燻しが不十分で灰色等を呈するものもみられる。

釉薬瓦：図面 32 － 2317 ～ 2325。釉薬のかかっている瓦である。形態的に燻し瓦同様に全て本葺き瓦である。色調は明赤褐色を呈し、一部分を施釉している。

2．木製品

漆器：図面 33 － 2401 ～ 2403。2401・2402 は椀である。2401 はトチノキを用いて作られたものであり、口径 10.9 ㎝を計る。内面で一部漆が剥げているものの、比較的に良い状態で全体の形態が判るものである。2402 はブナ属の木を用いており、口端部が欠損し外面の状態も悪く、ほとんどの漆が剥離している。残存する漆に黒色と朱色があり、外面に朱色で模様が施されていたと推測する。2403 はヒノキを用いており、底部に 2.1 × 1.8 ㎝の四角いほぞ穴をもつ、櫛干状の装飾部の一部と推定される。長さ 8.9 ㎝、幅 8.4 ㎝、厚さ 5.9 ㎝を計り、全面に漆塗りを施す。

Ⅳ 結　　語

今回の調査地区は御廟の南東、高岡市営前田テニスコートの東側に位置する。検出した遺構は溝１条に止まった。しかしこの溝の覆土からは漆器や瓦溜りが確認され、江戸時代の開削に始まりその後埋没した可能性が高いと考えられる。過去、前田墓所遺跡では昭和63年と平成元年に発掘調査が実施され、成果が報告されている。このときの調査は墓所の南側及び南西側の位置に当たり、南西側では礎石の出土が確認され、東西に走る石垣も確認されている。これにより八丁道から墓所への入口部付近の造成の様相が明らかにされた。南側では溝が１条確認され、覆土から宝珠と露盤が一石で出来た石燈籠が出土している。これは現在瑞龍寺境内に移築されている四角彩石燈籠と同様のもので、八丁道の形成に伴い立てられたものと報告されている。この他南側石垣の構築の様相や構築時期等についても調査で明らかにされている。

江戸時代の絵図からは、２重の堀に囲まれ外堀南東隅には鎮守堂が描かれた墓所の姿がみられる。明治42年の資料では御廟を中心に外堀りとして一辺170～200mの漆に囲まれた約１万坪の墓域が記されているが、このときには鎮守堂は移築されていたため記載がない。現在、外堀りの痕跡は明確になっていないが、墓所南側の下関排水路が旧墓域南側外堀りを再利用した可能性が示唆されている。また明治42年に行われた修復工事は、現在の高岡市営前田テニスコートの東端がこの工事の東端であると推定されている。これらを踏まえて考えると、今回検出された溝は前田墓所の東側外郭を構成する堀である可能性が高いと思われる。また位置的に鎮守堂関連の遺構の存在が期待されたが今回確認することは出来なかった。

V 分　析

前田墓所遺跡溝ＳＤ01の珪藻遺骸（予報）

邑本　順亮

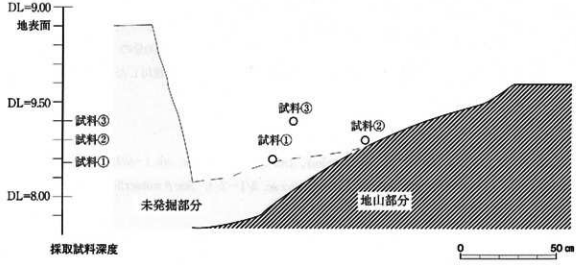
はじめに

2006年6月20日に新聞で、前田墓所の東側の宅地造成地で発掘調査が行われていたことを知り、現地へ直行したが、その場所はすでに発掘調査は終了し埋め戻された後だった。そこで発掘調査を担当していた高岡市教育委員会文化財課を訪ねたところ、発掘された遺物で洗浄前のものがあるので、そこに付着している粘土を試料にしてはどうか、と３点の試料を提供してくださった。試料は出土した瓦に付着していたものであった。それらの試料について珪藻分析を行ったので、予察段階ではあるが、観察の結果を報告する。試料についてお世話になった文化財課の関係各位に謝意を表します。

試料について

試料はいずれも出土瓦に付着していたもので優黒色のシルト質粘土であった。

遺跡記号	遺　構	採取年月日	試料番号	層位（深度）
MA－4	第２トレンチ 溝ＳＤ01 サブトレンチ	2006-06-19	①（下層）	ＤＬ＝8.43m（上） ＤＬ＝8.36m（下） （Ca）ＤＬ＝8.40m
			②（中層）	ＤＬ＝8.30m
			③（上層）	ＤＬ＝8.18m



第９図　溝ＳＤ01サブトレンチ断面と試料採取位置図（１／20）

試料の処理

試料およそ1グラムを使って過酸化水素法による土壌の酸化と漂白を行った後、プレオラックス（和同純薬製マウントメデイア）を使用して永久プレパラートを作成し、残りの処理済み試料は管瓶に保存した。

含有珪藻の傾向

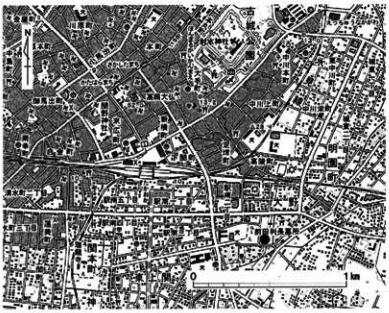
試料①・②・③のうち、②に最も豊富に珪藻遺骸が含まれていた。

試料①と②とには共通して含まれる種があるが、③には①・②と異なる種が含まれている場合も見られた。

例えば、***Actinella brasiliensis***、***Synedra uena***、***Tabellaria fenestrata***などは試料①・②に共通して含まれるが、試料③からは検出されなかった。また、***Pinnularia***属も試料①・②に共通して多く検出されたが、試料③からはほとんど検出されなかった。

以上のような点から、今回処理、検鏡した3点の試料についてみると、下位の2試料と上位の1試料との間の層準で、堀底泥が堆積した当時の水域環境、すなわち水質、水流などに変化があったものと推測される。

なお、2007年の調査の際にも今回の調査地に隣接した外堀遺構で珪藻分析用に試料を採集しているので、この分析結果と合わせて今後さらに検討したい。



第10図　試料採取地（●印）
（この図は国土地理院発行
25,000分の1地形図「高岡」
を使用したものである。）

主な参考文献

渡辺仁治編著，2005，淡水珪藻生態図鑑，内田老鶴圃．

K. Krammer, 2000, (Editd by H. Lange－Bertalot), Diatoms of Europe, vol. 1～vol. 4, Germany.

K. Krammer·H. Lange－Bertalot, 1991, Bacillariophyceae, 2/1～2/4, Sueβwasserflora von Mitteleuropa, Jena.

別表１　前田墓所遺跡溝ＳＤ01の珪藻遺骸（予報）

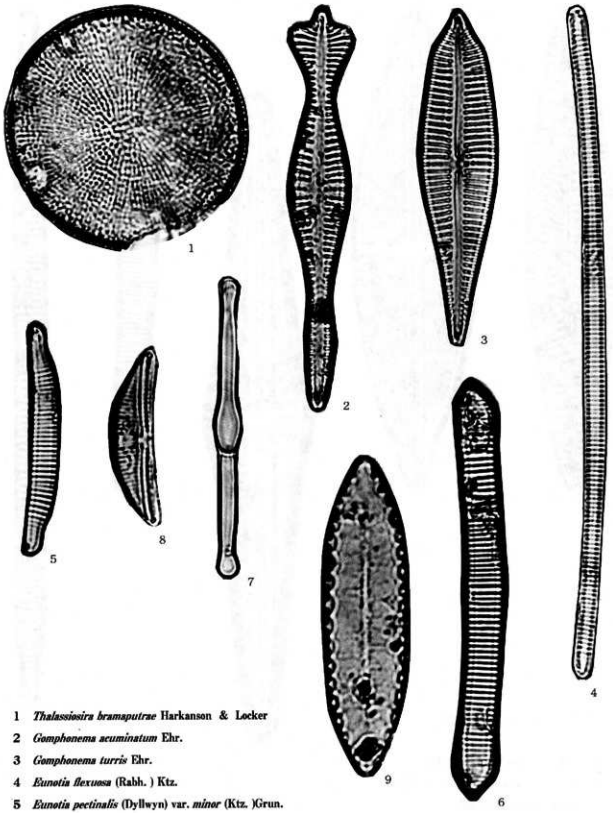
［註：検出珪藻殻……○：１個のみ検出、●：複数検出］

珪藻種名	水域環境			検出珪藻殻		
	塩性	pH	水流	(上層)	(中層)	(下層)
Actinella brasiliensis Grun.	indif	alkphil	indif		●	●
Amphora ovalis (Ktz.) Ktz.	indif	alkphil	indif	●		○
Caloneis silicula (Ehr.) Cleve	indif	alkphil	indif		●	○
Cocconeis placentula Ehr.var. *euglypta* Ehr.	indif	alkphil	indif	○		●
Cocconeis placentula Ehr.var. *placentula*	indif	alkphil	indif		●	
Cymbella cistula (Ehr.) Kirchner	halphob	alkbio	limbio		○	○
Cymbella cuspidata Ktz.	indif	alkphil	indif		●	○
Cymbella cymbiformis (Agerdh) Ktz.		alkphil			○	○
Cymbella lanceolata (Ehr.) V.Heurck	indif	alkphil	limphil	○		
Cymbella sinuata (Greg.) Kirh.	indif	alkphil	r-phil			○
Cymbella turgidula Grun. *var.nipponica* Skvortzow	indif	alkphil	limbio		●	
Cymbella ventricosa Ktz.	indif	indif	r-phil			
Diploneis elliptica (Ktz.) Cleve *var. elliptica*	indif	indif	limphil		●	●
Encyonema silesiacum (Breish) D.G.Mann	indif	indif	indif	○		○
Eunotia formica Ehr. var. *formica*	halphob	acphil	limbio		○	
Eunotia naegelli Migula		acphil				○
Eunotia pectinalis (Dyllwyn)	halphob	acphil	indif	○		
Eunotia pectinalis var. *minor* (Ktz.) Grun.	halphob	acphil	indif	●	●	○
Eunotia flexuosa (Rabh.) Ktz.	halphob	acphil	indif	○	●	○
Fragilaria arcus (Ehr.) Grun. var. *amphioxys* Patrick	indif	indif	r-phil	○		
Gomphonema acuminatum Ehr.	indif	indif	limphil	○		
Gomphonema acuminatum Ehr. var. *coronata*	indif	indif	limphil	○	●	●
Gomphonema augur Ehr. var. *augur*	indif	?	indif		●	
Gomphonema gracile Ehr.	indif	indif	limbio	○	○	●
Gomphonema parvulum Ktz. var. *excillissima* Grun.	indif	indif	r-phil		●	
Gomphonema productum (Grun.) Lange-Bertalot&Reihardt		indif		○		
Gomphonema sphaerophorum Ehr.	indif	alkphil	r-phil		○	
Gomphonema turris Ehr.	indif	alkphil	indif		●	
Gyrosigma acuminatum (Ktz.)Rabh.	indif	alkphil	r-phil		●	
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grun.	indif	alkphil	indif	○	○	
Navicula americana Ehr.	indif	alkphil	indif	○		
Navicula anglica Ralfs	indif	alkphil	indif	○	○	○
Navicula capitata var. *capitata*	halphil	alkbio	r-phil			○
Navicula cryptocephala Ktz.	indif	alkphil	indif	○	●	○
Navicula lanceolata (Agardh)Ehr.	indif	indif	indif		○	
Navicula pupula Ktz. var. *pupula*	indif	indif	indif			●
Navicula radiosafallax Lange-Bertalot	indif	indif	indif			●
Navicula viridula (Ktz.)Ehr. var. *linearis* Hust.	indif	alkphil	r-phil	○		

Neidium ampliatum (Ehr.) Krammer	indif	indif	limbio	●			
Neidium iridis (Ehr.) Cleve var. ***iridis***	halphob	indif	limbio		○		
Nitzschia constricta (Ktz.) Ralfs ?	halphil	indif	indif		○		
Nitzschia gessneri Hust. ?				○			
Nitzschia obtusa W.Smith	halphil	alkphil	indif		○		
Nitzschia sigma (Ktz.) W.Smith		alkphil					○
Pinnularia acrosphaeria W.Smith var. ***acrosphaeria***	indif	alkphil	limphil		●		
Pinnularia borealis Ehr. var. ***subislandica***	indif	indif	indif		○		
Pinnularia divergens W.Smith.	halphob	acphil	limphil				○
Pinnularia divergens W.Smith. ver. ***undulata***	halphob	acphil	limphil				○
Pinnularia grunowii Krammer	indif	acphil	indif				○
Pinnularia macilenta (Ehr.) Ehr.					○		○
Pinnularia macilenta (Ehr.) W.Smith	indif	indif	indif		○		
Pinnularia microstauron (Ehr.) Cleve var. ***brebissonii***	indif	acphil	indif		●		
Pinnularia microstauron var.***microstauron*** (Ktz.) Hust.	indif	acphil	indif	○			
Pinnularia nobilis (Ehr.) Ehr.	halphob	acphil	limbio		○		
Pinnularia subcomunistata Krammer							○
Pinnularia sudetica (Hilse) Hust.	indif	indif	indif		○		
Pinnularia viridiformis var. ***minor*** Krammer	indif	indif	indif		○		
Rhopalodia gibberula (Ehr.) O.Mueller	halphil	alkphil	indif		●		
Stauroneis acuta W.Smith	indif	alkphil	limbio	○			
Stauroneis anceps Ehr. var. ***anceps***	indif	indif	indif		○		
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.) Ehr.	indif	indif	indif	●	○		
Stauroneis smithii Grun.	indif	indif	indif				○
Surirella linealis W.Smith var. ***linealis***	indif	indif	indif				○
Surirella robusta Ehr.	hhalphob	indif	limbio	○			
Synedra acus Ktz.	indif	alkphil	limphil		●		
Synedra ulna (Nitz.) Ehr.	indif	alkphil	indif		●		○
Tabellaria fenestrata (Lyngbye) Ktz.	halhob	acphil	limbio		●		●
Thalassiosira bramaputrae (Ehr.) Harkanson&Locker		alkphil			○		

〔水域環境の記号説明〕

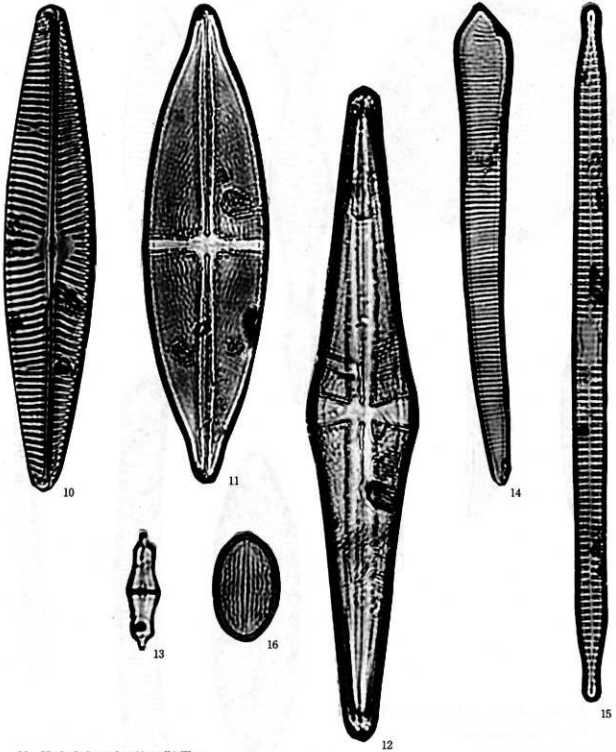
塩　分	pH	水　流
halhob：halohphobus（貧塩）好塩性	acphil：acidophilous 真酸性	limphil：limnophilous 真止水性
halphil：halophilous（貧塩）嫌塩性	acbio：acidobiontic 好酸性	limbio：limnobiontic 好止水性
indif：indifferent（貧塩）不安定	alkphil：alkariphilous 真アルカリ性	r－phil：rheophilous 真流水性
	alkbio：alkaribiontic 好アルカリ性	r－bio：rheobiontic 好流水性
	indif：indifferent 不安定	indif：indifferent 不安定



1 *Thalassiosira bramaputrae* Harkanson & Locker
2 *Gomphonema acuminatum* Ehr.
3 *Gomphonema turris* Ehr.
4 *Eunotia flexuosa* (Rabh.) Ktz.
5 *Eunotia pectinalis* (Dyllwyn) var. *minor* (Ktz.)Grun.
6 *Eunotia formica* Ehr. var. *formica*
7 *Tabellaria fenestrata* (Lyngbye) Ktz.
8 *Amphora ovalis* (Ktz.) Ktz.
9 *Surirella linealis* W.Smith var. *linealis*

0 10μm

第11図　溝ＳＤ01の珪藻遺骸〔1〕



10 *Navicula lanceolata* (Agardh) Ehr.

11 *Stauroneis phoenicenteron* (Nitz.) Ehr.

12 *Stauroneis acuta* W.Smith

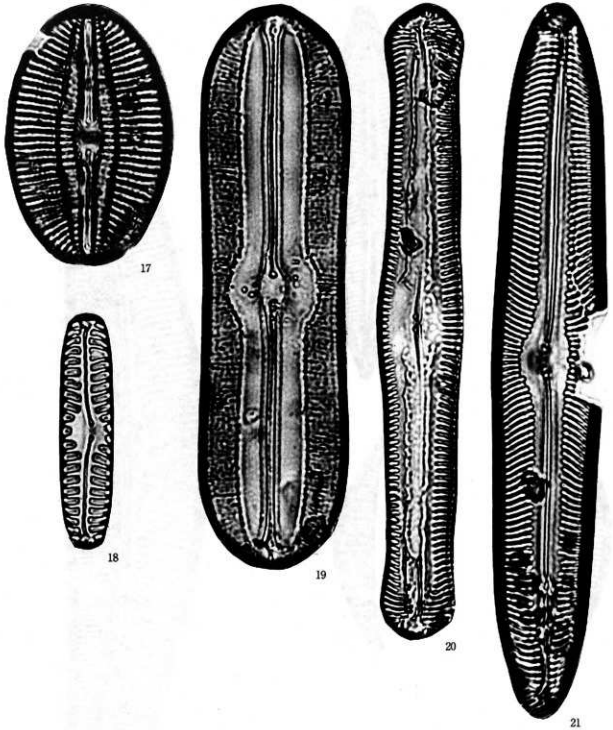
13 *Stauroneis smithii* Grun.

14 *Actinella brasiliensis* Grun.

15 Synedra ulna (Nitz.) Ehr.

16 *Cocconeis placentula* Ehr. var. *placentula*

第12図　溝ＳＤ01の珪藻遺骸〔2〕



17 *Diploneis elliptica* (Ktz.) Cleve var. *elliptica*

18 *Pinnularia borealis* Ehr. var. *subislandica* Krammer

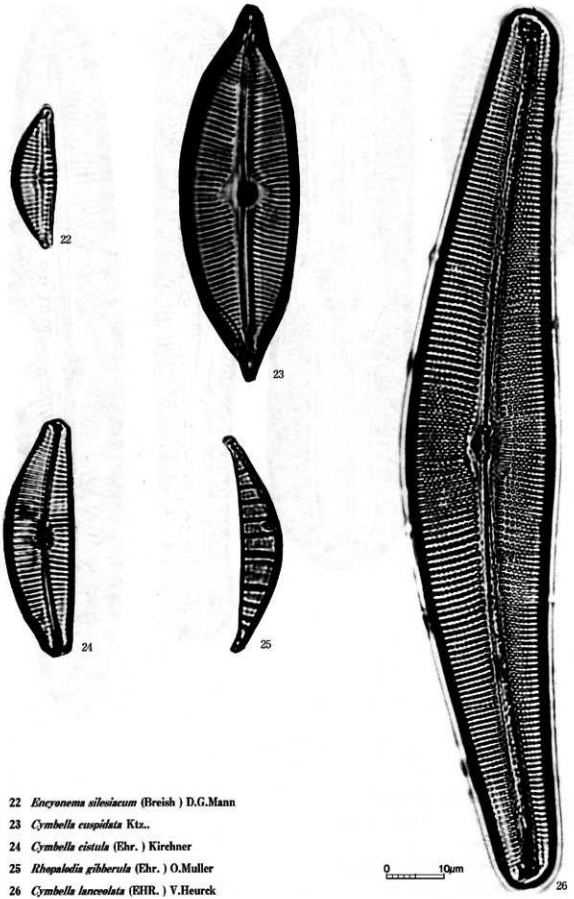
19 *Navicula americana* Ehr.

20 *Pinnularia acrosphaeria* W.Smith var. *acrosphaeria*

21 *Pinnularia viridiformis* var. *minor* Krammer

0 10μm

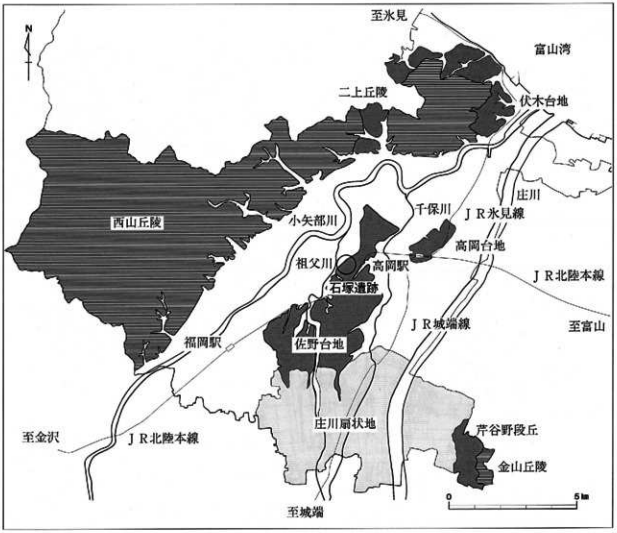
第13図　清ＳＤ01の珪藻遺骸〔3〕



22 *Encyonema silesiacum* (Breish) D.G.Mann
23 *Cymbella cuspidata* Ktz..
24 *Cymbella cistula* (Ehr.) Kirchner
25 *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) O.Muller
26 *Cymbella lanceolata* (EHR.) V.Heurck

第14図　溝ＳＤ01の珪藻遺骸〔4〕

3．石塚遺跡、大井２地区



第15図　石塚遺跡位置図〔1〕（1／15万）

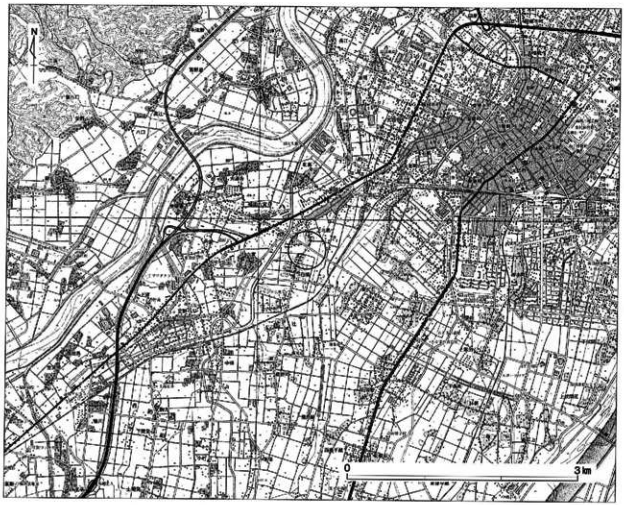
石塚遺跡大井２地区、目次

Ⅰ 序　　説 ……29

Ⅱ 遺　　構 ……31
　1．凹　地 ……31

Ⅲ 遺　　物 ……32
　1．古墳時代の土器類 ……32
　2．木製品 ……33
　3．石製品 ……33

Ⅳ 結　　語 ……34



第16図　石塚遺跡位置図〔2〕（1／5万）

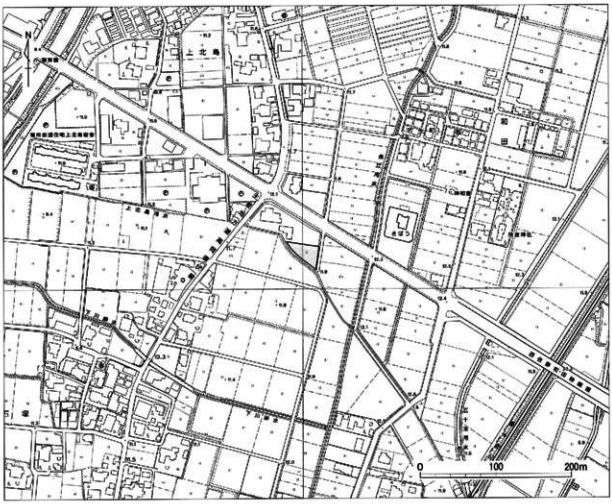
Ⅰ 序　説

遺跡概観

当遺跡は、高岡市街地の北東郊、ＪＲ高岡駅の南西側約３kmに位置する。庄川の形成した扇状地の末端、佐野台地の縁辺部に当たる。遺跡の東側には和田川、西側には祖父川が流れ、これらに囲まれた標高約11mの微高地上に位置する。

当遺跡は弥生時代の集落遺跡として、県西部において代表的な遺跡として知られている。また数々の発掘調査の成果により石塚古墳群の存在や縄文時代後期・晩期、古墳時代初期、奈良時代、中世の遺構・遺物の確認がされており、これにより縄文時代から中世に至る大規模な複合遺跡と認識されるようになった。

遺跡範囲は、南北700ｍ×東西500ｍを測り、北側には上北島遺跡・下北島住吉遺跡、北西側には石塚江之戸遺跡、南西側には石塚蜻保遺跡、南側には石塚六方遺跡等周囲には多くの遺跡が所在している。



第17図　石塚遺跡大井２地区位置図（1／5,000）

調査に至る経緯

平成18年６月に掘蔵文化財発掘の届出が提出された。当該地における駐車場建設計画である。その後、協議を行い、施主・地主の大井くに子氏の承諾を得て、試掘調査を実施するに至った。

調査経過

発掘調査は、平成18年７月４日から同年８月11日まで実施した。表土除去をバックフォーで行い、場内西側に積み上げた。掘削当初より遺構・遺物を確認したため、可能な限り試掘坑を拡げ遺構の把握に努めた。その結果、遺構が試掘坑の大半の面積を占める大規模なものであると判明した。そこで３箇所にサブトレンチを設定・掘り下げをして内容の確認を行い、その後記録の作成を行った。

調査対象面積は814㎡、調査面積は469㎡である。

基本層序

厚さ約20cmの表土（耕作土）の下に、黄褐色砂質土、黄白色シルトからなる地山（基盤層）を確認した。

検出遺構

凹地１基（ＳＸ01）

出土遺物

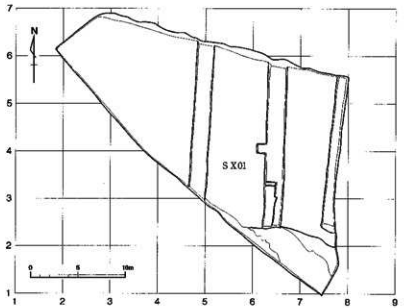
土器・陶磁器類：土師器、須恵器、珠洲、青磁

木製品：櫛、柱材、板状品、棒状品、部材

石製品：白玉、滑石製円板、磨製石斧、砥石

グリッド

調査地区のグリッドは世界測地系の平面直角座標系の第Ⅶ座標系（原点は北緯36° 00′ 00″、東経137° 10′ 00″）に合わせた。東西をＸ軸とし、南北をＹ軸とした。グリッドの左下隅の数値がそのグリッドを表す。Ｘ＝１、Ｙ＝１の地点は、原点より、西へ16.515km、北へ81.525km向かった位置である。一辺５ｍ四方を一区画とし、グリッドを割り付け、メッシュを表示した。



第18図　石塚遺跡大井２地区全体図（1／400）

Ⅱ 遺　　構

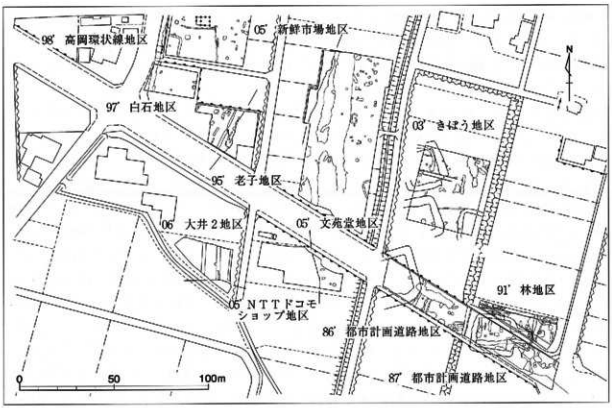
1．凹地

凹地ＳＸ01

調査地区南東隅で一部確認した地山箇所を除く全てが凹地ＳＸ01である。四方全てが調査地区の外に延びており、形状及び規模は不明である。サブトレンチにおいて断面を観察したところ、人為的な掘込みがみられないことや層の堆積状態等から、隣接する平成17年度のＮＴＴドコモショップ地区で確認された凹地との繋がりが考えられる。また、調査地区北側に当たる平成６年度調査の老子地区においても似通った凹地が確認されており、これら全てが同一のものになる可能性が高いと思われる。

今回出土した遺物は土師器、須恵器、珠洲、青磁、櫛、柱材、部材、板状品、棒状品、白玉、滑石製円板、磨製石斧、砥石である。遺構上面に当たる灰褐色粘質土からは主として珠洲、陶磁器等中世の遺物が出土している。その下に腐植物を含む褐色土があり、黒褐色粘質土、暗灰褐色粘質土が続いている。この黒褐色粘質土、暗灰褐色粘質土の２つの層からは古墳時代の遺物がまとまって出土している。またこれよりも下層では確認した範囲の中での遺物の出土はなかった。

図示した遺物は土器類：図面34～39－3101～3177、木製品：図面40・41－3401～3409、石製品：図面42－3701～3719である。



第19図　石塚遺跡大井２地区周辺、既往の調査地区位置図（１／2,000）

Ⅲ 遺　　物

1. 古墳時代の土器類

古墳時代中期の土師器である。図面34～39に76点図示した。

土師器

杯：図面34－3101～3106。弧状の底部より口縁部・体部が内弯して立ち上がる。調整手法は内外面共にナデ：3101～3103、3106と内面ナデ、外面体部ヘラ削り：3104・3105がある。口端部は、直立する：3101、内弯する：3102、外反する：3103がある。3105は台を持つ杯で指圧により台を作っている。

高杯：図面34・35－3107～3138。3107～3111は全体の形態が判明し、杯部に強い稜が付く：3107、杯部に稜が付く：3108・3109、杯部が丸い：3110・3111に分類できる。3112～3119は杯部、3120は杯上部、3121は杯下部、3122は杯下部から脚上部のみが残存しているものである。3123～3130は脚部、3131・3132は脚部で末端部が欠損しているもので、両方共に杯と脚の接合部に舌状のものが付く。3133～3138は杯と脚の接合部に舌状のものが付かないもので、3137は脚上部、3138は柱状部のみが残存している。調整手法は杯部内面では刷毛目やヘラ磨き、外面はナデや刷毛目、ヘラ削りである。脚部は内面にナデが多く、外面はヘラ磨きが主体となっている。

手づくね土器：図面36－3139。鉢形のミニチュア土器である。

小型壺：図面36－3140～3152。小型の壺である。偏球形の胴部にやや大きい口縁部が付く。口縁部径は5.5～11.6cm、胴部最大径は8.4～13.3cmを計る。3140～3145は全体の形態が判明する小型丸底壺である。3142は胴部に線刻がみられ、3145は口縁部がほぼ垂直に上がる。3146～3150は小型丸底壺と思われるが、底部が欠損しているため別に分類した。3147は口縁部がほぼ垂直に上がり、3149は口唇部に弱い凹線を持つ。3151・3152は小型壺の胴・底部である。調整手法は口縁部は横ナデ、胴部内面には指圧が付くものが大半を占め、外面はナデや刷毛目が主体となっている。

壺：図面36－3153。大型の壺である。球形の胴部より底部が突出した形となる。口頸部はくの字状に折れ、外面にヘラ磨きが付く。口縁部径は15.8cm、胴部最大径は28.2cmを計る。外面は全体的にやや摩滅がみられる。調整手法は口縁部は横ナデで胴部は内外面共に刷毛目が主体である。

甕：図面37～39－3154～3177。縦長球体の胴部に短めの口縁部が外上方に拡がる。底部は丸底である。口縁部径は13.6cm～23.0cm、胴部最大径は14.0cm～24.8cmを計る。調整手法は口縁部は横ナデが主体だが一部内面にヘラ磨きがみられる。胴部は内外面共に刷毛目が主体となっており、刷毛目の粗いものと細かいものがみられる。また全体の形態が判明するのは3156・3158・3164・3169の４点である。この他胴中央部以上が残存するものが７点、口縁部と胴部の一部が残存するものが２点、口縁部のみ残存するものが４点、胴下部と底部が残存するものが３点、底部のみが３点存在する。3156は頸部が緩く屈曲し、大きく外方に拡がる口縁部が付く。口縁部から頸部にかけての外面に縦位の刷毛目を施し、胴部内面は刷毛目、外面は刷毛目後胴中部でヘラ削り調整を行っている。3158は口縁部内面にヘラ磨きを施し、胴上半部内面がナデ・ヘラナデ、下部内面がヘラ削り・ヘラナデ、底部内面が刷毛目、胴上半部外面がナデ・刷毛目・ヘラ削り、胴下部及び底部がヘラ磨き調整が行われる。また胴部外面には煤が付着している。3164は頸部外面に刻みが付き、胴部には粗めの刷毛目が施される。3169は口縁部外面に粘土の巻上げ痕が残り、胴上部及び下部外面には指圧調整がみられる。3170は口唇部を指で押さえ整えており、3171は底部に穿孔を有している。

2．木製品

3世紀末から4世紀の木製品である。大きさが異なるため、櫛は実大、柱材は1／10、板状品と棒状品の1点は1／4、その他は1／3の縮尺で図示した。

櫛：図面41－3401。長さ1.8cm、幅1.7cm、厚さ0.3cmを計る。イネ科の一種の植物を用いて作られたもので、木本性植物を細く棒状に加工し、これを数本まとめて曲げて縦櫛としたものである。

柱材：図面40－3402。長さ199cm、幅9.5～16.2cm、厚さ13.6cmを計る。スギを用いており、片端に四角形のほぞを持つ全面に加工痕がみられる柱材。一部腐食により欠損している。

板状品：図面40－3403。長さ95.2cm、幅3.0～7.1cm、厚さ2.5cmを計る。スギを用いて板状に加工したもので四半分近くが欠損している。

棒状品：図面40・41－3404～3406。端部や側面に加工痕の付く棒状の木製品である。いずれもスギを用いている。3404は長さ81.9cm、幅0.7～2.2cm、厚さ1.4cmを計る。四角形を呈し片端部を尖らせる。3405は長さ56.0cm、幅1.3～1.5cm、厚さ1.0cmを計る。四角形を呈し両端部及び中央側面で加工痕が確認できる。3406は長さ18.4cm、幅0.8～1.0cm、厚さ1.5cmを計る。多面形を呈し一部加工痕がみられる。

部材：図面41－3407～3409。3407・3409はスギ、3408はアサダを用いて加工している木製品である。3407は中央にほぞ穴を有し、長さ26.1cm、幅3.7～6.4cm、厚さ2.6cmを計り、ほぞ穴は長さ7.4cm、幅3.2cmである。両端が欠損しているため全体の形態は把握できない。3408は中央が欠損しているが残りの形状からほぞ穴を有するものと思われる。長さ14.2cm、幅1.2～3.4cm、厚さ2.2cmを計る。3409は三角柱を呈し、長さ12.6cm、幅3.6～4.8cm、厚さ2.3cmを計る。

3．石製品

臼玉：図面42－3701～3717。滑石製の臼玉である。17点の内11点は壺3152の内部から出土、残りは後日に周辺土の土壌洗浄によって検出した。個別の法量は以下の通りである。

番号	長径	短径	厚さ	孔径
3701	4.2㎜	4.0㎜	2.0㎜	1.0㎜
3702	4.0㎜	4.0㎜	3.0㎜	0.7㎜
3703	4.0㎜	3.7㎜	2.5㎜	0.7㎜
3704	4.0㎜	3.7㎜	2.0㎜	1.0㎜
3705	3.7㎜	3.5㎜	2.0㎜	1.0㎜
3706	4.0㎜	4.0㎜	2.0㎜	1.0㎜
3707	4.0㎜	4.0㎜	2.2㎜	1.0㎜
3708	3.5㎜	3.5㎜	2.5㎜	0.9㎜
3709	4.0㎜	4.0㎜	2.7㎜	1.0㎜
3710	4.0㎜	3.7㎜	1.9㎜	1.3㎜
3711	4.0㎜	4.0㎜	2.2㎜	1.0㎜
3712	4.0㎜	3.6㎜	2.0㎜	1.2㎜
3713	3.8㎜	3.5㎜	2.8㎜	1.3㎜
3714	4.0㎜	3.7㎜	2.5㎜	0.9㎜
3715	3.8㎜	3.6㎜	2.0㎜	1.1㎜
3716	4.0㎜	4.0㎜	2.7㎜	1.0㎜
3717	4.3㎜	3.5㎜	2.5㎜	1.0㎜

滑石製円板：図面42－3718。中央に1つの孔をもつ楕円形を呈した滑石製の円板である。長径2.3cm、短径2.0cm、厚さ2.8㎜、孔径は1.0㎜を計る。

磨製石斧：図面42－3719。蛇紋岩製の磨製石斧である。基部周辺のみが残存しており、上端部でやや敲打痕がみられるものの、その他はよく研磨されている。長さ7.0cm、幅3.4cm、厚さ2.65cm、重さ86.0ｇを計る。

Ⅳ 結　　語

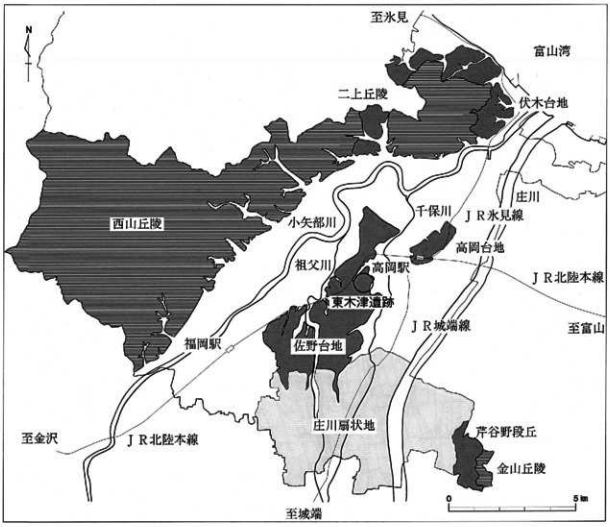
石塚遺跡では1967年から発掘調査が行われ、その成果が報告されている。中でも都市計画道路下伏間江福田線築造に伴う調査をはじめ、周辺開発に伴う調査等によって遺跡北側一帯の状況把握が進展しつつある。これにより弥生時代中期において県西部を代表する遺跡として知られるだけでなく、縄文時代から中世に至る大規模な複合遺跡として認識されるようになっている。

今回の調査で確認した凹地ＳＸ01は調査地区の大半を占める範囲で検出した。四方は調査地区外へ拡がるため、規模や形状を特定することは出来なかったが、層の堆積状態や過去の調査報告から調査地区の北側に当たる平成７年調査の老子地区や東隣に位置する平成17年のＮＴＴドコモショップ地区で確認されている凹地の続きであると思われる。老子地区で出土した遺物と今回出土した遺物がほぼ同時期であるということも凹地の繋がりを示す理由になるといえる。この他に平成17年に調査が行われた文苑堂地区で報告されている自然流路との繋がりも考えられるのだが、今回の調査では凹地ＳＸ01を部分的な確認に止めたため、詳細は明確にはならなかった。しかし、老子地区とＮＴＴドコモショップ地区で確認されている凹地はほぼ南北方向に延びており、文苑堂地区の自然流路の方向と一致することから、凹地は自然流路に伴うまたは関連する可能性が高いと考えられる。また今回確認した凹地の肩はこれまでの調査で確認されている南北方向ではなく、西～南東方向に緩やかな弧を描いており、その弧に沿うように多くの遺物が出土した。

今回出土した遺物は古墳時代と中世の２つの時代にあたり、中世の遺物は検出面の灰褐色粘質土からのみ出土しており、小破片が散在し量も多くなかった。古墳時代の遺物は黒褐色粘質土、暗灰褐色粘質土から出土し、一部の木製品を除くほとんどが地山から北に向かった凹地の肩部に集中し、土師器のみで須恵器は出土していない。この古墳時代の遺物を含む層には多くの腐植物が含まれており、土器の断片にも磨滅した痕跡があまりみられないことから当時この付近は水の流れが澱んでいたと思われる。このことからこの古墳時代の遺物は他からの流れ込みではなく、この場所に廃棄されたものである可能性が高いと思われる。またこの遺物の器種は高杯と小型壺が多くを占めており、祭祀的意味合いの強い器種が一括して出土したことや臼玉が甕の中に入れられていたと推測できる状態で出土したことなどから、当時この地周辺で何らかの祭祀が行われていた可能性が考えられる。

石塚古墳群は調査地区東側で確認され平野部における出現期古墳とされているが未だその範囲や関連する遺構、居住域等が明らかになっていない。凹地ＳＸ01は出土した遺物から古墳時代中期の遺構であると推定でき、この地周辺で祭祀が行われていたとすると、古墳時代中期における人達の生活の一端が明らかになったといえるのではないだろうか。今後周辺の調査等から、石塚遺跡における古墳時代の様子が明らかになることを期待したい。

4．東木津遺跡、泉が丘内科クリニック駐車場地区



第20図　東木津遺跡位置図〔1〕（1／15万）

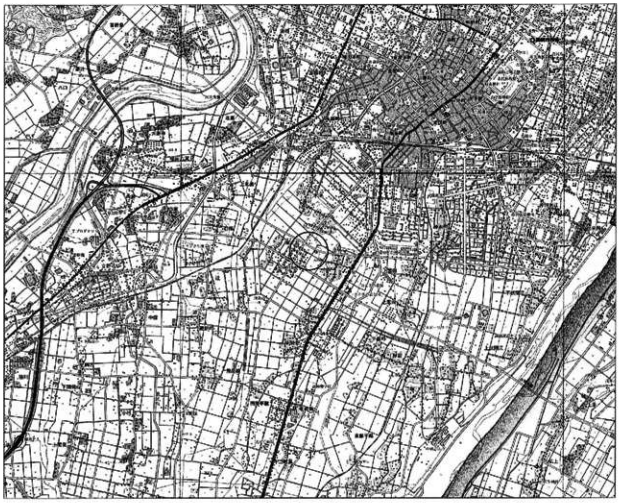
東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区、目次

Ⅰ 序　　説 ……37

Ⅱ 遺　　構 ……39
1．土坑 ……39
2．溝 ……40
3．畝状遺構……40

Ⅲ 遺　　物 ……41
1．古墳時代の土器類 ……41
2．奈良平安時代の土器類……41
3．土製品 ……41

Ⅳ 結　　語 ……42



第21図　東木津遺跡位置図〔2〕（1／5万）

Ⅰ 序　　説

遺跡概観

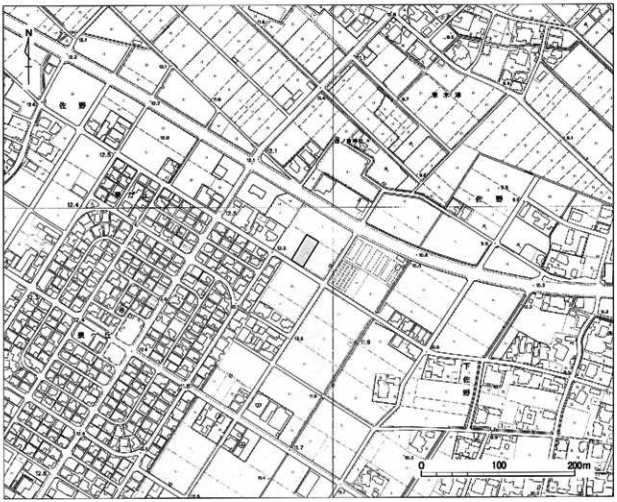
当遺跡は高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅の南西約３kmに位置し、泉が丘団地北側一帯にある。庄川の形成した扇状地の末端、佐野台地縁辺部に当たり、遺跡中央を都市計画道路下伏間江福田線が東西に走る。遺跡の東側を千保川、西側を和田川が流れ、これらに囲まれた標高約11～12mを測る微高地上に位置する。

当遺跡は奈良平安時代を中心とする遺跡で、この時代における拠点的な集落遺跡として知られている。また古墳時代前期や中世の遺構・遺物の確認もされている。遺跡北西側には木津神社遺跡が、南側には下佐野遺跡、泉が丘遺跡が隣接しており、古くからの営みが当遺跡周辺からも窺える。

遺跡範囲は南北250m、東西600mを測る。

調査に至る経緯

平成18年６月に仲介する不動産業者を通じ、当該地における駐車場建設のための埋蔵文化財発掘の届出があった。その後協議を行い、施主の池田謙三氏及び地主の吉岡四良氏の承諾を得て、試掘調査を実施するに至った。



第22図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区位置図（1／5,000）

調査経過

発掘調査は、平成18年11月13日から同年11月28日まで実施した。調査地区は遺跡の南東側に当たる。当初、調査地区内に、2箇所の試掘坑（西側を第1トレンチ、東側を第2トレンチ）を設定した。試掘坑全域より、遺構・遺物を確認した。このため、調査地区北側で2箇所のトレンチを連結させ、可能な限り範囲の確認に努めた。表土除去はバックフォーを使って行い、場内に積み上げた。その後、遺構の検出、確認、記録の作成を行った。また、遺構は検出面での確認に止め、一部の遺構は部分的に掘り下げ、内容の把握を行った。調査対象面積は661㎡、調査面積は210㎡である。

基本層序

基本層序は以下の通りである。

1．第1層　暗褐色粘質土（表土＝耕作土）　約30cm
2．第2層　黒褐色粘質土　約15cm
3．第3層　暗灰色粘質土　約15cm　} 遺物包含層
4．第4層　黄褐色砂質土・青灰色砂質土（基盤層）

検出遺構

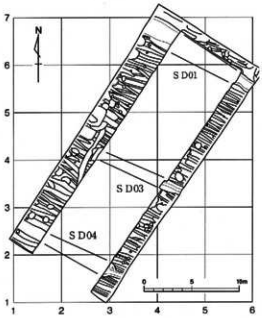
土坑9基（S K01～09）
溝4条（S D01～04）
畝状遺構（S X01）

出土遺物

土器類：土師器、須恵器
土製品：土錘

グリッド

調査地区のグリッドは世界測地系の平面直角座標系の第Ⅶ座標系（原点は北緯36° 00′ 00″、東経137° 10′ 00″）に合わせた。東西をX軸とし、南北をY軸とした。グリッドの左下隅の数値がそのグリッドを表す。X＝1、Y＝1の地点は、原点より、西へ15.540km、北へ80.925km向かった位置である。一辺5m四方を一区画とし、グリッドを割り付け、メッシュを表示した。



第23図　東木津遺跡
泉が丘内科クリニック駐車場地区
全体図（1／400）

Ⅱ 遺　　構

1．土坑

土坑ＳＫ01

第１トレンチ中央（２，５）で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸0.8m、短軸0.6mを測り、南側を撹乱に切られる。

土坑ＳＫ02

第１トレンチ南西（１・２，３）で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸0.9m以上、短軸0.6m以上を測り、北側を畝状遺構ＳＸ01に切られ、西側は調査地区外へ拡がる。

土坑ＳＫ03

第１トレンチ南西（２，３）で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸0.9m、短軸0.6m以上を測り、南西側を畝状遺構ＳＸ01に切られる。

土坑ＳＫ04

第１トレンチ南西（１，２・３）で検出した。平面形は不整楕円形である。規模は長軸0.65m、短軸0.4mを測り、遺構上面を畝状遺構ＳＸ01に切られる。

土坑ＳＫ05

第１トレンチ南西（１，２）で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸0.8m、短軸は0.65mを測り、遺構上面を畝状遺構ＳＸ01に切られる。

土坑ＳＫ06

第１トレンチ南西（１，２）で検出した。平面形は隅丸方形である。規模は長軸0.6m、短軸5.5mを測り、遺構上面を畝状遺構ＳＸ01に切られる。

土坑ＳＫ07

第２トレンチ中央（４，４）で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸0.7m、短軸0.65mを測り、遺構上面を畝状遺構ＳＸ01に切られる。

土坑ＳＫ08

第２トレンチ中央（４，３）で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸1.0m、短軸0.8mを測り、遺構上面を畝状遺構ＳＸ01に切られる。

土坑ＳＫ09

第２トレンチ中央（４，２・３）で検出した。平面形は不整形である。規模は長軸0.9m以上、短軸0.6mを測り、東側は調査地区外へ拡がる。

土坑ＳＫ10

第２トレンチ南（２・３，１）で検出した。平面形は楕円形である。規模は長軸1.6m、短軸0.8m以上、深さ45cmを測る。中央を溝ＳＤ04に切られ、西側は調査地区外へ拡がる。出土遺物は土師器、須恵器である。

2．溝

溝ＳＤ01

第１・第２トレンチの北側で検出した。北西～南東方向に走る溝である。規模は長さ11.8m以上、幅0.7～2.1m、深さ45cmを測る。北西側、南東側は調査地区外へ延びる。出土した遺物は、土師器、須恵器である。図示した遺物は図面43～45－4207、4212、4213、4223、4227、4245、4247、4248、4258、4263、4265、4266である。

溝ＳＤ02

第１トレンチの中央で検出した。南北方向に緩やかに蛇行しながら走る溝である。規模は長さ7.0m以上、幅0.3～0.8mを測る。北側を撹乱と畝状遺構ＳＸ01に切られ、中央ではＳＤ03を切る。南側はトレンチ外へ延びる。

溝ＳＤ03

第１・第２トレンチの中央で検出した。北西～南東方向に走る溝である。規模は長さ10.0m以上、幅0.8～1.2m、深さ40cmを測る。北西側はＳＤ02に切られ、南東側は調査地区外へ延びる。出土した遺物は、土師器、須恵器である。図示した遺物は図面43～46－4102、4215、4228、4234、4250、4260、4262、4271である。

溝ＳＤ04

第１・第２トレンチの南側で検出した。北西～南東方向に走り第２トレンチ東側で真東に屈曲する溝である。規模は長さ11.8m以上、幅0.6～1.2m、深さ45cmを測る。第２トレンチでＳＫ10を切り、北西側、南東側は調査地区外へ延びる。第１トレンチでの土層観察では溝本体を切る形で別の遺構の存在が窺えるが形状が明確にならなかったため、今回は同一の遺構とした。出土した遺物は、土師器、須恵器である。図示した遺物は図面43・44－4105、4214、4220、4243である。

3．畝状遺構

畝状遺構ＳＸ01

調査地区ほぼ全域で検出された。幅30～60cmの小規模な溝が複数、約40～50cm間隔で北西～南西方向に走る。上面が削平を受けていると思われ遺存状態は悪い。

Ⅲ 遺　　物

1．古墳時代の土器類

土師器

器台：図面 43 － 4101。器台の柱状部である。

高杯：図面 43 － 4102。高杯の柱状部である。

壺：図面 43 － 4103。壺の口縁部。摩滅している。

皿：図面 43 － 4104。底部が欠損している。

椀：図面 43 － 4105。内面を黒色に施す。体部内面はヘラ磨き、底部外面はヘラ削り。

2．奈良平安時代の土器類

土師器

皿：図面 43 － 4201。内外面に赤彩を施す。

椀：図面 43 － 4202。外面に赤彩を施す。内面の調整はヘラ磨き。

甕：図面 43 － 4203 ～ 4212。甕の口縁部がほとんどで、全体の形態が判るものがない。4210 は胴部外面に沈線文を有す。

須恵器

杯 A：図面 44 － 4213 ～ 4243。高台の付かない杯である。4224 は口縁部内面に少量の油煙が付く。

杯 B：図面 45 － 4244 ～ 4256。高台の付く杯である。4250 は体部外面にヘラ記号を有す。4251 は内面に降灰物が付着する。

杯蓋：図面 45 － 4257 ～ 4267。つまみが付いているものは 4257 ～ 4264 で、宝珠形のつまみである。

壺：図面 45 － 4268・4269。4268 は短頸壺の口縁から肩部である。内面にはあて具痕がみられ口縁部と体部に自然釉が付着する。

壺蓋：図面 45 － 4270。天井部中央が欠損している。天井部外面には自然釉が付着する。

甕：図面 46 － 4271 ～ 4275。4271 は胴中部以上が残存しており、胴部内面はあて具痕、胴部外面は叩きの後カキ目が施される。4272・4273 は口縁部のみ、4274・4275 は頸部のみが残存する。

3．土製品

土錘：第 24 図－ 4501 ～ 4504。土師質の柱状の土錘である。

Ⅳ 結　　語

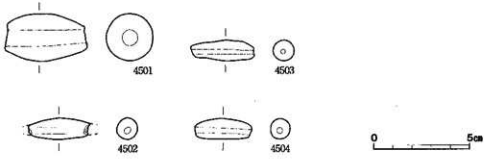
今回の調査地区は当遺跡の中央部南側に当たり、昭和61年度の調査以降数々の発掘調査を実施している。

平成10年度の都市計画道路の調査では、掘立柱建物址、大溝が検出され、奈良平安時代の遺構・遺物を確認している。また多数の木製品と共に祭祀具が出土しており、官衙的な性格が窺われる拠点的な集落とされている。平成11年度にも前年度調査地区の南側と北東側で調査を実施、５棟の掘立柱建物址、櫓址などの遺構、墨書土器や祭祀具等の遺物の確認がされている。平成16年度の調査は、今回の調査地区東側に隣接する箇所で実施された。遺構は、溝、畝状遺構を中心に検出された。遺物は古墳時代の土師器、古代の土師器、須恵器の他、中世の土師器、珠洲等が出土している。全体として奈良平安時代を中心とする遺構・遺物が確認されている。

今回の調査で検出した遺構は土坑、溝、畝状遺構である。土坑の中には掘立柱建物址や櫓址の掘り方の一つになる可能性が考えられたが、並びが不明確のうえ断割りを行っていないため今回は土坑とした。また溝３条がほぼ同じ方向に走り、ＳＤ01・03間は約14m、ＳＤ03・04間は約10mを測る。性格は明確ではないが何らかの区画の意図が考えられる。

出土遺物は、奈良平安時代の遺物が大半を占めているが、わずかであるが古墳時代の土師器が出土している。平成９年度の丹波地区の調査でも做製縄の出土が確認されており、この時期の遺構・遺物についても存在している可能性がある。また近隣の調査において、中世の遺構・遺物も確認されているが、今回の調査地区からは、この時期の遺物は確認出来なかった。

今回の調査地区は、平成10年の東木津遺跡における調査より約200m南側に当たる。今回、遺構・遺物を多数確認したことにより、南側への集落の拡がりを確認することが出来た。



第24図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　土錘実測図（１／２）

5．その他の調査地区

その他の調査地区　目次

1．古定塚遺跡積水ハウス地区 …… 45
2．越中国府関連遺跡森の祭典地区 …… 46
3．越中国府関連遺跡ロクショウ２地区 …… 47
4．江尻Ａ遺跡高伏町区画整理地区 …… 48
5．越中国府関連遺跡佐野地区 …… 49
6．下佐野遺跡堀地所・広瀬エステート企画地区 …… 50
7．石塚蜷保遺跡平島地区 …… 51
8．石塚遺跡吉本地区 …… 52
9．出来田南遺跡レオパレス21地区 …… 53
10．中曽根遺跡区画整理事務所地区 …… 54
11．山川ウシロダン遺跡不燃物処理場地区 …… 55
12．下石瀬遺跡楠地区 …… 56
13．岩坪岡田島遺跡山口地区 …… 57
14．上蓑中田遺跡川堰地区 …… 58
15．石塚遺跡大田２地区 …… 59
16．越中国府関連遺跡伏木配水池地区 …… 60
17．山園町遺跡谷内（２）小規模急傾斜地区 …… 61
18．上北島遺跡中部地所地区 …… 62
19．石塚遺跡文苑堂駐車場地区 …… 63
20．中曽根遺跡区画整理地区 …… 64

調査地区一覧表

No	遺跡名	調査地区名	所在地	対象面積	発掘面積	調査期間
1	古定塚遺跡	積水ハウス地区	高岡市中川１丁目103－１	1,206㎡	36㎡	060403
2	越中国府関連遺跡	森の祭典地区	高岡市伏木一宮字大平２－１他	1,200㎡	213㎡	060404～060407
3	越中国府関連遺跡	ロクショウ２地区	高岡市伏木古府元町430－６	565㎡	26㎡	060412
4	江尻Ａ遺跡	高伏町区画整理地区	高岡市江尻字村中455－１他	750㎡	20㎡	060413
5	越中国府関連遺跡	佐野地区	高岡市伏木東一宮20－26	244㎡	14㎡	060418
6	下佐野遺跡	堀地所・広瀬エステート企画地区	高岡市佐野906－１他	2,160㎡	188㎡	060424～060509
7	石塚蜻保遺跡	平島地区	高岡市石塚310番地	1,000㎡	112㎡	060509～060515
8	石塚遺跡	吉本地区	高岡市石塚177番地	688㎡	9㎡	060522
9	出来田南遺跡	レオパレス21地区	高岡市深沢83番１	995㎡	120㎡	060619
10	中曽根遺跡	区画整理事務所地区	高岡市中曽根779番１	995㎡	179㎡	060703～060710
11	山川ウシロダン遺跡	不燃物処理場地区	高岡市五十辺笹波665番他	12,900㎡	319㎡	060821～060901
12	下石瀬遺跡	楠地区	高岡市石瀬577番２	270㎡	50㎡	060914
13	岩坪岡田島遺跡	山口地区	高岡市国吉1756番１	442㎡	42㎡	060915
14	上蓑中田遺跡	川堰地区	高岡市福岡町上蓑389番１	769㎡	121㎡	060919～060920
15	石塚遺跡	大田２地区	高岡市石塚169番地	271㎡	29㎡	060921
16	越中国府関連遺跡	伏木配水池地区	高岡市一宮知古塚14－２	200㎡	100㎡	060922
17	山園町遺跡	谷内(２)小規模急傾斜地区	高岡市二上字院内大谷48－１	300㎡	30㎡	060925～061006
18	上北島遺跡	中部地所地区	高岡市上北島369－１他	2,421㎡	194㎡	061003～061005
19	石塚遺跡	文苑堂駐車場地区	高岡市和田1052－１	1,122㎡	167㎡	061010～061013
20	中曽根遺跡	区画整理地区	高岡市中曽根210番地　他	7,796㎡	1,139㎡	061017～061117

1．古定塚遺跡
積水ハウス地区

遺跡概観

当「古定塚遺跡」は、高岡市街地の北東側、ＪＲ高岡駅の北東側約1.5kmに位置する。高岡台地の北側に当たり、中川遺跡・入定塚遺跡に隣接している。

基本層序

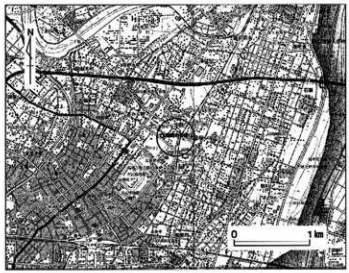
厚さ約30cmの表土（整地層）の下に、厚さ約1.5mの暗灰色粘質土があり、その下層に青灰色砂質土からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

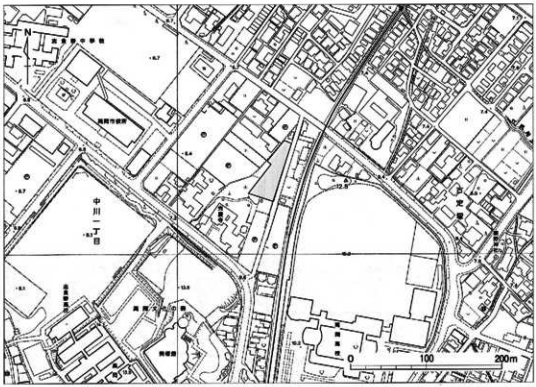
所 在 地：高岡市中川1丁目103－1
対象面積：1,260㎡
発掘面積：36㎡
調査期間：平成18年４月３日
調査原因：共同住宅の建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土しなかった。

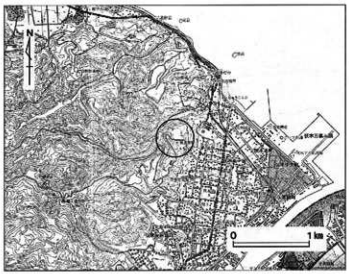


第25図　古定塚遺跡位置図（１／５万）

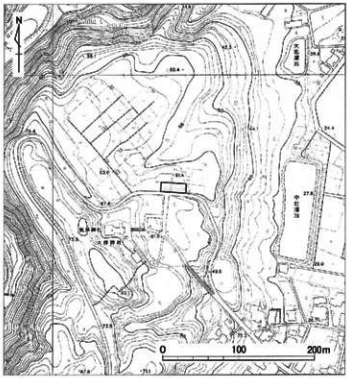


第26図　古定塚遺跡積水ハウス地区位置図（１／5,000）

2．越中国府関連遺跡
森の祭典地区



第27図　越中国府関連遺跡位置図（1／5万）



第28図　越中国府関連遺跡森の祭典地区位置図（1／5,000）

遺跡概観

当「越中国府関連遺跡」は、高岡市街地の北東側、伏木台地一帯に位置する。この「越中国府関連遺跡」と総称している遺跡は、越中国庁跡推定地、県指定史跡越中国分寺跡、越中国分尼寺跡想定地を中心に、これらに関する施設や集落遺跡を含むものである。また、国府以前の古墳や寺院跡、以後の城郭跡等も当地内に存在している。

基本層序

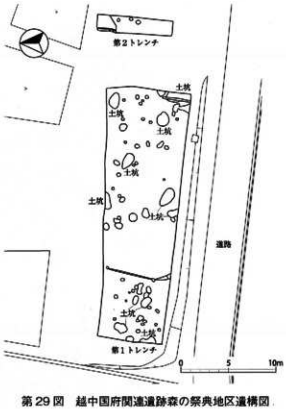
厚さ約20cmの表土の下に、厚さ約10cmの黒褐色粘質土（遺物包含層）があり、その下層に赤褐色粘質土からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

所 在 地：高岡市伏木一宮字大平2－1他
対象面積：1,200㎡
発掘面積：213㎡
調査期間：平成18年4月4日～4月7日
調査原因：苗場整備

調査結果

遺構は土坑、ピットを検出した。
遺物は土師器、須恵器が出土した。



第29図　越中国府関連遺跡森の祭典地区遺構図
（1／400）

3．越中国府関連遺跡
ロクショウ２地区

遺跡概観

当「越中国府関連遺跡」は、高岡市街地の北東側、伏木台地一帯に位置する。この「越中国府関連遺跡」と総称している遺跡は、越中国庁跡推定地、県指定史跡越中国分寺跡、越中国分尼寺跡想定地を中心に、これらに関する施設や集落遺跡を含むものである。また、国府以前の古墳や寺院跡、以後の城郭跡等も当地内に存在している。

基本層序

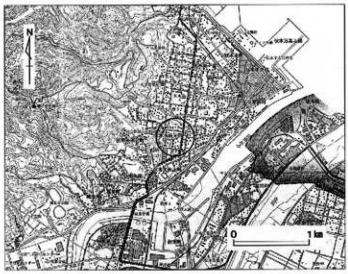
厚さ20cmの表土の下に、厚さ約50cmの黒褐色粘質土（整地層）があり、その下層に赤褐色砂礫からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

所 在 地：高岡市伏木古府元町430－6
対象面積：565㎡
発掘面積：26㎡
調査期間：平成18年４月12日
調査原因：宅地造成

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土しなかった。



第30図　越中国府関連遺跡位置図（1／5万）

第31図　越中国府関連遺跡ロクショウ２地区位置図（1／5,000）

4．江尻Ａ遺跡

高伏町区画整理地区

遺跡概観

当「江尻Ａ遺跡」は、高岡市街地の北北東、ＪＲ高岡駅の北北東約３㎞に位置する。当遺跡周辺は、古くから遺物が出土することで知られており、高岡市史において指摘されている。現在は宅地化が進み、明確に範囲を確認できないが、台地縁辺部と周囲の低地部分を含む箇所に位置すると想定されている。

基本層序

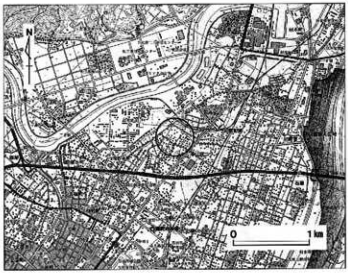
厚さ約30㎝の表土（耕作土）の下に、厚さ約10㎝の暗灰色粘質土があり、その下層に赤褐色粘質土からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

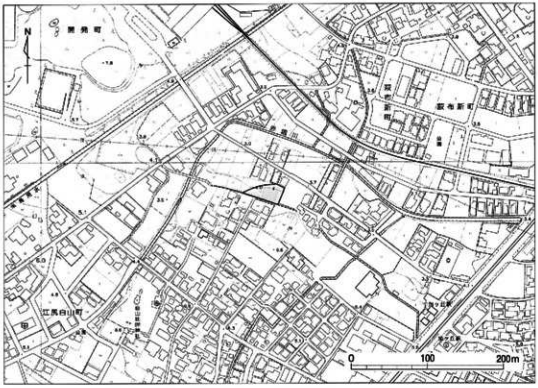
所 在 地：高岡市江尻字村中455－１他
対象面積：750㎡
発掘面積：20㎡
調査期間：平成18年４月13日
調査原因：区画整理

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土しなかった。



第32図　江尻Ａ遺跡位置図（１／５万）



第33図　江尻Ａ遺跡高伏町区画整理地区位置図（１／5,000）

5．越中国府関連遺跡

佐野地区

遺跡概観

当「越中国府関連遺跡」は、高岡市街地の北東側、伏木台地一帯に位置する。この「越中国府関連遺跡」と総称している遺跡は、越中国庁跡推定地、県指定史跡越中国分寺跡、越中国分尼寺跡想定地を中心に、これらに関する施設や集落遺跡を含むものである。また、国府以前の古墳や寺院跡、以後の城郭跡等も当地内に存在している。

基本層序

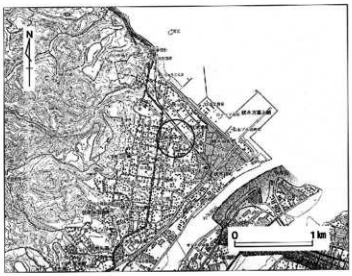
厚さ約20cmの表土（盛土）の下に、厚さ約30cmの黒褐色粘質土（整地層）がある。その下層に青灰色粘土、赤褐色粘質土からなる地山（基盤層）がある。

遺跡概要

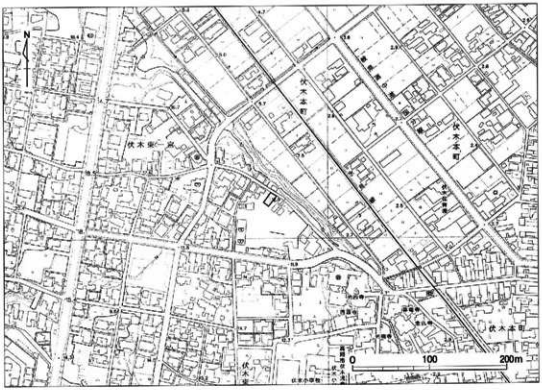
所 在 地：高岡市伏木東一宮20－26
対象面積：244㎡
発掘面積：14㎡
調査期間：平成18年4月18日
調査原因：個人住宅建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土しなかった。



第34図　越中国府関連遺跡位置図（1／5万）



第35図　越中国府関連遺跡佐野地区位置図（1／5,000）

6．下佐野遺跡

堀地所・広瀬エステート企画地区

遺跡概観

当「下佐野遺跡」は、高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅の南西側約2.5㎞に位置する。庄川の形成した扇状地の末端、佐野台地の縁辺部に当たる。遺跡の東側には千保川、西側には和田川が流れる。

基本層序

厚さ約80㎝の整地層の下に、厚さ約20㎝の暗灰色粘質土の旧表土があり、その下に青灰色砂質土からなる地山（基盤層）がある。

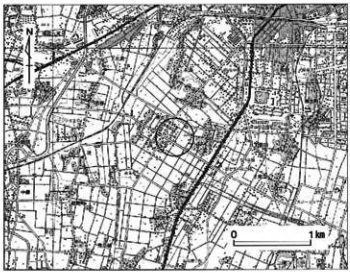
調査概要

所 在 地：高岡市佐野906－１他
対象面積：2,160㎡
発掘面積：188㎡
調査期間：平成18年４月24日～５月９日
調査原因：宅地造成

調査結果

遺構は土坑、溝を検出した。遺物は土師器、須恵器が出土した。

後日、本調査を実施した。



第36図　下佐野遺跡位置図（１／５万）

第37図　下佐野遺跡堀地所・広瀬エステート企画地区位置図（１／5,000）

7．石塚蜻保遺跡

平島地区

遺跡概観

当「石塚蜻保遺跡」は、高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅の西南西約3.6kmに位置する。北西側は祖父川が流れる。遺跡の東側は主要地方道高岡環状線（戸出高岡線）が南北に走る。北東側には石塚遺跡が存在する。

基本層序

厚さ約20cmの表土（耕作土）の下に、厚さ約5～10cmの灰色粘質土があり、その下層に黒褐色粘質土がある。淡灰色砂質土、赤褐色粘質土からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

所 在 地：高岡市石塚310番地

対象面積：1,000㎡

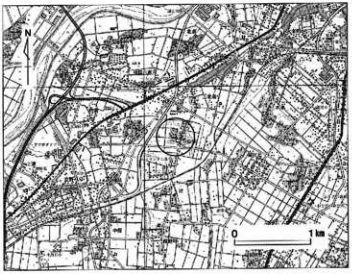
発掘面積：112㎡

調査期間：平成18年５月９日～５月15日

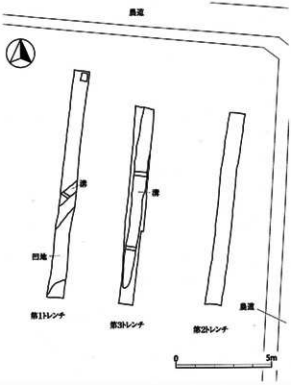
調査原因：個人住宅の建設

調査結果

遺構は溝、凹地を検出した。遺物は土師器、須恵器、珠洲、中近世陶磁器が出土した。



第38図　石塚蜻保遺跡位置図（１／５万）

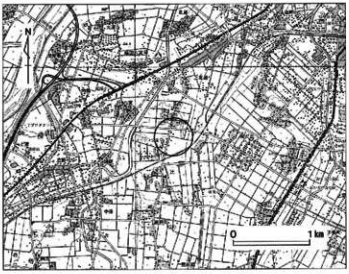


第40図　石塚蜻保遺跡平島地区遺構図（１／200）

第39図　石塚蜻保遺跡平島地区位置図（１／5,000）

8．石塚遺跡

吉本地区



第41図　石塚遺跡位置図（1／5万）

遺跡概観

当「石塚遺跡」は、高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅の西南西約3kmに位置する。庄川の形成した扇状地の末端、佐野台地の縁辺部に当たる。遺跡の東側には和田川、西側には祖父川が流れ、これらに囲まれた標高約11mを測る微高地上に位置する。当遺跡は弥生時代の集落遺跡として、県西部において代表的な遺跡として知られる。

基本層序

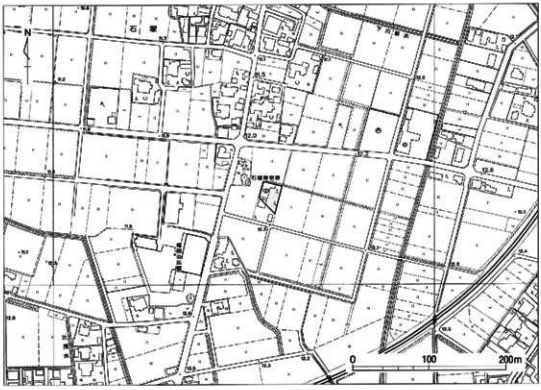
厚さ約20cmの表土の下に、厚さ約50～60cmの淡灰色砂（盛土層）、厚さ約20cmの暗灰色粘質土（旧表土）がある。その下層に青灰色砂質土からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

所在地：高岡市石塚177番地
対象面積：688㎡
発掘面積：９㎡
調査期間：平成18年５月22日
調査原因：倉庫の建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土しなかった。



第42図　石塚遺跡吉本地区位置図（1／5,000）

9．出来田南遺跡
レオパレス21地区

遺跡概観

当「出来田南遺跡」は、高岡市街地の南東郊、ＪＲ高岡駅の南東約1.7㎞に位置する。東側には庄川が流れ、北西側には地久子川が流れる。これらに囲まれた標高8.5ｍを測る沖積低地である。遺跡の立地する地形は庄川へ向かって段差を持って落ち込む。

基本層序

厚さ約20㎝の表土（耕作土）の下に、黄褐色砂質土からなる地山（基盤層）がある。

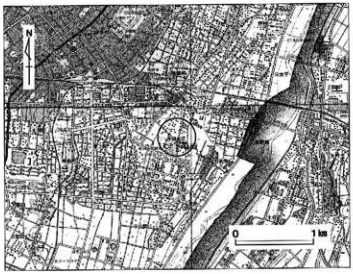
調査概要

所 在 地：高岡市深沢83番１
対象面積：995㎡
発掘面積：120㎡
調査期間：平成18年６月19日
調査原因：共同住宅の建設

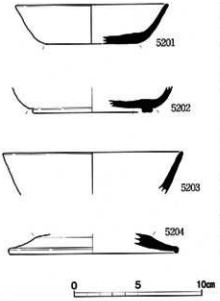
調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は土師器、須恵器、越中瀬戸が出土した。

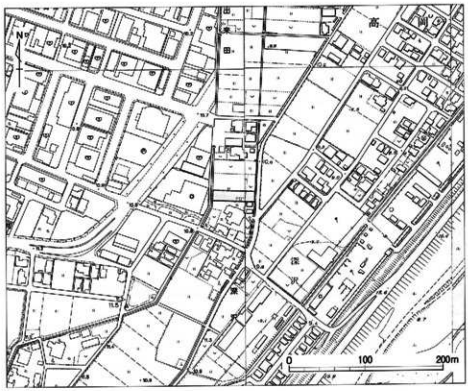
第44図に須恵器を図示した。5201～5203は杯。5204は杯蓋である。



第43図　出来田南遺跡位置図（１／５万）



第44図　遺物実測図（１／３）



第45図　出来田南遺跡レオパレス21地区位置図（１／5,000）

10. 中曽根遺跡
区画整理事務所地区

遺跡概観

当「中曽根遺跡」は、高岡市街地の北東郊、ＪＲ高岡駅の北東約７kmに位置する。周辺は神楽川等の河川が形成した沖積低地が拡がる。旧放生津潟（富山新港）等の低湿地に囲まれた標高１～２mの微高地上に位置する。

基本層序

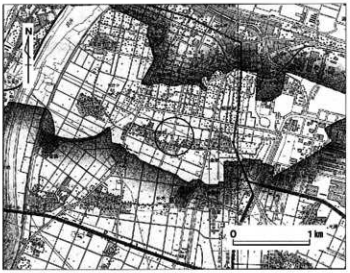
厚さ約20cmの表土（耕作土）の下に、青灰色粘質土からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

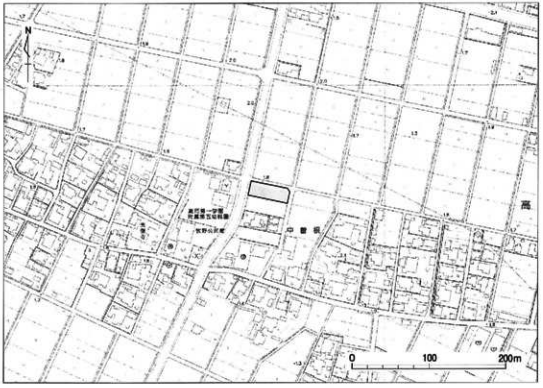
所 在 地：高岡市中曽根779番１
対象面積：995㎡
発掘面積：179㎡
調査期間：平成18年７月３日～７月10日
調査原因：仮設事務所の設置

調査結果

遺構は土坑、溝を検出した。遺物は弥生土器、中近世陶磁器が出土した。



第46図　中曽根遺跡位置図（１／５万）



第47図　中曽根遺跡区画整理事務所地区位置図（１／5,000）

11. 山川ウシロダン遺跡
不燃物処理場地区

遺跡概観

当「山川ウシロダン遺跡」は、高岡市街地の西北西側丘陵部、ＪＲ高岡駅の西北西約10kmに位置する。標高は約100mを測り、氷見市との市境となる北側の丘陵頂上付近には二ツ城跡が存在する。

基本層序

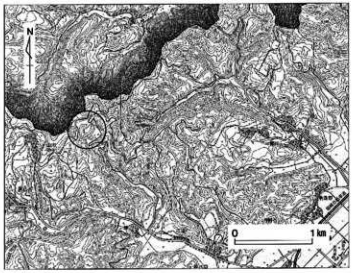
厚さ約20cmの表土下に、厚さ約50～60cmの暗灰色粘質土、厚さ約20cmの茶灰色粘質土がある。その下層に黄褐色砂質土からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

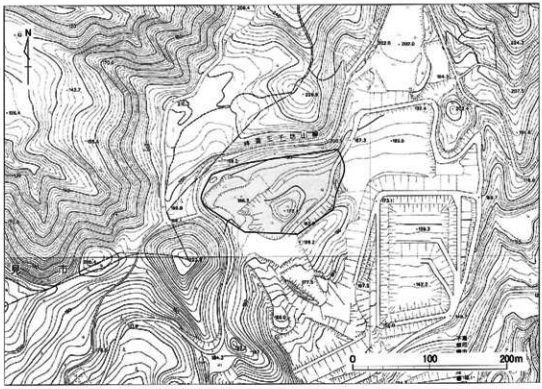
所 在 地：高岡市五十辺笹波665番他
対象面積：12,900㎡
発掘面積：319㎡
調査期間：平成18年８月21日～９月１日
調査原因：不燃物処理場建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は土師器細片５点と須恵器細片１点が出土した。



第48図　山川ウシロダン遺跡位置図（１／５万）



第49図　山川ウシロダン遺跡不燃物処理場地区位置図（１／5,000）

12. 下石瀬遺跡

楠地区

遺跡概要

当「下石瀬遺跡」は、高岡市街地の東北東、ＪＲ高岡駅の東北東側約3.2kmに位置する。昭和47年の富山県遺跡地図に縄文時代の遺跡として記載されている。採集遺物から、縄文時代、古代～中世の遺跡であることが確認された。遺跡北側には下石瀬集落、神明神社がある。南西側には石瀬集落があり、庄川に面した沖積低地にあたる。

基本層序

厚さ約20cmの表土（耕作土）の下に、厚さ約10cmの黄褐色粘質土（以下、基盤層）があり、その下層に黒褐色粘質土、黄褐色粘質土がある。

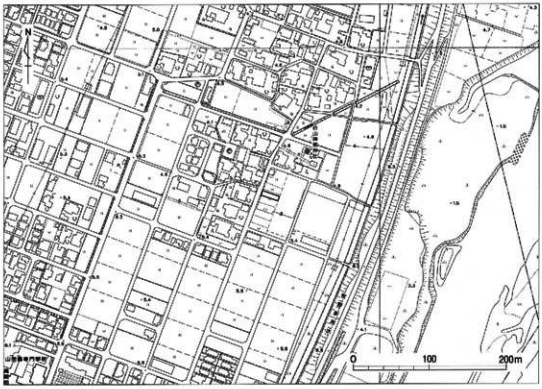
調査概要

所 在 地：高岡市石瀬577番２
対象面積：270㎡
発掘面積：50㎡
調査期間：平成18年９月14日
調査原因：農作業小屋、駐車場建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土しなかった。

第 50 図　下石瀬遺跡位置図（１／５万）



第 51 図　下石瀬遺跡楠地区位置図（１／5,000）

13. 岩坪岡田島遺跡
山口地区

遺跡概観

当「岩坪岡田島遺跡」は、高岡市街地の北西郊、ＪＲ高岡駅の北西約4.6kmに位置する。岩坪集落の北側、岩坪工業団地の南西側に位置する。遺跡の東側を小矢部川が蛇行しながら北流し、北側から西側一帯には西山丘陵が拡がる。古代の北陸道はこの丘陵の山麓を通り伏木の越中国府方向へ走る。近世以降は場所を変えながら山根道となり、小矢部川周辺を通る氷見街道と共に脇街道として利用された。

基本層序

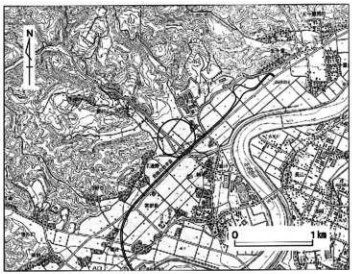
厚さ約20cmの表土（耕作土）の下に、厚さ約20～30cmの黒褐色粘質土がある。その下層に淡灰色粘質土があり、黄褐色粘質土の地山（基盤層）がある。

調査概要

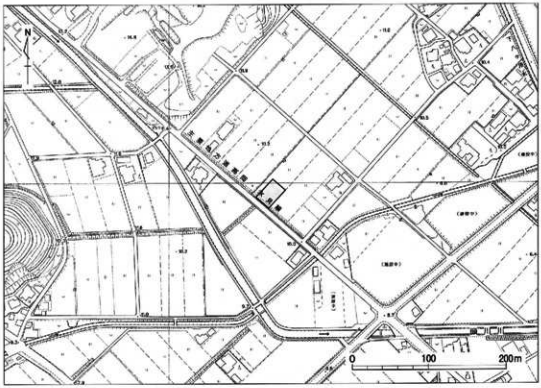
所 在 地：高岡市国吉1756番１
対象面積：442㎡
発掘面積：42㎡
調査期間：平成18年９月15日
調査原因：個人住宅建設

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土しなかった。



第52図　岩坪岡田島遺跡位置図（１／５万）



第53図　岩坪岡田島遺跡山口地区位置図（１／5,000）

14. 上蓑中田遺跡

川堰地区

遺跡概観

当「上蓑中田遺跡」は、旧福岡町中心部の南側、JR福岡駅の南約1kmに位置する。

基本層序

厚さ約20cmの表土（耕作土）の下に、灰白色砂質土（基盤層）がある。

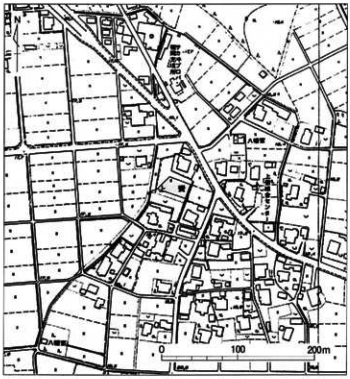
調査概要

所 在 地：高岡市福岡町上蓑389番1
対象面積：769㎡
発掘面積：121㎡
調査期間：平成18年9月19日～9月20日
調査原因：店舗建設

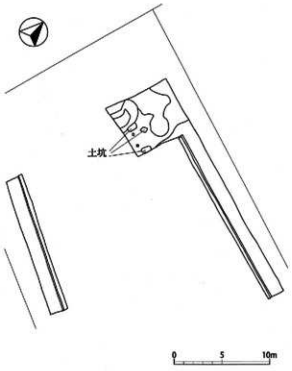
調査結果

遺構は土坑、凹地を検出した。遺物は土師器、珠洲が出土した。

第54図　上蓑中田遺跡位置図（1／5万）



第55図　上蓑中田遺跡川堰地区位置図（1／5,000）



第56図　上蓑中田遺跡川堰地区遺構図（1／400）

15. 石塚遺跡
大田２地区

遺跡概観

当「石塚遺跡」は、高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅の西南西約３kmに位置する。庄川の形成した扇状地の末端、佐野台地の縁辺部に当たる。遺跡の東側には和田川、西側には祖父川が流れ、これらに囲まれた標高約11mを測る微高地上に位置する。当遺跡は弥生時代の集落遺跡として、県西部において代表的な遺跡として知られる。

基本層序

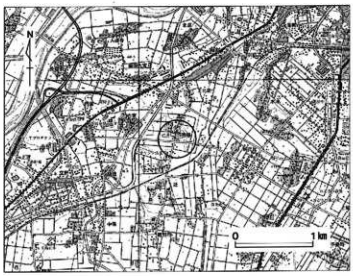
厚さ約20cmの表土の下に、厚さ約50～60cmの淡灰色砂（盛土層）、厚さ約20cmの暗灰色粘質土（旧表土）がある。その下層に青灰色砂質土からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

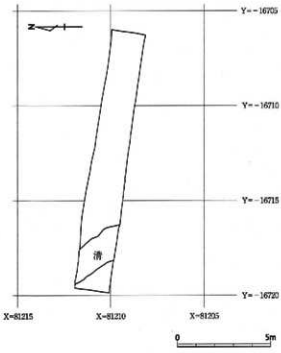
所 在 地：高岡市石塚169番地
対象面積：271㎡
発掘面積：29㎡
調査期間：平成18年９月21日
調査原因：倉庫の建設

調査結果

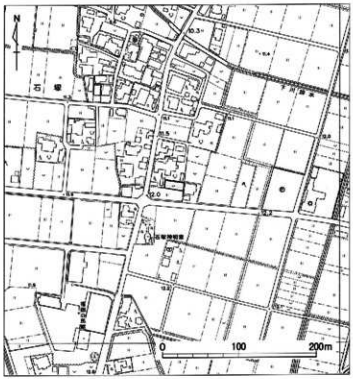
遺構は溝を検出した。遺物は須恵器、中近世陶磁器が出土した。



第57図　石塚遺跡位置図（１／５万）



第59図　石塚遺跡大田２地区遺構図（１／200）



第58図　石塚遺跡大田２地区位置図（１／5,000）

16. 越中国府関連遺跡
伏木配水池地区

遺跡概観

当「越中国府関連遺跡」は、高岡市街地北東側、伏木台地一帯に位置する。この「越中国府関連遺跡」と総称している遺跡は、越中国庁跡推定地、県指定史跡越中国分寺跡、越中国分尼寺跡想定地を中心に、これらに関する施設や集落遺跡を含むものである。また、国府以前の古墳や寺院跡、以後の城郭跡等も当地内に存在している。

基本層序

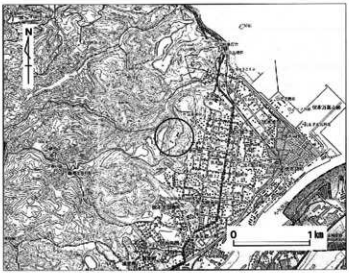
厚さ約20cmの表土の下に、黄褐色粘質土からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

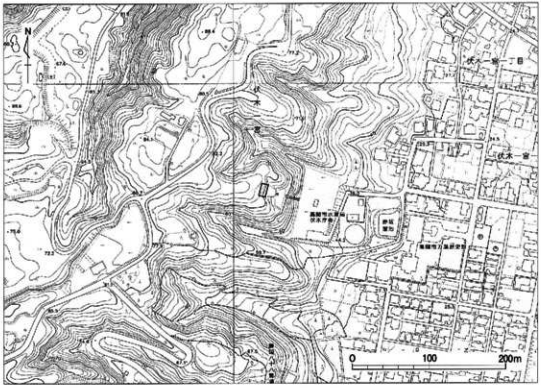
所 在 地：高岡市一宮知古塚14－２
対象面積：200㎡
発掘面積：100㎡
調査期間：平成18年９月22日
調査原因：水道用配水池築造工事

調査結果

遺構は検出されなかった。遺物は出土しなかった。



第60図　越中国府関連遺跡位置図（１／５万）



第61図　越中国府関連遺跡伏木配水池地区位置図（１／5,000）

17. 山園町遺跡
谷内（2）小規模急傾斜地区

遺跡概観

当「山園町遺跡」は二上山の南麓、ＪＲ高岡駅の北北東約3.6kmに位置する。二上山南麓の中央部にある丘陵地と、その開折谷からなり、中央部奥の丘陵には射水神社の摂社、院内社が鎮座している。丘陵地上部には古墳が確認され、斜面末端部には中世から形成されたと思われる集落が展開されている。また当遺跡が存在する二上丘陵には鳥越古墳群、院内古墳群、院内東横穴墓等といった遺跡が数多く確認されている。

基本層序

厚さ約20cmの表土の下に、厚さ約10～50cmの淡灰色泥岩と砂質土、黄褐色粘質土の混土層がある。その下に黄褐色粘質土からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

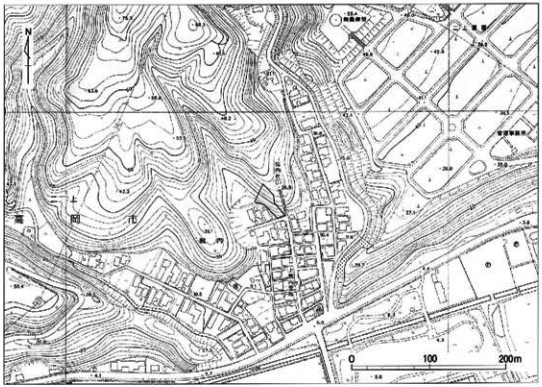
所 在 地：高岡市二上字院内大谷48－１
対象面積：300㎡
調査面積：30㎡
調査期間：平成18年９月25日～10月６日
調査原因：急傾斜地崩壊防止工事

調査結果

遺構は横穴状の遺構を検出した。遺物は土師器、須恵器、珠洲、砥石が出土した。

平成19年度に本発掘調査を実施した。

第62図　山園町遺跡位置図（１／５万）



第63図　山園町遺跡谷内（２）小規模急傾斜地区位置図（１／5,000）

18. 上北島遺跡
中部地所地区

遺跡概観

当「上北島遺跡」は、高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅の西南西約３kmに位置する。北側を国道８号線や旧北陸道である一般地方道立野鴨島線が南西から北東方向に走り、和田集落が沿線沿いに位置する。西側を祖父川が北流し、主要地方道高岡環状線が走る。

基本層序

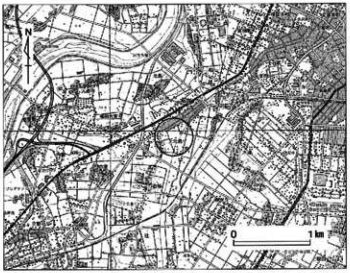
厚さ約20cmの表土の下に、厚さ約50cm～60cmの淡灰色砂（盛土層）、厚さ約20cmの暗灰色粘質土（旧表土）がある。その下層に青灰色砂質土からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

所 在 地：高岡市上北島369－１他
対象面積：2,421㎡
調査面積：194㎡
調査期間：平成18年10月３日～10月５日
調査原因：宅地造成

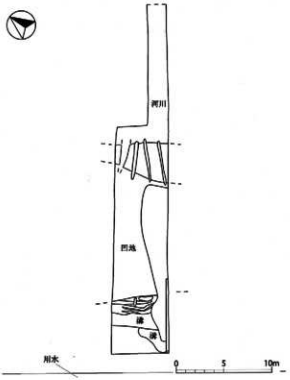
調査結果

遺構は溝、凹地を検出した。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、白磁、青磁、越中瀬戸が出土した。



第64図　上北島遺跡位置図（１／５万）

第65図　上北島遺跡中部地所地区位置図（１／5,000）



第66図　上北島遺跡中部地所地区遺構図（１／400）

19. 石塚遺跡
文苑堂駐車場地区

遺跡概観

当「石塚遺跡」は、高岡市街地の南西郊、ＪＲ高岡駅の西南西約３kmに位置する。庄川の形成した扇状地の末端、佐野台地の縁辺部に当たる。遺跡の東側には和田川、西側には祖父川が流れ、これらに囲まれた標高約11mを測る微高地上に位置する。当遺跡は弥生時代の集落遺跡として、県西部において代表的な遺跡として知られる。

基本層序

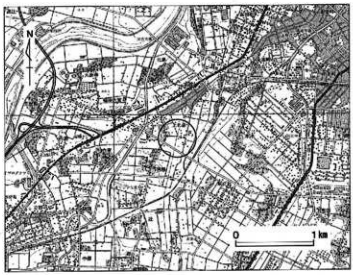
厚さ約20cmの表土の下に、厚さ約20cmの黒褐色粘質土（遺物包含層）がある。その下層に青灰色砂質土からなる地山（基盤層）がある。

調査概要

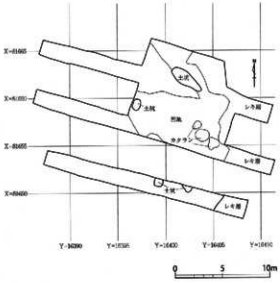
所 在 地：高岡市和田1052－１
対象面積：1,122㎡
発掘面積：167㎡
調査期間：平成18年10月10日～10月13日
調査原因：駐車場建設

調査結果

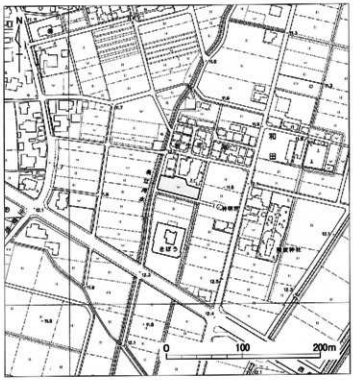
遺構は土坑、凹地を検出した。遺物は弥生土器、土師器、須恵器が出土した。



第67図　石塚遺跡位置図（１／５万）



第69図　石塚遺跡文苑堂駐車場地区遺構図
（１／400）



第68図　石塚遺跡文苑堂駐車場地区位置図（１／5,000）

20. 中曽根遺跡
区画整理地区

遺跡概観

当「中曽根遺跡」は、高岡市街地の北東郊、ＪＲ高岡駅の北東約７kmに位置する。周辺は神楽川等の河川が形成した沖積低地が拡がる。旧放生津潟（富山新港）等の低湿地に囲まれた標高１～２mの微高地上に位置する。

基本層序

厚さ約20cmの表土（耕作土）の下に、青灰色粘質土からなる地山（基盤層）がある。

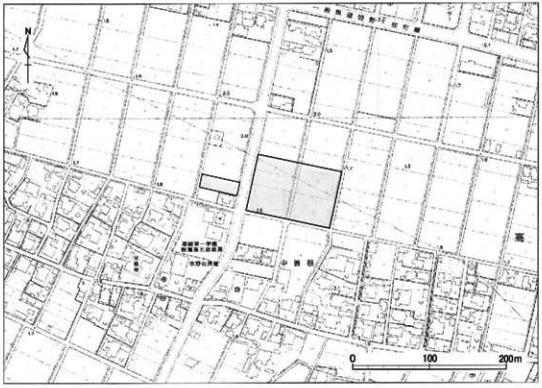
調査概要

所 在 地：高岡市中曽根210番地　他
対象面積：7,796㎡
発掘面積：1,139㎡
調査期間：平成18年10月17日～11月17日
調査原因：土地区画整理事業

調査結果

遺構は溝を検出した。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、珠洲が出土した。

第70図　中曽根遺跡位置図（1／5万）



第71図　中曽根遺跡区画整理地区位置図（1／5,000）

別　表　2　　土器観察表

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
1．越中国府関連遺跡、オダケホーム2地区					
1101	21	土師器・杯	14.8	平底気味の底部から、口縁部は直立気味に立ち上がる。	S　K
1102	21	土師器・杯	14.7	平底で、口縁部は直立する。体部外面はナデ。	S I 04
1103	21	土師器・杯	14.2	底部欠損。口縁部は内弯する。	S I 04
1104	21	土師器・杯	13.7	丸底で、口縁部は短く外反。外面はナデと指押さえ、内面はヘラ磨き。	S I 04
1105	21	土師器・杯	13.4	楕円形を呈し、最大径は 14.4 cm。平底。口縁部は直立する。	S I 06
1106	21	土師器・杯	13.3	丸底で、口縁部は直立する。外面はナデ、内面はヘラ磨き。	S I 04
1107	21	土師器・杯	12.6	平底で、口縁部内弯。外面ナデと指頭痕、内面はヘラ磨きと刷毛目。	S I 06
1108	21	土師器・杯	－	口端部欠損。平底で、口縁部は直立気味に立ち上がる。	S I 04
1109	21	土師器・杯	13.1	丸底で、口縁部は外傾する。内面はヘラ磨き。内面黒色処理。	S I 04
1110	21	土師器・杯	13.9	底部欠損。口縁部は外傾する。	S I 04
1111	21	土師器・台付杯	14.4	口縁部は外反する。杯部の外面ナデ、内面はヘラ磨き。内面黒色処理。	S I 02
1112	21	土師器・台付杯	19.1	杯部外面は刷毛目とナデ、内面はヘラ磨きと刷毛目。内面黒色処理。	S I 06
1113	21	土師器・台付杯	16.9	口縁部は外反する。杯部内面黒色処理。	S I 06
1114	21	土師器・台付杯	15.3	口縁部は外反する。杯部内面はヘラ磨き。内面黒色処理。	S I 06
1115	21	土師器・台付杯	14.8	口縁部は短く外傾。杯部外面はナデ、内面はヘラ磨き。内面黒色処理。	S　K
1116	21	土師器・台付杯	－	杯部欠損。台部の外面はナデ、内面は刷毛目。	S I 06
1117	21	土師器・台付杯	－	杯部欠損。	S I 04
1118	21	土師器・台付杯	－	杯口縁部欠損。	S I 04
1119	22	土師器・高杯	－	脚部と杯口縁部欠損。杯部は体部と底部の境に稜をもつ。	S K11
1120	22	土師器・高杯	－	屈折脚。脚部の外面は赤彩、内面は刷毛目及びナデと指頭痕。	S K11
1121	22	土師器・高杯	－	屈折脚。脚部の外面はナデ、内面はヘラナデと指頭痕。	S K11
1122	22	土師器・鉢	4.6	器高 4.2 cmの小型土器。内面はナデ。	S I 05
1123	22	土師器・鉢	21.8	口縁部は直線的に開く。胴部外面は刷毛目。	S I 04
1124	22	土師器・鉢	15.6	口縁部は直線的に開く。	S I 04
1125	22	土師器・鉢	28.7	膨らみのない胴部。口縁部は外反する。胴部内面は刷毛目。	S I 04
1126	22	土師器・鉢	26.6	膨らみのない胴部。口縁部は外反する。内外面ともに刷毛目と指頭痕。	S I 03
1127	22	土師器・鉢	－	把手部のみ残存。	確認面
1128	22	土師器・壺	7.9	丸底。胴部外面はナデと刷毛目、内面ナデ。底部外面はナデと指頭痕。	S I 08
1129	22	土師器・壺	6.8	底部欠損。外面はナデ。	S I 08
1130	22	土師器・壺	－	底部は小さな平底。	S　K
1131	23	土師器・甕	－	胴部外面は刷毛目。内面の口縁部は刷毛目、胴部はヘラ削り。	S I 04
1132	23	土師器・甕	20.8	胴部は大きく膨らみ、口縁部は外反する。	S I 04
1133	23	土師器・甕	19.7	口縁部は外反する。	S　K
1134	23	土師器・甕	19.1	口縁部は外反する。胴部は内外面とも刷毛目。	S I 08
1135	23	土師器・甕	18.0	口縁部は強く外反する。	S I 04
1136	23	土師器・甕	18.0	口縁部は外傾気味に開く。胴部の外面は刷毛目、内面はナデ。	S I 04
1137	23	土師器・甕	16.0	口縁部は外反。胴部外面と頸部内面は刷毛目。胴部内面は刷毛状具。	確認面
1138	24	土師器・甕	16.0	口縁部は外反する。胴部の内面は刷毛目。1139 と同一個体。	S I 04

番号	図版	種　類	口径	特　徴	出土位置
1139	24	土師器・甕	－	胴部は内外面とも刷毛目。1138と同一個体。	S I 04
1140	24	土師器・甕	15.9	口縁部外反する。胴部外面は刷毛目、内面は粘土紐積み上げ底とナデ。	S　K
1141	24	土師器・甕	18.4	外面は胴部刷毛目と底部ナデ、内面は口頸部刷毛目と胴部ヘラ削り。	S I 07
1142	24	土師器・甕	16.0	外面は胴部刷毛目と指頭痕、内面は頸部刷毛目と胴部ヘラ削り。	S I 04
1143	24	土師器・甕	14.5	外面は刷毛目と指頭痕、内面は刷毛目。頸部外面に円形粘土板貼付。	S　K
1144	24	土師器・甕	14.4	外面はヘラ削りと刷毛目、内面は刷毛状具。胴部外面に煤付着。	S I 04
1145	24	土師器・甕	11.8	口縁部は外傾して立ち上がる。	S I 04
1146	24	土師器・甕	15.0	胴部は外面刷毛目、内面は刷毛状具。	S I 11
1147	23	土師器・甕	18.6	胴部外面は刷毛目とヘラ削り。内面は胴部刷毛目、頸部ナデと指頭痕。	S K11
1148	23	土師器・甕	－	丸底気味の底部。内面の胴部から底部は刷毛目。	S I 04
1149	25	須恵器・杯身	10.2	底部はヘラ削り。	S I 06
1150	25	須恵器・杯蓋	15.0	口縁部は横ナデ。体部外面の稜は不明瞭。	S I 04
1151	25	須恵器・杯蓋	14.8	天井部はヘラ削り。体部外面は凹線状に稜を表現。焼成不良。	確認面
1152	25	須恵器・杯蓋	14.7	体部外面の稜は不明瞭。	確認面
1153	25	須恵器・杯蓋	14.0	天井部はヘラ削り。天井部外面にヘラ記号「×」。	確認面
1154	25	須恵器・杯蓋	13.9	天井部はヘラ削り。体部外面は凹線状に稜を表現。砂礫多く含む。	S I 11
1155	25	須恵器・杯蓋	13.9	体部外面の稜は不明瞭。	S I 02
1156	25	須恵器・杯蓋	13.1	体部外面の稜は不明瞭。	S I 04
1157	25	須恵器・杯蓋	13.0	体部外面の稜は不明瞭。	確認面
1158	25	須恵器・杯蓋	12.8	天井部はヘラ削り。体部外面は凹線状に稜を表現。	S I 04
1159	25	須恵器・杯蓋	12.0	天井部はヘラ削りだが、器壁厚く残す。砂礫多く含む。	確認面
1160	25	須恵器・杯蓋	－	天井部はヘラ削り。体部外面の稜は不明瞭。	確認面
1161	25	須恵器・高杯	9.7	無蓋高杯の杯部残存。外面に波状文。内面に自然釉。	S I 06
1162	25	須恵器・高杯	－	無蓋高杯の杯部残存。	S I 04
1163	25	須恵器・壺	7.2	外面の胴部下半は手持ちヘラ削り。	S I 04・05
1164	25	須恵器・瓶	－	外面胴部下半は回転ヘラ削り。外面肩部に凹線と自然釉。	S I 01
1165	25	須恵器・甕	18.0	口縁部外面はカキ目。	確認面
1166	25	須恵器・甕	16.2	口端部は上方へ突出する。	確認面
1167	25	須恵器・甕	14.0	口縁部外面はカキ目。	確認面
1168	25	須恵器・壺	－	胴部下半の外面はヘラ削り。	確認面
1169	25	須恵器・壺	－	胴部下端の外面はヘラ削り、胴部下半の内面はカキ目。外面に自然釉。	表　採
1170	25	須恵器・壺	－	胴部下半の外面はヘラ削り、内面はナデ。	S I 09
1201	25	土師器・杯	18.0	内面はヘラ磨きと黒色処理。	S K03
1202	25	土師器・杯	13.2	体部の外面はナデ。内面はヘラ磨き。	S K03
1203	25	土師器・杯	12.2	底部は回転糸切り。	S K03
1204	25	土師器・椀	－	内面はヘラ磨きと黒色処理。底部外面にヘラ記号。	S K09
1205	26	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り、無調整。	S I 01
1206	26	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り、無調整。底部内面はナデ。	確認面
1207	26	須恵器・杯A	11.3	底部はヘラ切り、無調整。口縁部内面に油煙付着。	S I 05 覆土
1208	26	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り、無調整。	確認面
1209	26	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り、無調整。	S I 01
1210	26	須恵器・杯A	－	底部はヘラ切り、無調整。底部内面はナデ。	S K09
1211	26	須恵器・杯B	15.6	底部はヘラ切り、無調整。底部内面はナデ。外面に自然釉。	S I 01
1212	26	須恵器・杯B	13.6	底部はヘラ切り、無調整。底部内面はナデ。	確認面

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
1213	26	須恵器・杯B	13.6	底部欠損。	確認面
1214	26	須恵器・杯B	13.0	口縁部は外反する。	SK03
1215	26	須恵器・杯B	11.4	底部はヘラ切り、無調整。内面に自然釉。	SK01
1216	26	須恵器・杯B	11.4	底部はヘラ切り、無調整。内面はナデ。	確認面
1217	26	須恵器・杯B	11.4	底部欠損。	確認面
1218	26	須恵器・杯B	11.3	底部はヘラ切り、無調整。	確認面
1219	26	須恵器・杯B	11.2	底部はヘラ切り、無調整。	S　K
1220	26	須恵器・杯B	10.4	器壁厚い。底部はヘラ切り、無調整。	S104覆土
1221	26	須恵器・杯B	10.4	器壁厚い。底部はヘラ切り、無調整。	確認面
1222	26	須恵器・杯B	－	底部はヘラ切り、無調整。底部内面はナデ。	S　P
1223	26	須恵器・杯B	－	底部はヘラ切り、無調整。	S　D
1224	26	須恵器・杯B	－	底部はヘラ削りされている。底部内面はナデ。	S　P
1225	26	須恵器・蓋	19.0	天井部はヘラ削り。内面はナデ。	SK01
1226	26	須恵器・蓋	17.2	天井部はヘラ切り。内面はナデ。口縁部外面に煮ね焼き痕。	S106覆土
1227	26	須恵器・蓋	17.1	宝珠形つまみがつく。天井部はヘラ削り、内面ナデ。外面に自然釉。	SK01･08･09
1228	26	須恵器・蓋	17.0	天井部はヘラ切り。	確認面
1229	26	須恵器・蓋	16.7	天井部はヘラ切り。内面はナデ。	S106覆土
1230	26	須恵器・蓋	15.1	天井部欠損。	S106覆土
1231	26	須恵器・蓋	14.4	天井部はヘラ切り。砂礫を多く含む。	確認面
1232	26	須恵器・蓋	13.1	内面はナデ。	S　D
1233	26	須恵器・蓋	12.6	宝珠形つまみがつく。内面はナデ。	確認面
1234	26	須恵器・蓋	11.7	天井部はヘラ切り。外面に自然釉。	確認面
1235	26	須恵器・蓋	11.3	内面はナデ。	SK08
2．石塚遺跡、大井2地区					
3101	34	土師器・杯	12.0	内外面はナデ、口縁部は横ナデ。	SX01、7層
3102	34	土師器・杯	11.9	内面と体部外面はナデ、口縁部は横ナデ、底部外面はヘラ状具。	SX01、7層
3103	34	土師器・杯	11.7	内面と口縁部外面は横ナデ。全体的に摩滅。	SX01、7層
3104	34	土師器・杯	11.2	口縁部横ナデ、体下部外面はヘラ削り、それ以外はナデ。	SX01、7層
3105	34	土師器・杯	12.5	底部で指圧により高台を作る。体部外面はヘラ削り。	SX01、7層
3106	34	土師器・杯	15.8	底部欠損。内面と口縁部外面は横ナデ、体部外面はナデ。	SX01、7層
3107	34	土師器・高杯	17.4	杯部に強い稜が付く。脚部内面はヘラナデ、刷毛目・ヘラ磨き。	SX01、7層
3108	34	土師器・高杯	15.8	杯部に稜が付き、杯部がゆがんでいる。調整は刷毛目・ヘラ削り等。	SX01、7層
3109	34	土師器・高杯	15.5	杯部に稜が付く。調整はヘラナデ・ヘラ磨き・刷毛目等。	SX01、7層
3110	34	土師器・高杯	15.2	杯部に丸みがある。脚部内面はヘラナデ、外面は刷毛目・ヘラ磨き。	SX01、7層
3111	34	土師器・高杯	14.8	杯部に丸みがある。脚柱状部外面はヘラ磨き、脚末端部は横ナデ。	SX01、7層
3112	34	土師器・高杯	26.8	高杯の杯部で摩滅している。杯部内面は刷毛目。	SX01、7層
3113	34	土師器・高杯	26.0	高杯の杯部で有段を持つ。調整は部刷毛目・ヘラ磨き・横ナデ。	SX01、7層
3114	34	土師器・高杯	20.2	高杯の杯部。体部内外面は刷毛目、口縁部は横ナデ。	SX01、7層
3115	34	土師器・高杯	16.6	高杯の杯部。内面は刷毛目、外面はナデ・ヘラナデ・刷毛目。	SX01、7層
3116	34	土師器・高杯	16.0	高杯の杯部。体部内面はヘラ磨き・刷毛目、口縁部と外面は横ナデ。	SX01、7層
3117	34	土師器・高杯	15.6	高杯の杯部。内面はヘラ磨き、外面はヘラ削り・刷毛目・ナデ等。	SX01、7層
3118	35	土師器・高杯	20.0	高杯の杯部。体下部はナデ、それ以外は横ナデ。	SX01、7層
3119	35	土師器・高杯	20.6	高杯の杯部。内外面は刷毛目、ヘラ磨き。	SX01、7層
3120	35	土師器・高杯	22.0	高杯の杯部。大きく摩滅している。	SX01、7層
3121	35	土師器・高杯	—	高杯の杯部。内外面は刷毛状具主体。	SX01、7層

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
3122	35	土師器・高杯	—	小型の高杯。脚柱状上部と杯底部が残存。調整はナデ・刷毛目。	SX01、7層
3123	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。柱状部内面はヘラ削り、外面はヘラ磨き、末端部横ナデ。	SX01、7層
3124	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。柱状部内面はナデ・刷毛目、外面は刷毛目。	SX01、7層
3125	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。柱状部内面はナデ、外面はヘラ磨き、末端部は横ナデ。	SX01、7層
3126	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。柱状部内面はヘラ状具、外面はナデ、末端部は横ナデ。	SX01、7層
3127	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。柱状部内面はナデ・刷毛目、外面はヘラ磨き。	SX01、7層
3128	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。全体的に摩滅。調整はヘラナデ・ヘラ状具・指圧等	SX01、7層
3129	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。柱状部内面横ナデ・刷毛目、外面はヘラナデ・ヘラ磨き。	SX01、7層
3130	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。全体的に摩滅。柱状部内面はナデ。	SX01、7層
3131	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。全体的に摩滅。柱状部内面はナデ。	SX01、7層
3132	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。柱状部と端上部が残存。調整はナデ・ヘラ磨き等。	SX01、7層
3133	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。全体的に摩滅。調整は不明。	SX01、7層
3134	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。全体的に剥離・摩滅。調整は不明。	SX01、7層
3135	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。柱状部剥離・摩滅。末端部は刷毛目。	SX01、7層
3136	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。柱状部のみ残存。調整はナデ。	SX01、7層
3137	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。脚上部のみ残存。内面はナデ・刷毛目、外面はヘラ磨き。	SX01、7層
3138	35	土師器・高杯	—	高杯の脚部。全体的に摩滅。調整は不明。	SX01、8層
3139	36	土師器・鉢	3.1	鉢形のミニチュア土器。	SX01、7層
3140	36	土師器・壺	8.6	小型丸底壺。底部外面に煤付着。やや長い口縁部を持つ。	SX01、7層
3141	36	土師器・壺	9.9	小型丸底壺。外面に煤付着。口縁部が大きく外方に開く。	SX01、7層
3142	36	土師器・壺	8.4	小型丸底壺。外面に線刻有。胴部はナデ・ヘラ削り等。	SX01、7層
3143	36	土師器・壺	8.6	小型丸底壺。胴部はナデ・指圧・ヘラ削り、頸部は刷毛目。	SX01、7層
3144	36	土師器・壺	9.5	小型丸底壺。胴部内面はナデ・指圧、外面は刷毛目、口縁部横ナデ。	SX01、8層
3145	36	土師器・壺	5.5	小型丸底壺。口縁部が直立気味にあがる。調整はナデ・ヘラ状具等。	SX01、8層
3146	36	土師器・壺	11.6	小型壺。底部欠損。外面に煤付着。胴部ナデ・指圧等、口縁部横ナデ。	SX01、7層
3147	36	土師器・壺	7.6	小型壺。底部欠損。外面に煤付着。口縁部が直立気味にあがる。	SX01、7層
3148	36	土師器・壺	10.2	小型壺。底部欠損。胴部ナデ・指圧、口縁部内面刷毛目、外面横ナデ。	SX01、7層
3149	36	土師器・壺	9.2	小型壺。底部欠損。口唇部に弱く凹線。調整はナデ・刷毛上具等。	SX01、8層
3150	36	土師器・壺	8.5	小型壺。胴下部と底部欠損。胴部はナデ・指圧、口縁部横ナデ。	SX01、7層
3151	36	土師器・壺	—	小型壺。胴部中央より上部欠損。外面に煤付着。	SX01、7層
3152	36	土師器・壺	—	小型壺。胴部中央より上部欠損。内面はナデ・刷毛目、外面刷毛目等。	SX01、7層
3153	36	土師器・壺	15.8	大型壺。胴部より底部が突出した壺。外面が摩滅。調整は刷毛目主体。	SX01、7層
3154	37	土師器・甕	23.0	甕の口縁部から肩部。内面は刷毛状具、外面は刷毛目、口縁部横ナデ。	SX01、7層
3155	37	土師器・甕	20.0	甕の口縁部。調整は刷毛目・横ナデ。	SX01、7層
3156	37	土師器・甕	19.7	緩長球形の胴部に短い口縁部が外反して外上方に拡がる。	SX01、7層
3157	37	土師器・甕	19.5	胴中央下部以下欠損。調整はヘラ磨き・ヘラ削り・ヘラナデ・ナデ等。	SX01、7層
3158	37	土師器・甕	18.4	縦長球形の胴部に口縁部が外反して外上方に拡がる。外面に煤付着。	SX01、7層
3159	37	土師器・甕	18.2	胴中央部以下欠損。胴部内外面刷毛目、口縁部は横ナデ。	SX01、7層
3160	37	土師器・甕	18.0	胴中央部以下欠損。胴部は刷毛状具、刷毛目、口縁部は横ナデ。	SX01、8層
3161	38	土師器・甕	18.0	胴中央部以下欠損。胴部は刷毛状具、ヘラ削り等、口縁部は横ナデ。	SX01、7層
3162	38	土師器・甕	16.7	胴中央下部以下欠損。外面に煤付着。胴部は刷毛目主体。	SX01、8層
3163	38	土師器・甕	15.6	縦長球形の胴部に短めの口縁部が外反して外上方に拡がる。	SX01、7層
3164	38	土師器・甕	17.7	甕の口縁部。全体的に摩滅。頸部に刻みを有し、胴部内外面は刷毛目。	SX01、7層
3165	38	土師器・甕	15.6	甕の口縁部。頸部内面はナデ・指圧、口縁部は横ナデ。	SX01、7層
3166	38	土師器・甕	15.0	甕の口縁部。内外面は刷毛目、口端部は横ナデ。	SX01、7層

番号	図面	種類	口径	特徴	出土位置
3167	38	土師器・甕	14.7	胴中央部以下欠損。胴部外面に煤付着。調整はヘラ削り・刷毛目等。	S X01、7層
3168	38	土師器・甕	14.9	胴中央部以下欠損。胴部外面に煤付着。調整はナデ・刷毛目等。	S X01、7層
3169	39	土師器・甕	13.8	胴部内外面ナデ主体、底部外面はヘラ削り。	S X01、7層
3170	39	土師器・甕	13.6	口縁部と胴上部が残存。口唇部を指で押さえ整える。	S X01、7層
3171	39	土師器・甕	—	底部に穿孔を有す。胴部外面はヘラ削り等、底部はナデ・指圧。	S X01、8層
3172	39	土師器・甕	—	胴下部と底部が残存。外面に煤付着。調整はナデ・ヘラ削り・刷毛目。	S X01、7層
3173	39	土師器・甕	—	胴下部と底部が残存。内外面共に刷毛目。	S X01、7層
3174	39	土師器・甕	—	甕の底部。外面に煤付着。内面はナデ・刷毛目、外面は刷毛目。	S X01、7層
3175	39	土師器・甕	—	甕の底部。内面はナデ・刷毛目、外面はヘラ状具・刷毛目。	S X01、7層
3176	39	土師器・甕	—	甕の底部。内面はナデ・刷毛目、外面はヘラ削り・ヘラ状具。	S X01、7層

3．東木津遺跡、泉が丘内科クリニック駐車場地区

4101	43	土師器・器台	—	器台の柱状部。	第1トレンチ
4102	43	土師器・高杯	—	高杯の柱状部。	SD03
4103	43	土師器・甑	20.3	磨滅している。	第2トレンチ
4104	43	土師器・皿	14.7	体下部外面はナデ。	表採
4105	43	土師器・椀	11.8	底部は糸切り。内面は黒色・ヘラ磨き、底部外面はヘラ削り。	SD04
4201	43	土師器・皿	—	内外面赤彩。	第1トレンチ
4202	43	土師器・椀	11.4	底部は糸切り。内面はヘラ磨き、外面赤彩。	第1トレンチ
4203	43	土師器・甕	—	底部は糸切り。内面に多量の煤付着。	第1トレンチ
4204	43	土師器・甕	—	底部は糸切り。	第1トレンチ
4205	43	土師器・甕	25.4	口縁部下部外面はカキ目。	第1トレンチ
4206	43	土師器・甕	21.4	頸部内外面はカキ目。	第1トレンチ
4207	43	土師器・甕	—	頸部内面はカキ目。	S D01
4208	43	土師器・甕	17.2	胴部外面はカキ目。	第1トレンチ
4209	43	土師器・甕	—	口縁部内面に煤付着。全体的に横ナデ。	第1トレンチ
4210	43	土師器・甕	12.0	胴部外面に5条の沈線。	第1トレンチ
4211	43	土師器・甕	41.3	口縁部内面はカキ目。	第1トレンチ
4212	43	土師器・甕	32.8	体上部外面はカキ目。	S D01
4213	44	須恵器・杯A	14.0	底部はヘラ切り。	S D01
4214	44	須恵器・杯A	12.9	底部はヘラ切り。	S D04
4215	44	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り。	S D03
4216	44	須恵器・杯A	12.4	底部はヘラ切り。	第2トレンチ
4217	44	須恵器・杯A	12.1	底部はヘラ切り。	第2トレンチ
4218	44	須恵器・杯A	12.0	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4219	44	須恵器・杯A	11.9	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4220	44	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	S D04
4221	44	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4222	44	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4223	44	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。	S D01
4224	44	須恵器・杯A	11.8	底部はヘラ切り。口縁部内面に少量の油煙。	第1トレンチ
4225	44	須恵器・杯A	11.7	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4226	44	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4227	44	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	S D01
4228	44	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	S D03
4229	44	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	第1トレンチ

番号	図面	種　　類	口径	特　　徴	出土位置
4230	44	須恵器・杯A	11.6	底部はヘラ切り。	第2トレンチ
4231	44	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4232	44	須恵器・杯A	11.5	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4233	44	須恵器・杯A	11.4	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4234	44	須恵器・杯A	11.2	底部はヘラ切り。	S D03
4235	44	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4236	44	須恵器・杯A	11.0	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4237	44	須恵器・杯A	10.8	底部はヘラ切り。	第2トレンチ
4238	44	須恵器・杯A	—	底部はヘラ切り。	第2トレンチ
4239	44	須恵器・杯A	—	底部はヘラ切り。	第2トレンチ
4240	44	須恵器・杯A	—	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4241	44	須恵器・杯A	—	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4242	44	須恵器・杯A	—	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4243	44	須恵器・杯A	—	底部はヘラ切り。底部内面ナデ。	S D04
4244	45	須恵器・杯B	15.8	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4245	45	須恵器・杯B	12.9	底部はヘラ切り。	S D01
4246	45	須恵器・杯B	10.9	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4247	45	須恵器・杯B	10.4	底部はヘラ切り。	S D01
4248	45	須恵器・杯B	10.3	底部はヘラ切り。	S D01
4249	45	須恵器・杯B	10.2	底部は糸切り。	第1トレンチ
4250	45	須恵器・杯B	10.1	底部はヘラ切り。体部外面にヘラ記号「＼」	S D03
4251	45	須恵器・杯B	9.0	底部はヘラ切り。内面に降灰物。	第1トレンチ
4252	45	須恵器・杯B	—	底部外面はナデ・指圧。底部内面はナデ。	第2トレンチ
4253	45	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4254	45	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4255	45	須恵器・杯B	—	底部はヘラ切り。	第1トレンチ
4256	45	須恵器・杯B	10.8	底部は欠損している。	第1トレンチ
4257	45	須恵器・杯蓋	14.7	宝珠形つまみが付く。天井部外面はヘラ削り。	第1トレンチ
4258	45	須恵器・杯蓋	14.2	宝珠形つまみが付く。内面に漆付着。	S D01
4259	45	須恵器・杯蓋	13.4	宝珠形つまみが付く。天井部外面はヘラ削り。	第1トレンチ
4260	45	須恵器・杯蓋	12.7	宝珠形つまみが付く。天井部外面はヘラ削り。	S D03
4261	45	須恵器・杯蓋	12.4	宝珠形つまみが付く。天井部内面は指圧。	第1トレンチ
4262	45	須恵器・杯蓋	12.3	宝珠形つまみが付く。天井部外面はヘラ削り。	S D03
4263	45	須恵器・杯蓋	11.7	宝珠形つまみが付く。天井部外面はヘラ削り。	S D01
4264	45	須恵器・杯蓋	11.4	宝珠形つまみが付く。天井部内面はナデ。天井部外面はヘラ削り。	第2トレンチ
4265	45	須恵器・杯蓋	16.6	天井部中央は欠損している。	S D01
4266	45	須恵器・杯蓋	12.8	天井部中央は欠損している。	S D01
4267	45	須恵器・杯蓋	11.6	天井部中央は欠損している。	第1トレンチ
4268	45	須恵器・壺	—	内面はあて具痕。外面は叩目とカキ目。口縁部と体部に少量の自然釉。	第2トレンチ
4269	45	須恵器・壺	19.6	頸部外面に叩目。口縁部外面にやや自然釉。	第1トレンチ
4270	45	須恵器・壺蓋	12.0	天井部中央は欠損している。天井部外面に自然釉。	第2トレンチ
4271	46	須恵器・甕	26.4	内面はあて具痕。外面は叩目とカキ目。	S D03
4272	46	須恵器・甕	56.6	甕の口縁部。	第2トレンチ
4273	46	須恵器・甕	29.0	内外面横ナデ。	第2トレンチ
4274	46	須恵器・甕	—	内外面横ナデ。	第1トレンチ
4275	46	須恵器・甕	—	内外面赤彩。内面はヘラ磨き・刷毛目。	包含層

【参考文献】

西井　龍儀　1971　「氷見市谷屋発見の子持曲玉」『考古学ジャーナル 54 号』

久々忠義他　1981　『北陸自動車道遺跡調査報告－立山町遺構編－』富山県教育委員会

池野正男他　1983　『都市計画街路七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要』富山県教育委員会

岸本雅敏他　1985　『都市計画街路七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要（3）』富山県教育委員会

坂元　勇　1997　『寺家遺跡第 12 次調査報告書』羽咋市教育委員会

山本正敏他　1998　『五社遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

樫田　誠　1999　「北陸における古墳時代中・後期の様相－南加賀地域における事例を中心として－」
『渡来文化の受容と展開』埋蔵文化財研究会

三鍋秀典他　2001　『利田横枕遺跡』立山町教育委員会

伊藤隆三他　2003　『小矢部市史－おやべ風土記編－』小矢部市教育委員会

田中　昌樹　2003　「北陸地域の「竈形土製品」について」『富山考古学研究 第 6 号』
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

湯原勝美他　2004　『間尽遺跡調査報告Ⅱ』

青山　晃他　2004　『埋蔵文化財調査概報－平成 15 年度－』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

青山　晃他　2005　『埋蔵文化財調査概報－平成 16 年度－』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

報告書抄録

ふりがな	しないいせきちょうさがいほうじゅうなな
書名	市内遺跡調査概報XII
副書名	平成18年度、越中国府関連遺跡の調査他
巻次	
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報
シリーズ番号	第66輯
編著者名	山口辰一、荒井隆、常深尚、樋谷潤、邑本順亮
編集機関	高岡市教育委員会
所在地	〒933-8601　富山県高岡市広小路7番50号
発行年月日	西暦　2008年3月31日

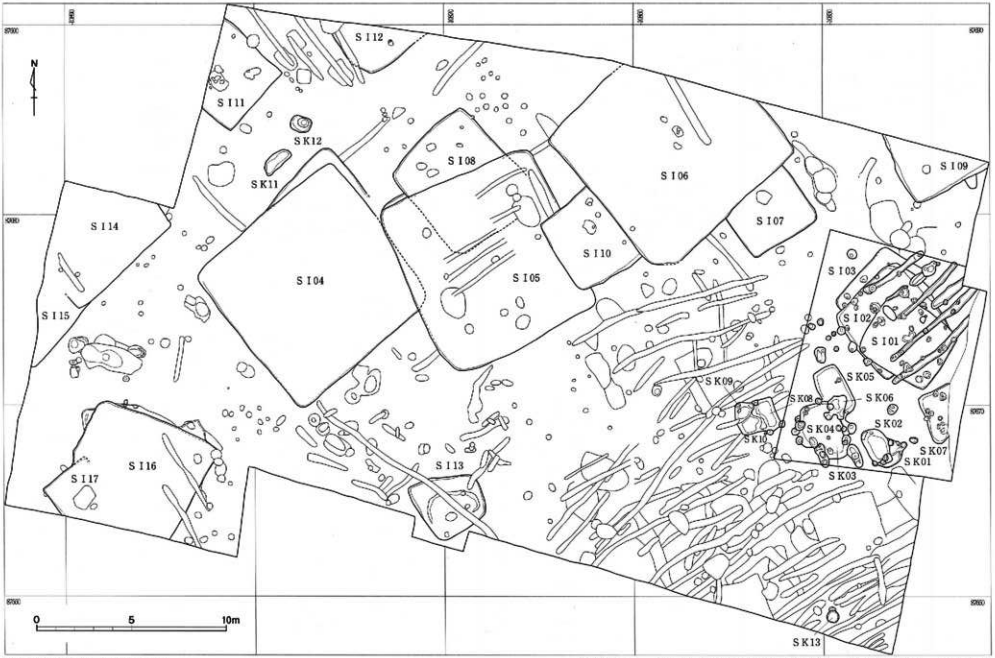
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
越中国府関連遺跡 オダケホーム2地区	富山県高岡市 伏木	016202	202013	36° 47′ 24″	137° 02′ 41″	060404 ～ 060614	1,106㎡	宅地造成
前田墓所遺跡 レオパレス21地区	富山県高岡市 大野	016202	202143	36° 44′ 03″	137° 01′ 38″	060617 ～ 060619	172㎡	宅地造成
石塚遺跡 大井2地区	富山県高岡市 石塚	016202	202158	36° 46′ 05″	136° 58′ 55″	060704 ～ 060811	469㎡	駐車場建設
東木津遺跡 泉が丘内科クリニック駐車場地区	富山県高岡市 佐野	016202	202150	36° 43′ 45″	136° 59′ 33″	061113 ～ 061128	210㎡	駐車場建設
その他の遺跡 各調査地区	富山県 高岡市内	016202				060403 ～ 061117		住宅建設等

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
越中国府関連遺跡 オダケホーム2地区	集落跡	古墳時代 奈良・平安時代	竪穴建物址 土坑、溝	土師器、須恵器 有孔円板、刀子	古墳時代中期～後期の集落跡を検出
前田墓所遺跡 レオパレス21地区	墓地	江戸時代	溝	漆器 瓦、釉薬瓦	前田墓所外郭に伴う溝を確認
石塚遺跡 大井2地区	集落跡	古墳時代	円地	土師器、木製品 石製品	甕の内部より臼玉が出土
東木津遺跡 泉が丘内科クリニック駐車場地区	集落跡	奈良・平安時代	土坑、溝	土師器、須恵器 土錘	
その他の遺跡 各調査地区					

図　面

図面目次

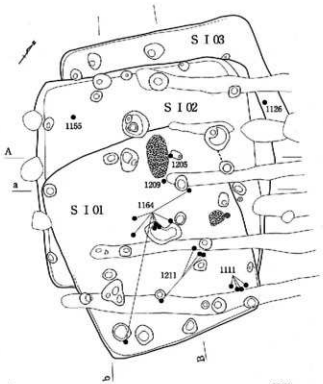
図面 01　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　調査地区全体図（1／200）
図面 02　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　竪穴建物址実測図〔1〕：SI01～03（1／80、1／40）
図面 03　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　竪穴建物址実測図〔2〕：SI04（1／80）
図面 04　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　竪穴建物址実測図〔3〕：SI05・08（1／80）
図面 05　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　竪穴建物址実測図〔4〕：SI06・07（1／80）
図面 06　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　竪穴建物址実測図〔5〕：SI10・11（1／80、1／40）
図面 07　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　竪穴建物址実測図〔6〕：SI09・12・13（1／80、1／40）
図面 08　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　土坑実測図〔1〕：SK01・02、SK08・09・10（1／40）
図面 09　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　土坑実測図〔2〕：SK03～06（1／40）
図面 10　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　土坑実測図〔3〕：SK11・13（1／20）
図面 11　遺構実測図　前田墓所遺跡レオパレス 21 地区　調査地区遺構図（1／200）
図面 12　遺構実測図　前田墓所遺跡レオパレス 21 地区　溝 SD01 土層断面図（1／40）、瓦分布平面図、断面図（1／20）
図面 13　遺構実測図　石塚遺跡大井２地区　調査地区遺構図（1／200）
図面 14　遺構実測図　石塚遺跡大井２地区　四地ＳＸ01 土層断面図（1／40）
図面 15　遺構実測図　石塚遺跡大井２地区　四地ＳＸ01 遺物分布図（1／100）
図面 16　遺構実測図　石塚遺跡大井２地区　四地ＳＸ01 臼玉出土状態図（1／10、1／4、1／2）
図面 17　遺構実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　調査地区全体図（1／200）
図面 18　遺構実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　調査地区遺構図（1／200）
図面 19　遺構実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　溝 SD01・03 平面図、土層断面図（1／100、1／40）
図面 20　遺構実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　溝 SD04 平面図、土層断面図（1／100、1／40）
図面 21　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　土器類　土師器（1／3）
図面 22　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　土器類　土師器（1／3）
図面 23　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　土器類　土師器（1／3）
図面 24　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　土器類　土師器（1／3）
図面 25　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　土器類　土師器・須恵器（1／3）
図面 26　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　土器類　須恵器（1／3）
図面 27　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　瓦　国分寺系平瓦（1／4）
図面 28　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　土製品　羽口・鞴の羽口・刀子・石器（1／2）、石器・石製模造品（実大）
図面 29　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区　土製品・鉄製品・石製品
図面 30　遺物実測図　前田墓所遺跡レオパレス 21 地区　瓦　焼し瓦－丸瓦（1／4）
図面 31　遺物実測図　前田墓所遺跡レオパレス 21 地区　瓦　焼し瓦－平瓦（1／4）
図面 32　遺物実測図　前田墓所遺跡レオパレス 21 地区　瓦　軒瓦－平瓦（1／4）
図面 33　遺物実測図　前田墓所遺跡レオパレス 21 地区　木製品　漆器（1／2）
図面 34　遺物実測図　石塚遺跡大井２地区　土器類　土師器（1／3）
図面 35　遺物実測図　石塚遺跡大井２地区　土器類　土師器（1／3）
図面 36　遺物実測図　石塚遺跡大井２地区　土器類　土師器（1／3）
図面 37　遺物実測図　石塚遺跡大井２地区　土器類　土師器（1／3）
図面 38　遺物実測図　石塚遺跡大井２地区　土器類　土師器（1／3）
図面 39　遺物実測図　石塚遺跡大井２地区　土器類　土師器（1／3）
図面 40　遺物実測図　石塚遺跡大井２地区　木製品　柱材（1／10）、板状品・棒状品（1／4）
図面 41　遺物実測図　石塚遺跡大井２地区　木製品　櫛（実大）、棒状品・部材（1／3）
図面 42　遺物実測図　石塚遺跡大井２地区　石製品　臼玉（実大）、滑石製円板・磨製石斧（1／2）
図面 43　遺物実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　土器類　土師器（1／3）
図面 44　遺物実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　土器類　須恵器（1／3）
図面 45　遺物実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　土器類　須恵器（1／3）
図面 46　遺物実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　土器類　土師器・須恵器（1／3）

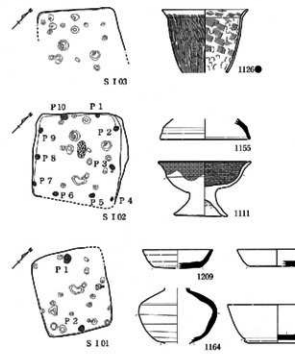


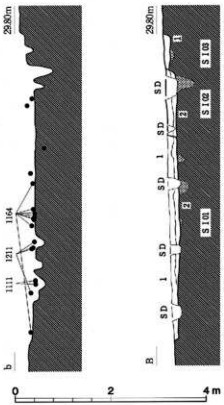
調査地区全体図　縮尺1／200

図面〇一　遺構実測図　鶴中国府関連遺跡オダケホーム2地区

図面〇二　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区



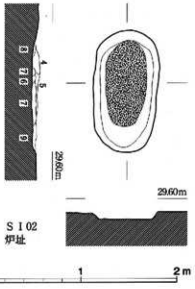




S I01
1. 灰色土　粘土質、硬く締まる、炭化粒・焼土粒少量
2. 灰色土　粘土質、硬く締まる、炭化粒・地山粒多量
3. 灰褐色土　炭化粒少量
4. 焼土

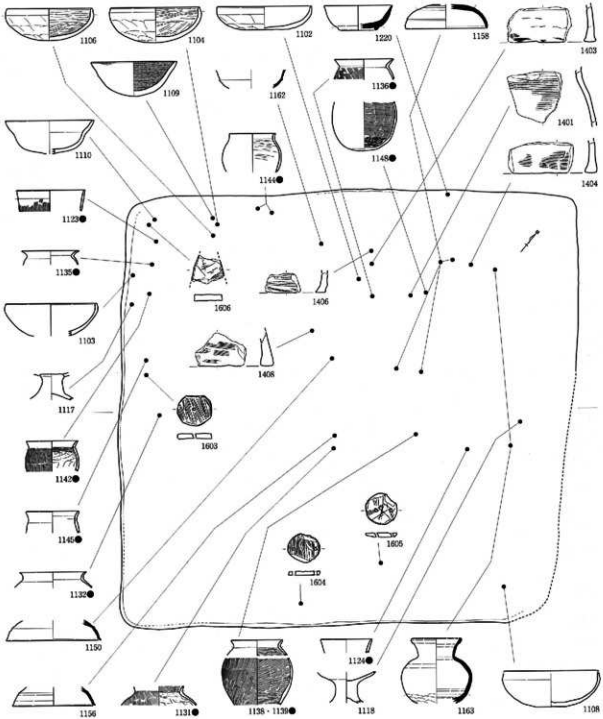
S I02
1. 灰褐色土　硬く締まる、炭化粒少量
2. 灰褐色土　硬く締まる、地山粒多量
3. 灰褐色土　炭化粒多量
4. 灰色土　粘土質、焼土小ブロック多量
5. 焼土　硬く締まる
6. 灰褐色土　地山粒多量、焼土粒少量
7. 地山ブロックと灰褐色土の混土
8. 灰褐色土　粘土質、硬く締まる、地山小ブロック多量

S I03
1. 灰色土　粘土質、地山粒多量、炭化粒少量



竪穴建物址実測図〔1〕：S I01~03

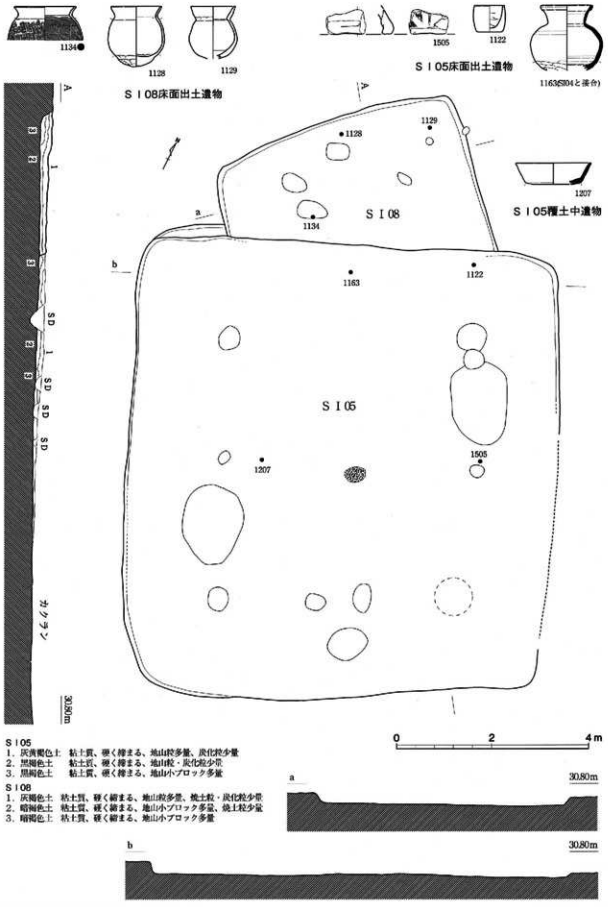
縮尺1／80、1／40



竪穴建物址実測図〔2〕：SI04

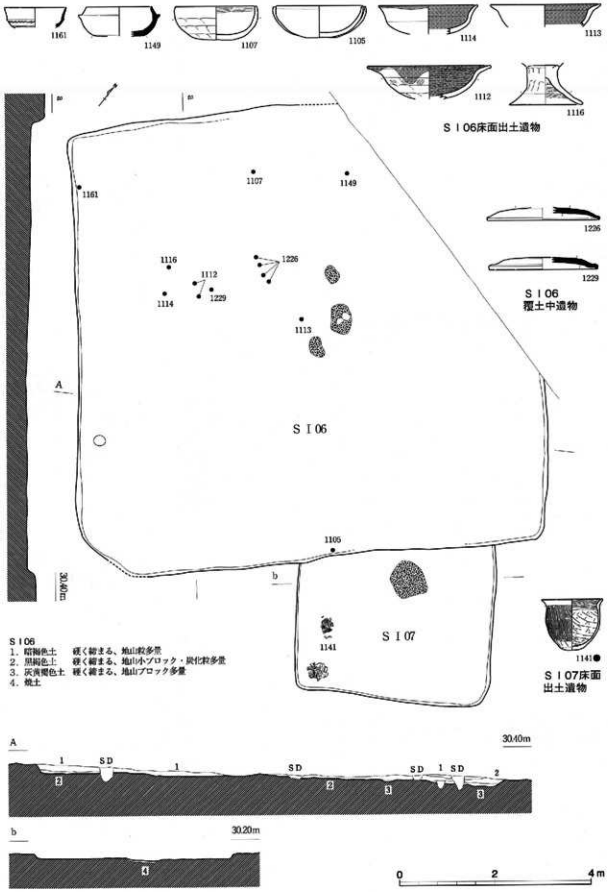
縮尺1／80

図面〇四　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区



竪穴建物址実測図〔3〕：S I 05・08　　縮尺1／80

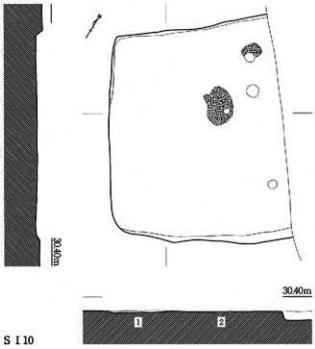
図面〇五　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区



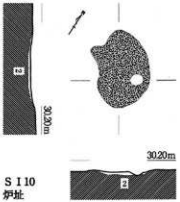
竪穴建物址実測図〔4〕：S I 06・07

縮尺1／80

図面〇六　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区

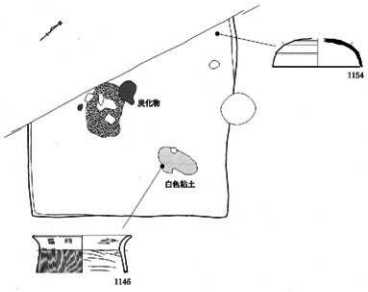


S I 10



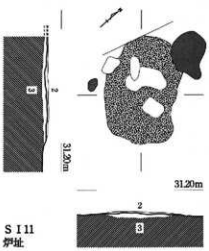
S I 10
炉址

S I 10
1．暗褐色土　砂土質、硬く締まる、地山粒多量
2．地土

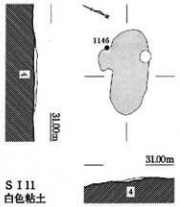


S I 11

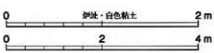
S I 11
1．黒褐色土　砂土質、地山小ブロック多量、炭化粒少量
2．灰色土　　砂土質、炭化粒・焼土粒少量
3．焼土
4．白色粘土
A．カクラン
B．灰褐色土　炭土
C．黒褐色土　地山小ブロック多量



S I 11
炉址



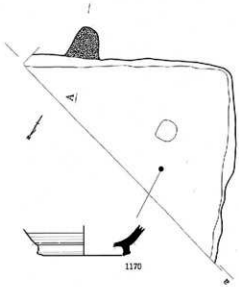
S I 11
白色粘土

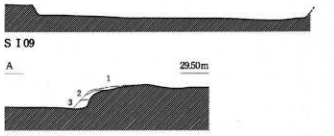


竪穴建物址実測図〔5〕：S I 10・11

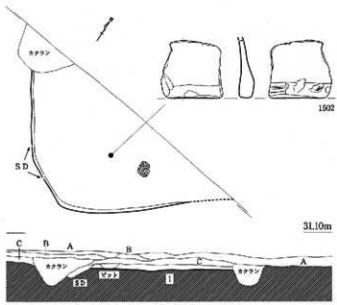
縮尺 1／80、1／40

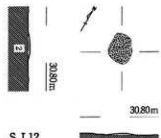
図面〇七　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区



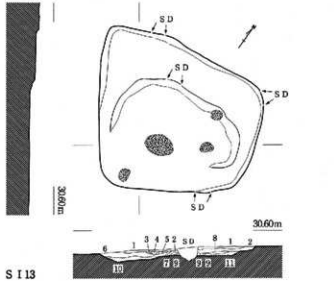


S I 09
1. 焼土　　炭化粒少量
2. 灰褐色土　粘土質、地山ブロック多量
3. 灰褐色土　粘土質、焼土ブロック・炭化粒多量





S I 12
1. 褐灰色土　粘土質、地山粒・炭化粒少量
2. 焼土
A. 赤土
B. 灰褐色土
C. 黒褐色土　地山小ブロック多量

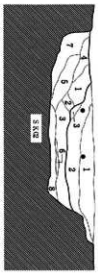


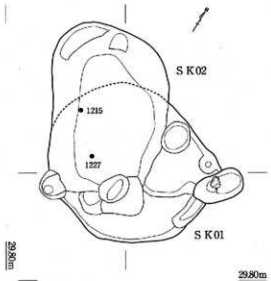
S I 13
1. 灰褐色土　粘土質、炭化粒多量、焼土粒少量
2. 灰褐色土　粘土質、地山粒多量、炭化粒少量
3. 灰層　　焼土粒少量
4. 灰色土　　粘土質、焼土粒少量
5. 焼土　　硬く締まる
6. 灰色土　　粘土質、硬く締まる、焼土小ブロック・炭化粒多量
7. 灰色土　　焼土小ブロック・炭化粒・灰少量
8. 灰褐色土　粘土質、硬く締まる、地山小ブロック多量
9. 灰褐色土　粘土質、焼土小ブロック多量
10. 暗褐色土　粘土質、硬く締まる地山ブロック多量、炭化粒少量
11. 灰褐色土　地山小ブロック多量

竪穴建物址実測図〔6〕：S I 09・12・13

縮尺1／80、1／40

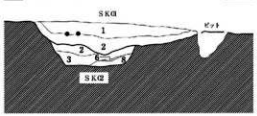
図面〇八　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区

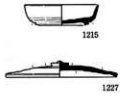




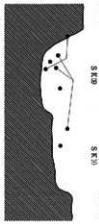
SK01
1．暗褐色土　粘土質、焼土粒・炭化粒・地山粒少量、土器片多量
2．暗褐色土　粘土質、焼土小ブロック・炭化粒多量、地山粒少量
3．暗褐色土　焼土粒少量

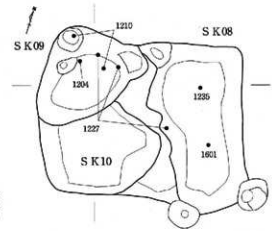
SK02
1．黒褐色土　焼土ブロック多量、炭化粒少量
2．灰黄褐色土　地山小ブロック少量
3．灰黄褐色土　焼土粒・炭化粒少量
4．灰黄褐色土　焼土粒・地山小ブロック少量
5．灰黄褐色土　地山ブロック多量、炭化粒少量
6．地山ブロック
7．炭化物・焼土小ブロック・地山小ブロック・白色粘土粒の混土
8．暗褐色土　地山小ブロック多量、焼土粒少量

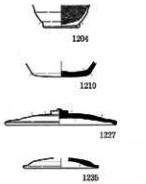


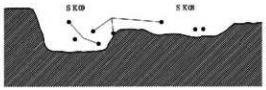


SK01・02

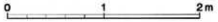






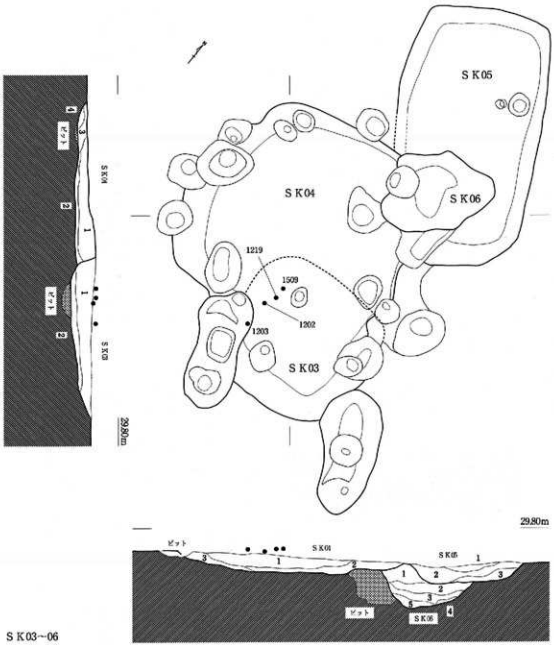


SK08・09・10



土坑実測図〔1〕：SK01・02、SK08・09・10

縮尺1／40



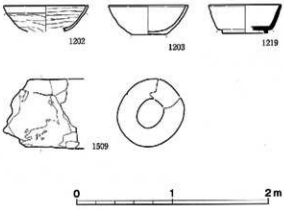
SK03～06

SK03
1. 灰色土　　粘土質、土器片多量、炭化物少量
2. 灰色土　　粘土質、地山小ブロック多量、炭化粒少量

SK04
1. 黒褐色土　　焼土ブロック・炭化粒・地山小ブロック多量
2. 灰黄褐色土　硬く締まる、地山小ブロック多量、焼土粒少量
3. 灰黄褐色土　硬く締まる、地山小ブロック多量、炭化粒少量
4. 灰黄褐色土　硬く締まる、炭化粒少量

SK05
1. 灰黄褐色土　粘土質、硬く締まる、炭化粒・焼土粒少量
2. 灰黄褐色土　粘土質、硬く締まる、地山ブロック多量、炭化粒少量
3. 黒褐色土　　焼土ブロック多量、炭化粒少量

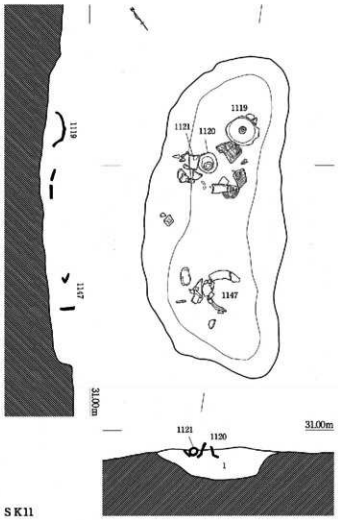
SK06
1. 黒褐色土　　焼土ブロック多量、炭化粒少量
2. 地山ブロック　黒褐色土・炭化粒少量
3. 黒褐色土　　地山小ブロック・炭化粒少量
4. 地山ブロック
5. 黒褐色土　　地山粒多量、焼土粒少量

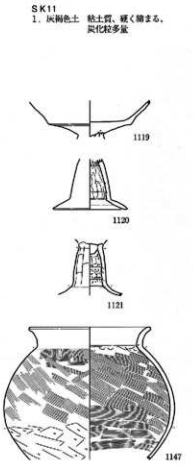


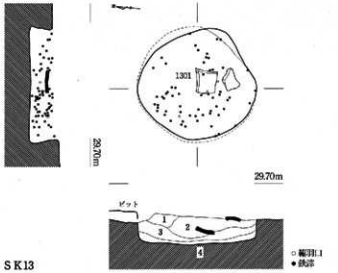
土坑実測図〔2〕：SK03～06

縮尺1／40

図面一〇　遺構実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区



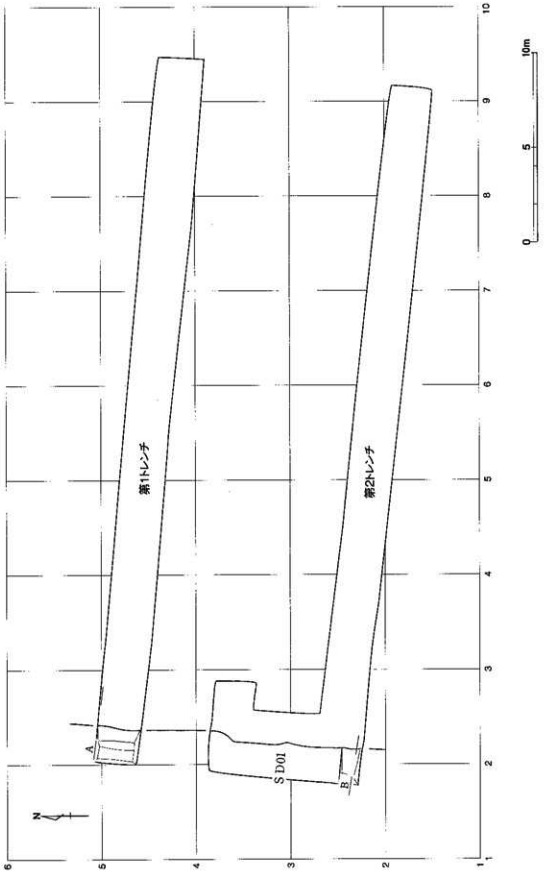




土坑実測図〔3〕：SK11・13

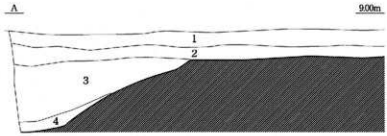
縮尺 1／20

図面二　遺構実測図　前田墓所遺跡レオパレス21地区

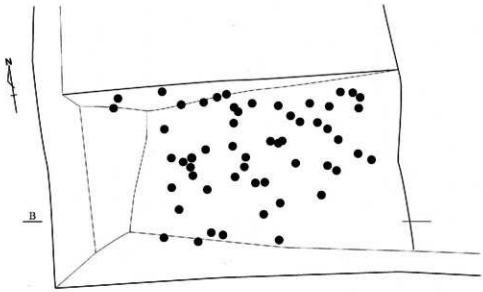


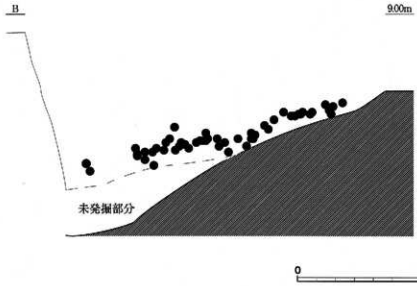
調査地区遺構図

縮尺1／200



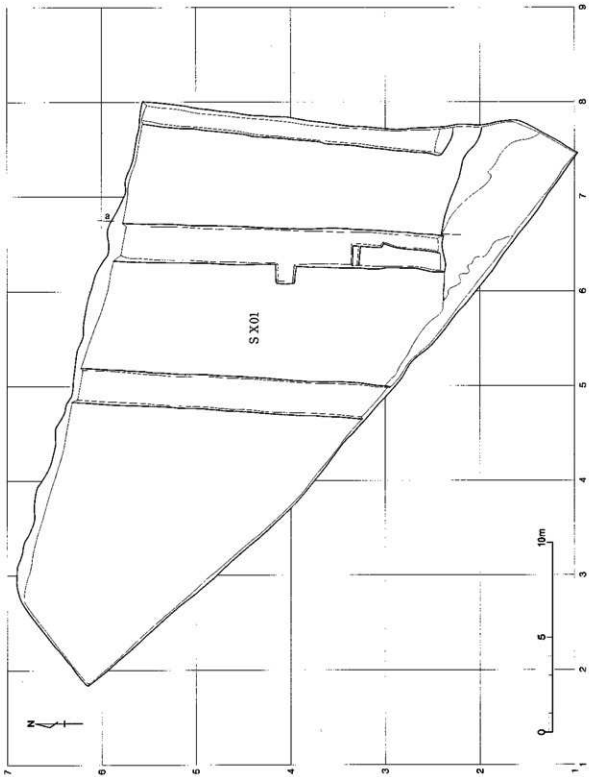
1：表土（耕作土）　3：暗灰色粘質土、腐植物多く含む
2：暗褐色粘質土　4：灰色粘質土





溝ＳＤ01 土層断面図、瓦分布平面図、断面図　　縮尺１／ 40、１／ 2

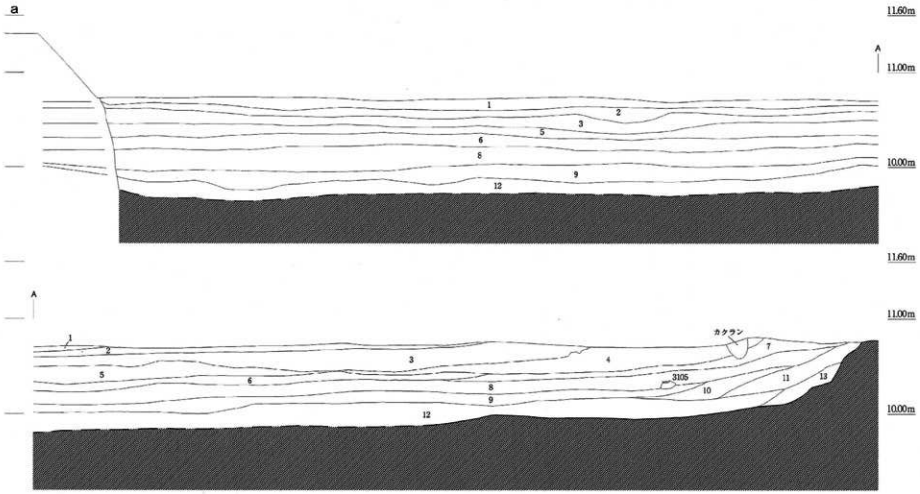
図面一三　遺構実測図　石塚遺跡大井2地区



測査地区遺構図

縮尺 1／200

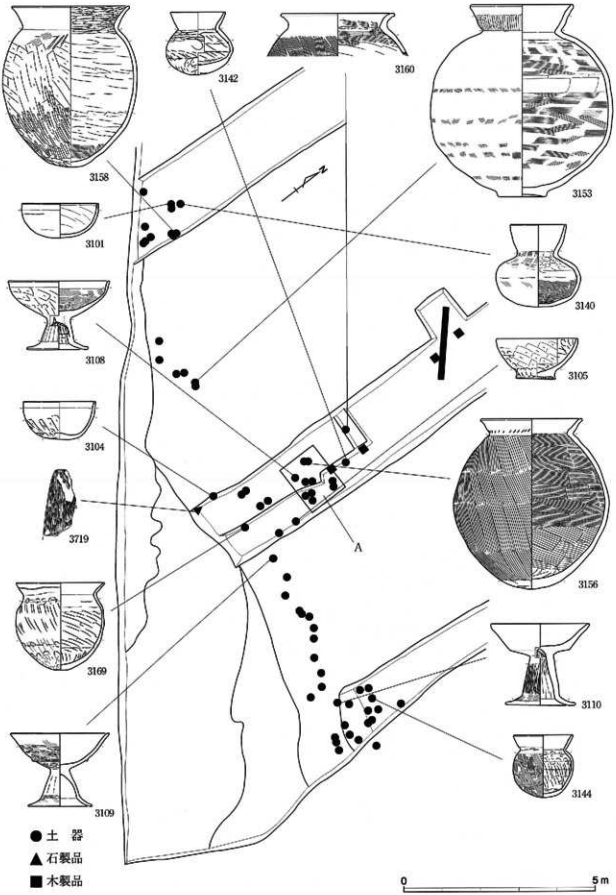
図面一四　遺構実測図　石塚遺跡大井2地区



1：暗灰褐色粘質土
2：黒褐色粘質土　酸化物含む
3：暗灰褐色粘質土　腐植物含む
4：黒色粘質土
5：暗灰褐色粘質土
6：褐色腐植土
7：黒褐色粘質土　腐植物含む
8：暗灰褐色粘質土　腐植物含む
9：黄灰色腐植土
10：暗灰色粘質土　腐植物やや含む
11：灰色粘質土
12：暗灰色粘質土
13：灰色粘質土、黄白色シルト混土層　腐植物含む

凹地ＳＸ01 土層断面図　縮尺１／ 40

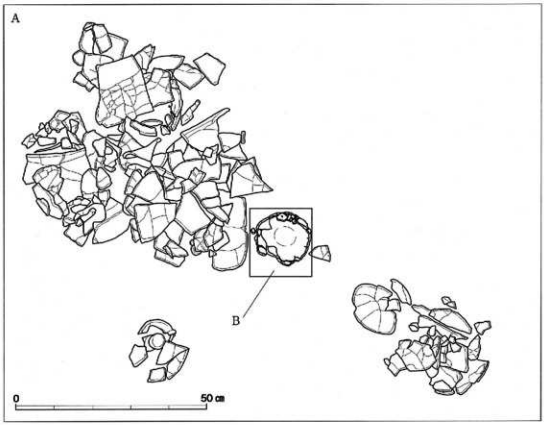
図面一五　遺構実測図　石塚遺跡大井2地区

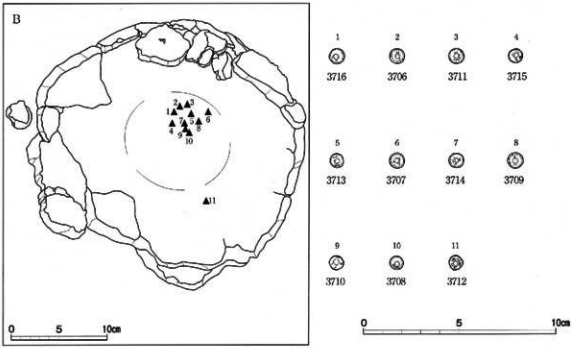


凹地ＳＸ01 遺物分布図

縮尺１／ 100

図面一六　遺構実測図　石塚遺跡大井2地区

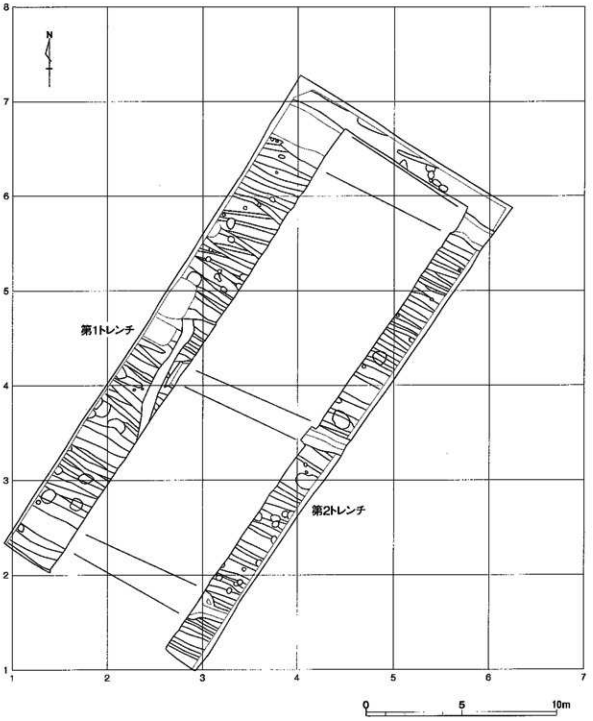




凹地ＳＸ01 白玉出土状態図

縮尺１／ 10、１／４、１／２

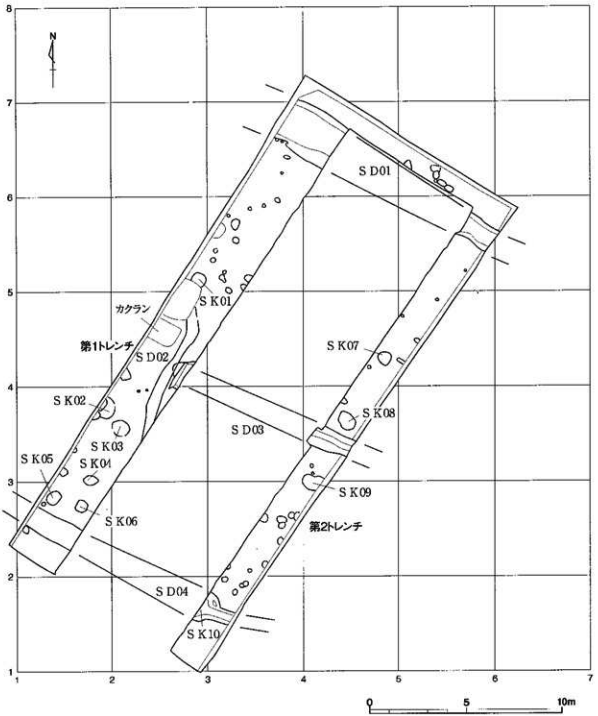
図面一七　遺構実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区



調査地区全体図

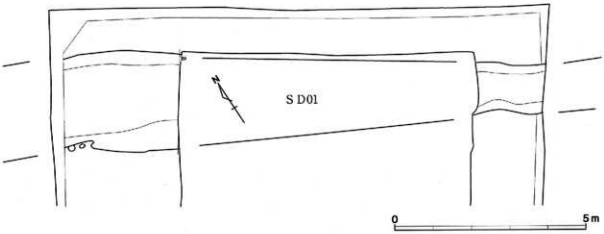
縮尺1／200

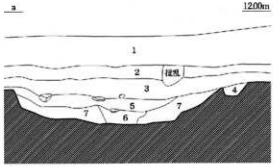
図面一八　遺構実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区



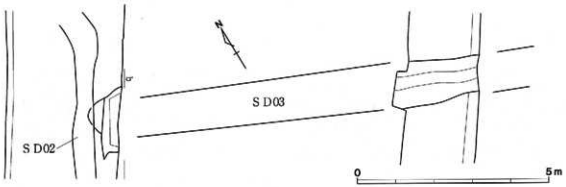
調査地区遺構図

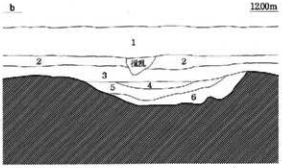
縮尺1／200





1：表土（耕作土）
2：黒褐色粘質土
3：暗灰色粘質土　炭化物含む
4：黒色粘質土　炭化物含む（鉄状遺構土）
5：暗灰褐色粘質土　礫、炭化物、焼土含む
6：暗灰褐色粘質土・黄褐色砂の混土層
7：暗灰色粘質土・黄褐色砂の混土層



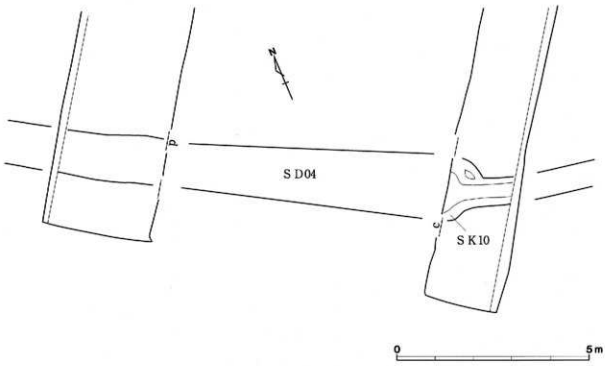


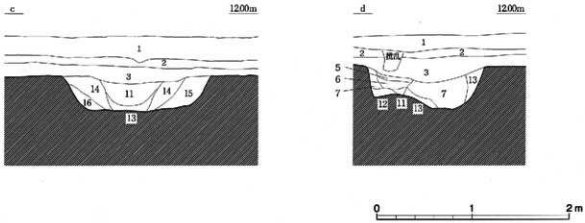
1：表土（耕作土）
2：黒褐色粘質土
3：暗灰色粘質土　炭化物含む
4：暗灰褐色粘質土
5：暗灰褐色弱粘質土
6：灰色粘質土

溝S D01・03平面図、土層断面図

縮尺1／100、1／40

図面二〇　遺構実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区



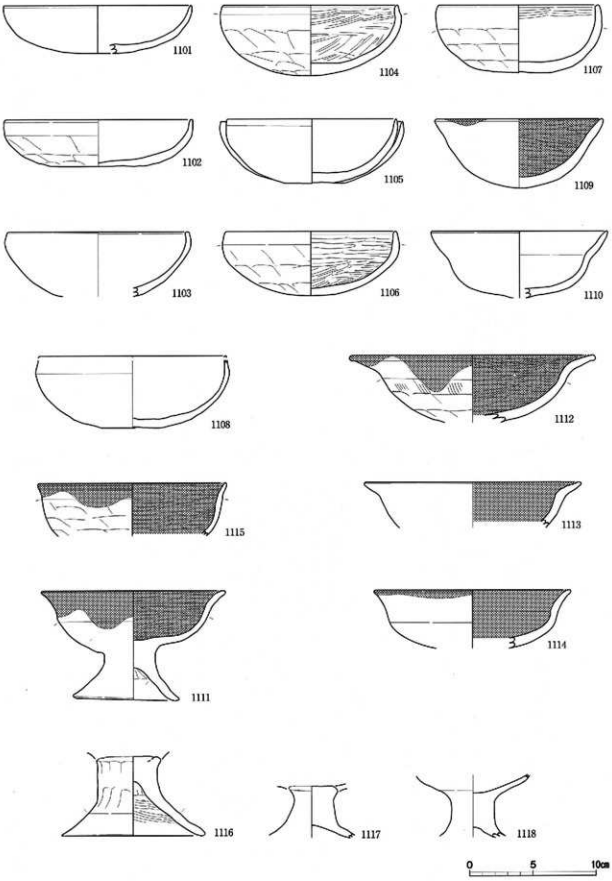


1：表土（耕作土）
2：黒褐色粘質土
3：暗灰色粘質土、炭化物含む
5：暗灰色粘質土、焼土ブロック・炭化物含む
6：黒色炭化層、暗灰色粘質土含む
7：暗灰褐色粘質土
11：暗灰色粘質土・黄褐色砂の混土層、黒色粘質土混在
12：黒色粘質土、焼土ブロック・炭化物含む
13：暗灰色粘質土・黄褐色砂の混土層
14：暗灰色粘質土、黄褐色砂含む（SK10 覆土）
15：明灰色粘質土、焼土ブロック・炭化物含む（SK10 覆土）
16：黒色粘質土（SK10 覆土）

溝SD04 平面図、土層断面図

縮尺1／100、1／4

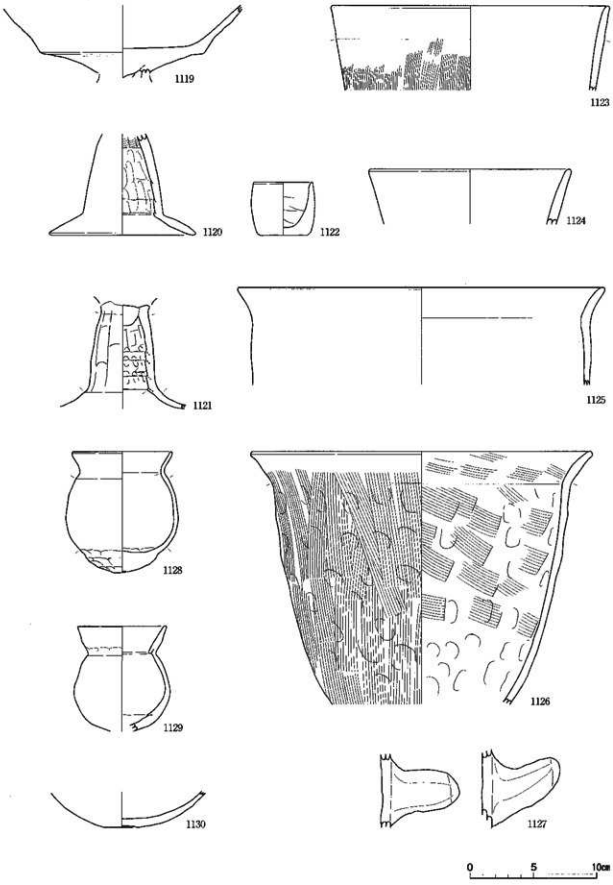
図面二　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区　土器類



土師器

縮尺1／3

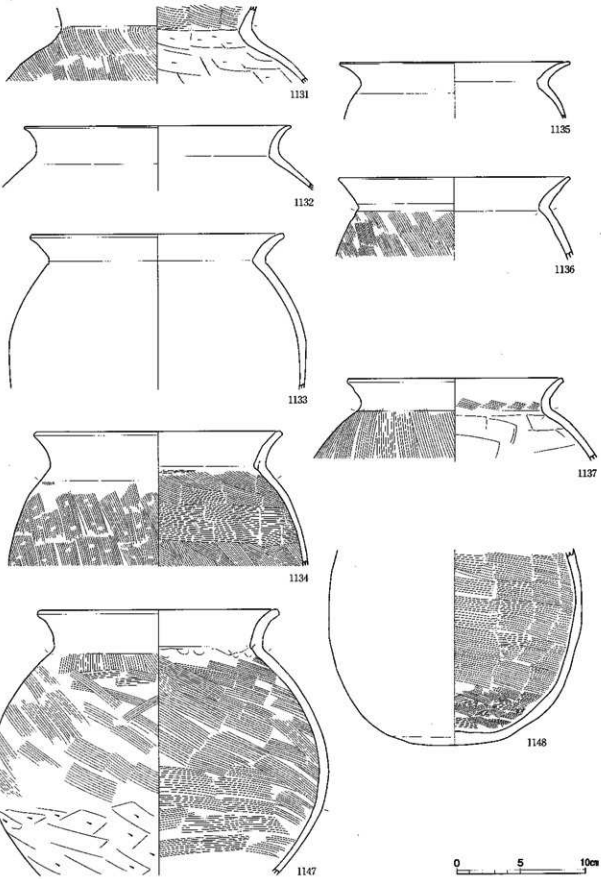
図面二一　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区　土器類



土師器

縮尺1／3

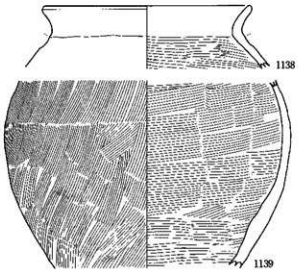
図面一三　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区　土器類

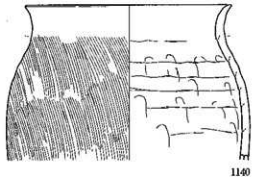


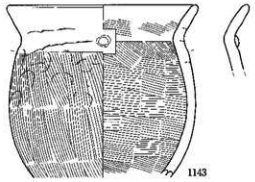
土師器

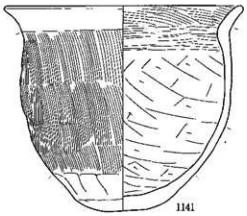
縮尺1／3

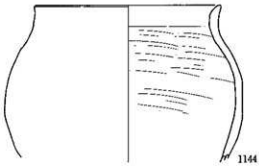
図面一四　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区　土器類

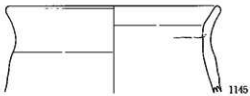


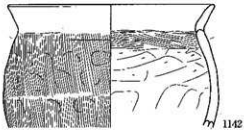


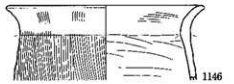


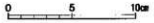








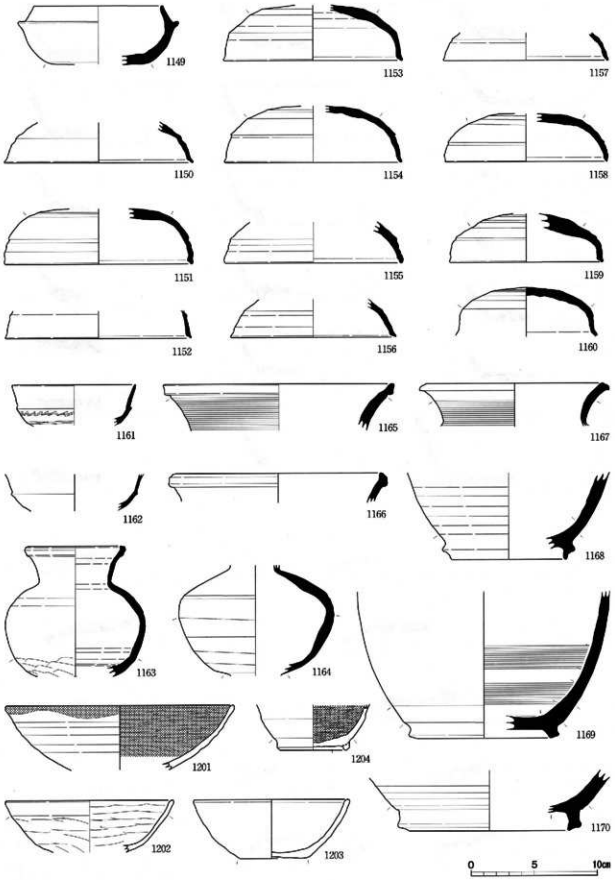




土師器

縮尺１／３

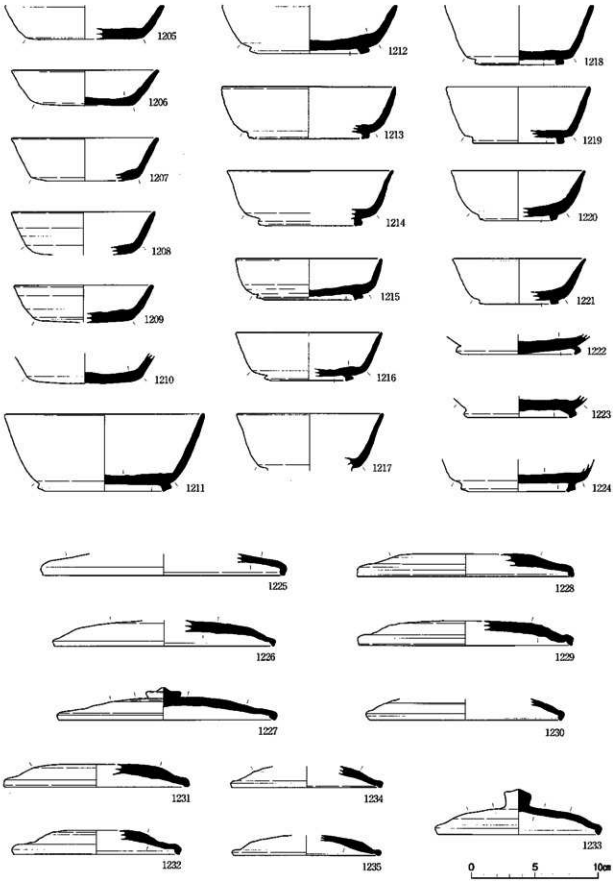
図面二五　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区　土器類



土師器・須恵器

縮尺1／3

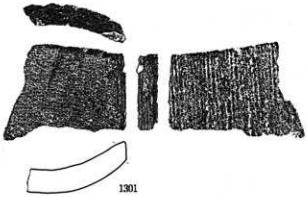
図面二六　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区　土器類



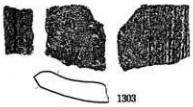
須恵器

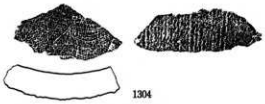
縮尺1／3

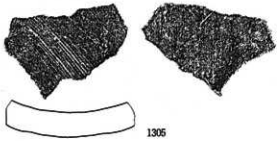
図面二七　遺物実測図　越中国府関連遺跡オケケホーム2地区　瓦


1301

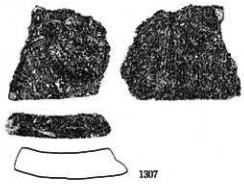
1302


1303


1304


1305

1306


1307

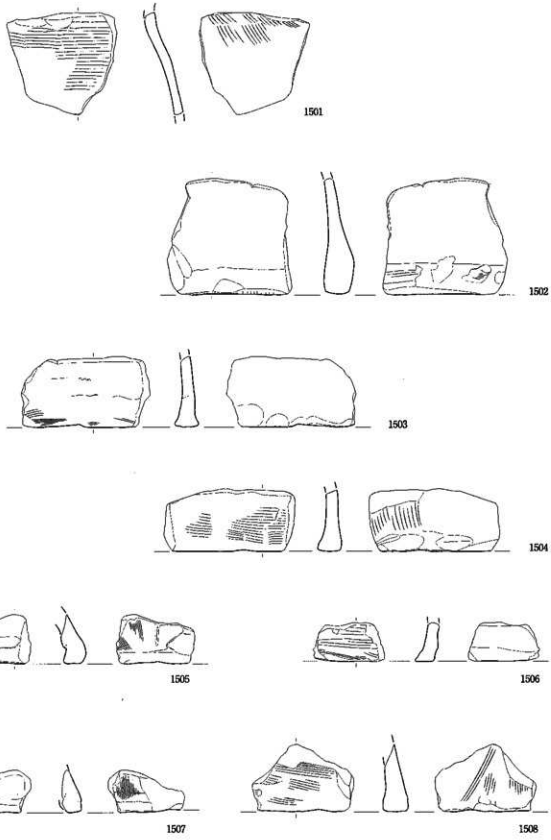
1308

0　5　10cm

国分寺系平瓦：1301～1308

縮尺1／4

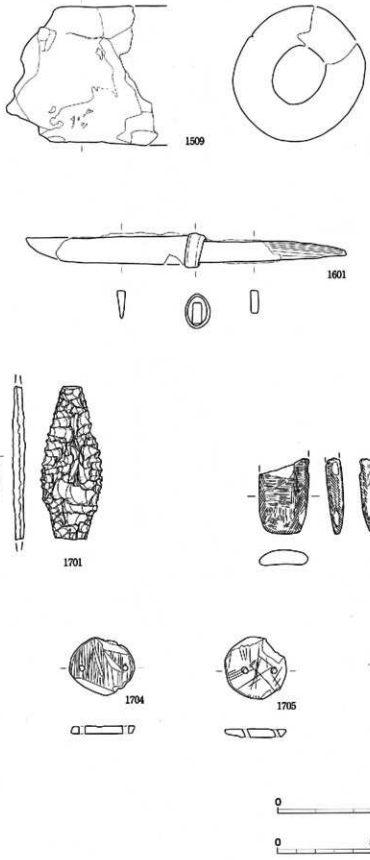
図面二八　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区　土製品



置き竈：1501 ～ 1508

縮尺 1／3

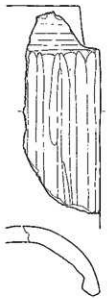
図面二九　遺物実測図　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区　土製品・鉄製品・石製品

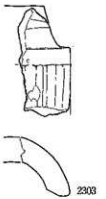


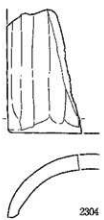
輪羽口：1509　縮尺1／2
刀　子：1601　縮尺1／2
石　器：1702　縮尺1／2
石器・石製模造品：1701・1703～1706　縮尺実大

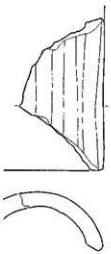
図面三〇　遺物実測図　前田高所遺跡レオパレス21地区　瓦

2301


2302


2303


2304


2305

2306

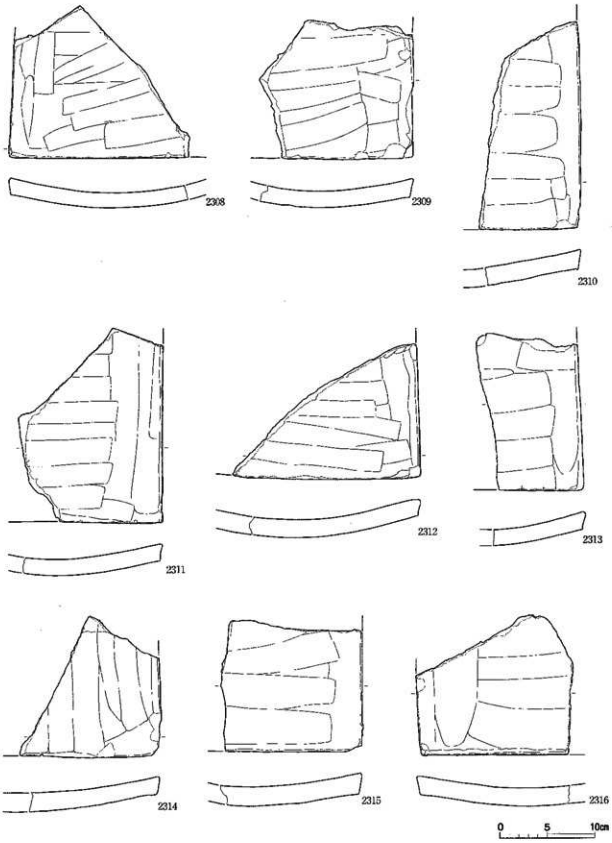
2307

0　5　10cm

燻し瓦－丸瓦

縮尺１／４

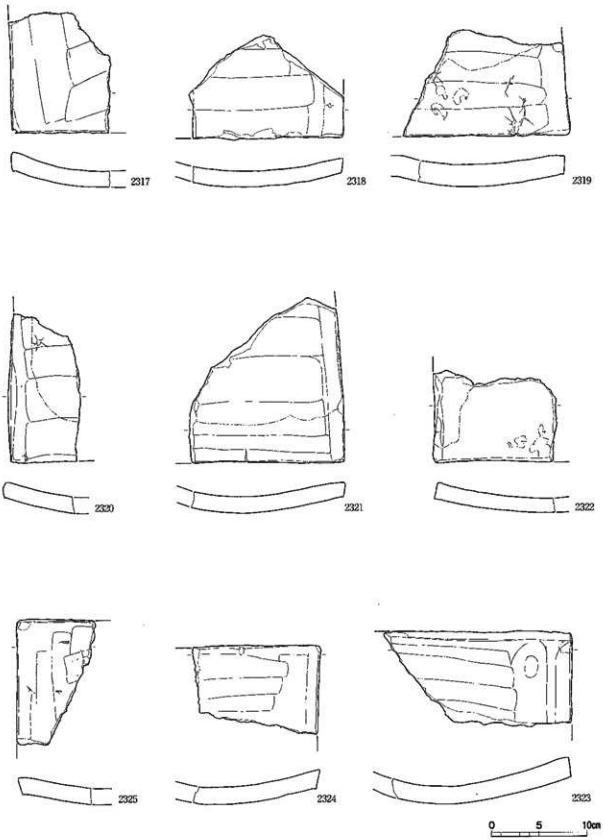
図面三一　遺物実測図　前田墓所遺跡レオパレス21地区　瓦



燻し瓦－平瓦

縮尺1／4

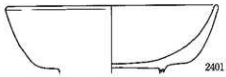
図面三二　遺物実測図　前山窯所遺跡レオパレス21地区　瓦

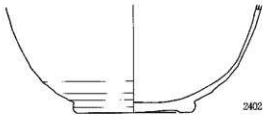


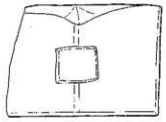
釉薬瓦－平瓦

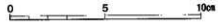
縮尺1／4

図面三三　遺物実測図　前田囊所遺跡レオパレス21地区　木製品





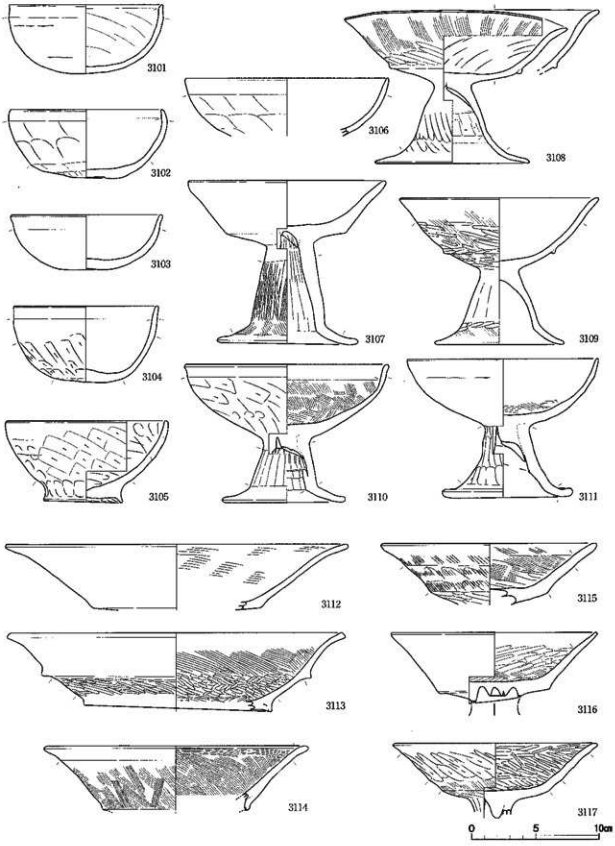




漆器

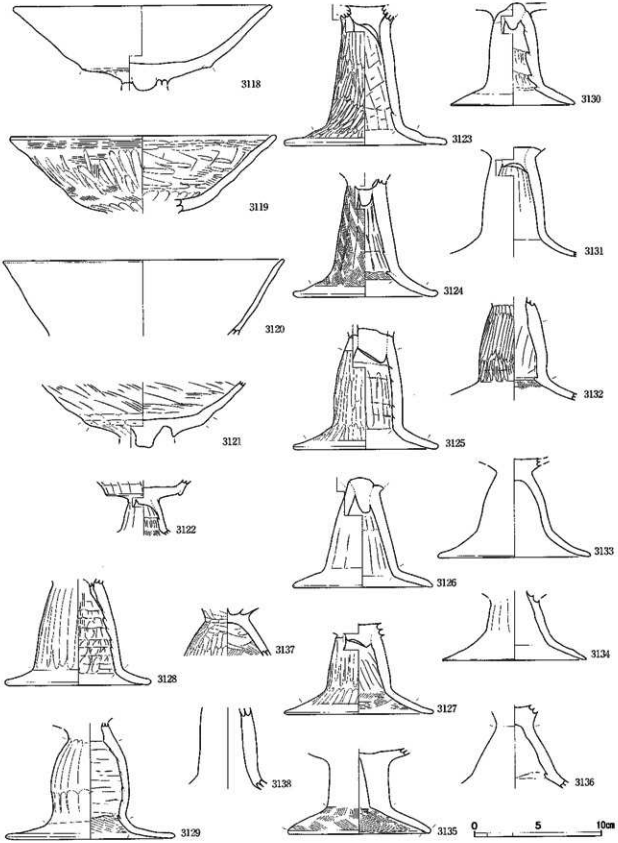
縮尺1／2

図面三四　遺物実測図　石塚遺跡大井2地区　土器類



土師器

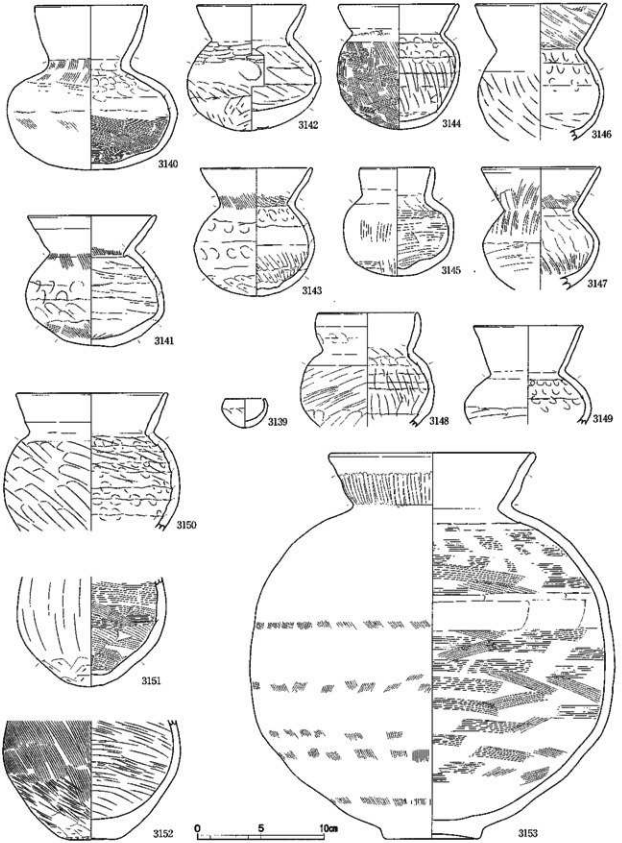
縮尺1／3


3118
3119
3120
3121
3122
3123
3124
3125
3126
3127
3128
3129
3130
3131
3132
3133
3134
3135
3136
3137
3138
0
5
10cm

土師器

縮尺1／3

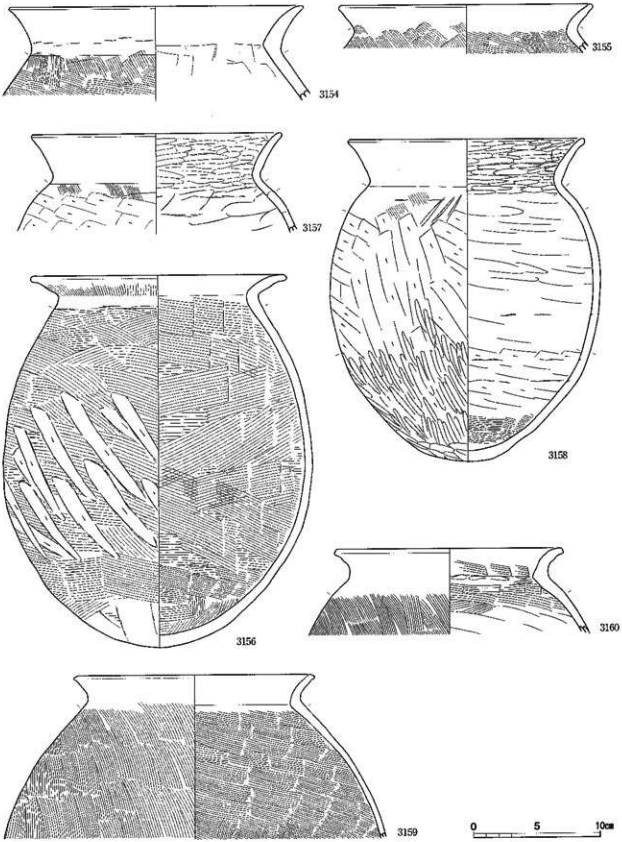
図面三六　遺物実測図　石塚遺跡大井2地区　土器類



土師器

縮尺1／3

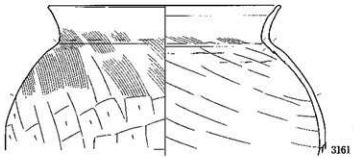
図面三七　遺物実測図　石塚遺跡大井2地区　土器類

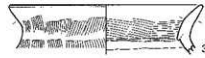


土師器

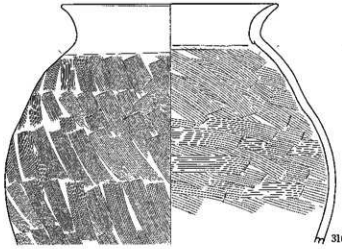
縮尺1／3

図面三八　遺物実測図　石塚遺跡・大井2地区　土器類

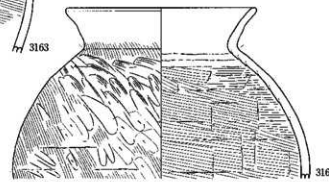

3161

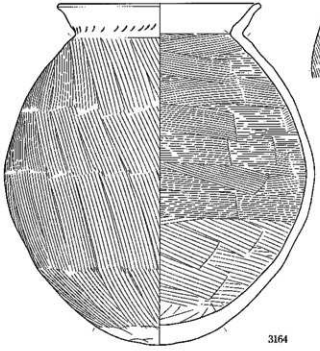

3162

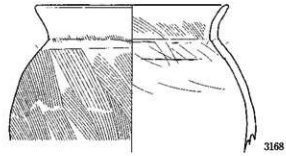
3165


3163

3166


3167

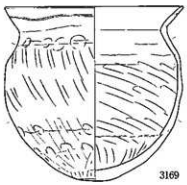

3164

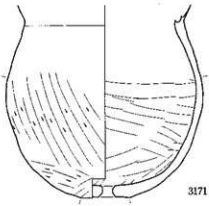

3168

土師器

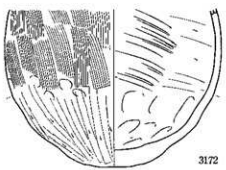
縮尺1／3

図面三九　遺物実測図　石塚遺跡大井2地区　土器類


3169


3171

3170


3172

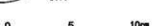
3173

3174

3176

3175

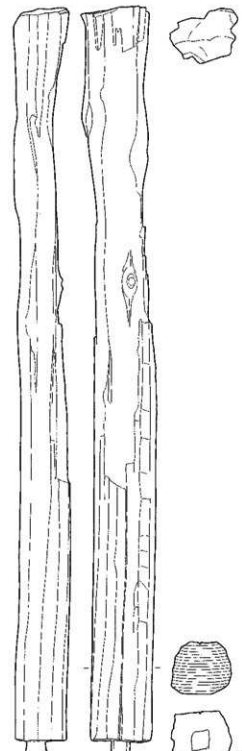
3177

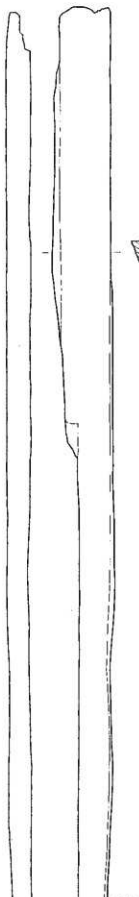


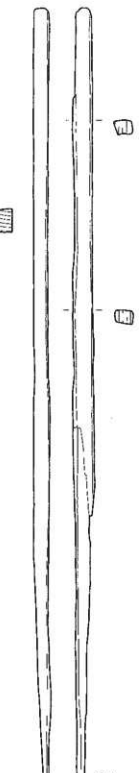
土師器

縮尺1／3

図面四〇　遺物実測図　石塚遺跡大井2地区　木製品



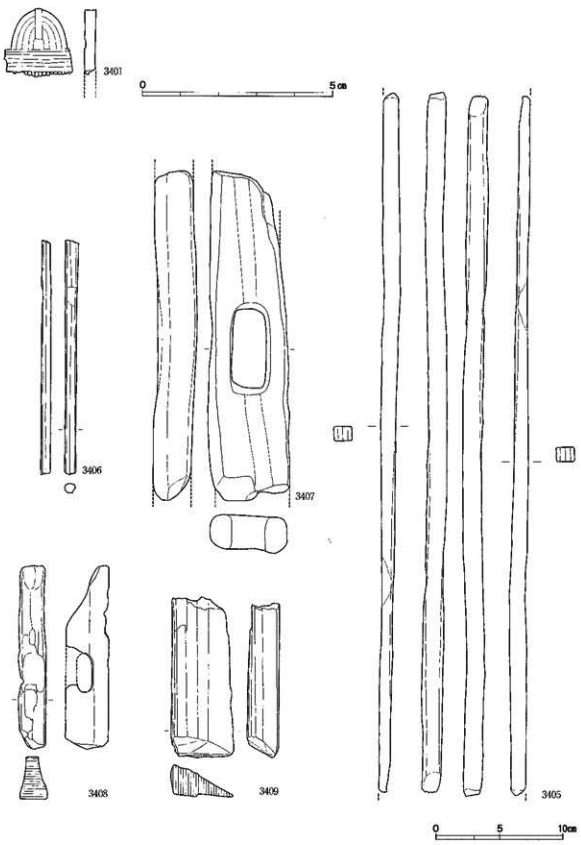




柱材：3402、板状品：3403、棒状品：3404

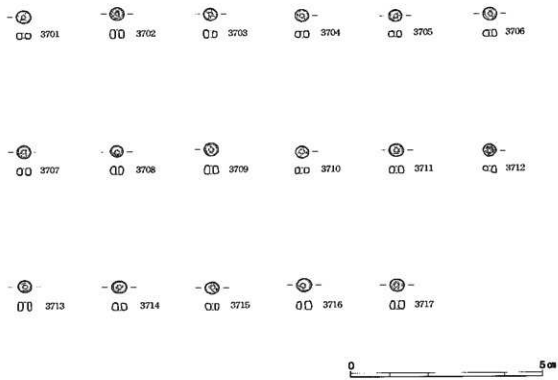
縮尺 1／10、1／4

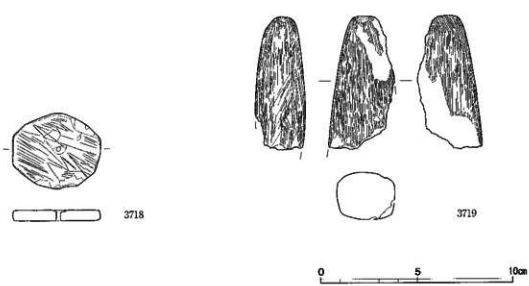
図面四一　遺物実測図　石塚遺跡大井2地区　木製品



鋤：3401，棒状品：3405・3406，部材：3407 ～ 3409

縮尺実大、1／3

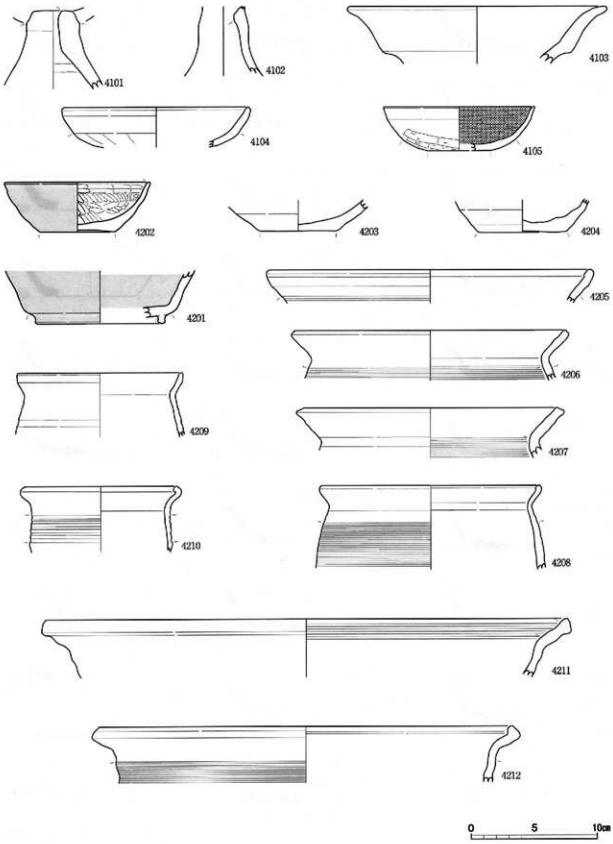




白玉：3701 ～3717，滑石製円板：3718，磨製石斧：3719

縮尺実大、1／2

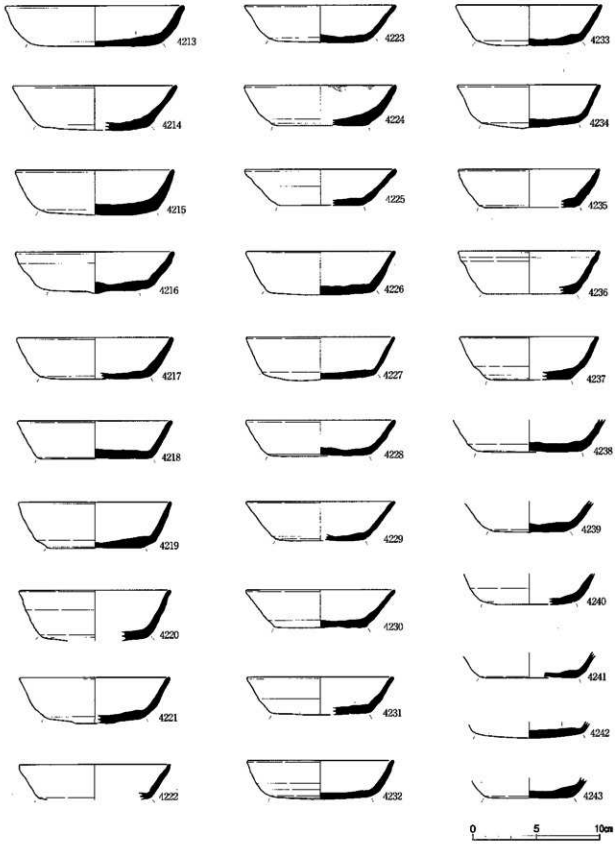
図面四三　遺物実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　土器類



土師器

縮尺１／３

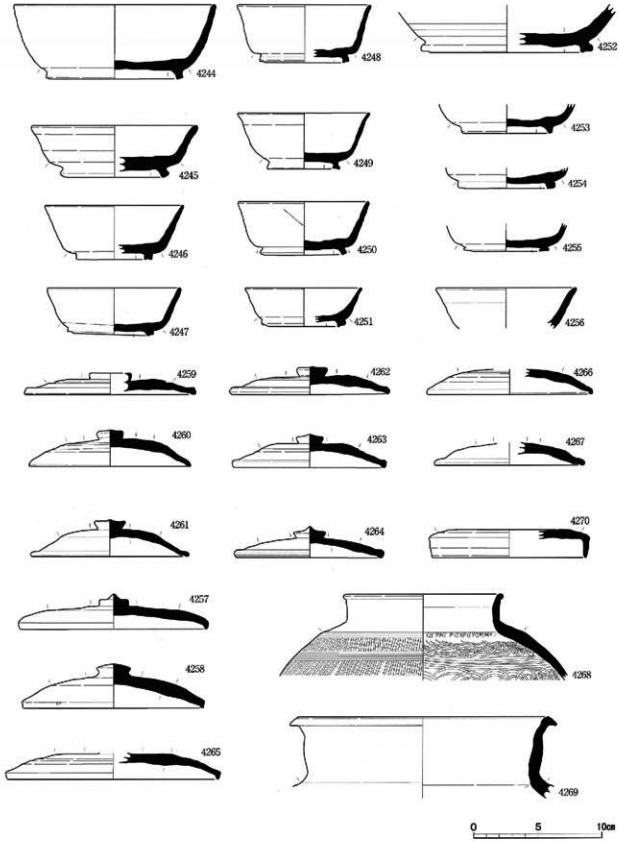
図面四四　遺物実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　土器類



須恵器

縮尺1／3

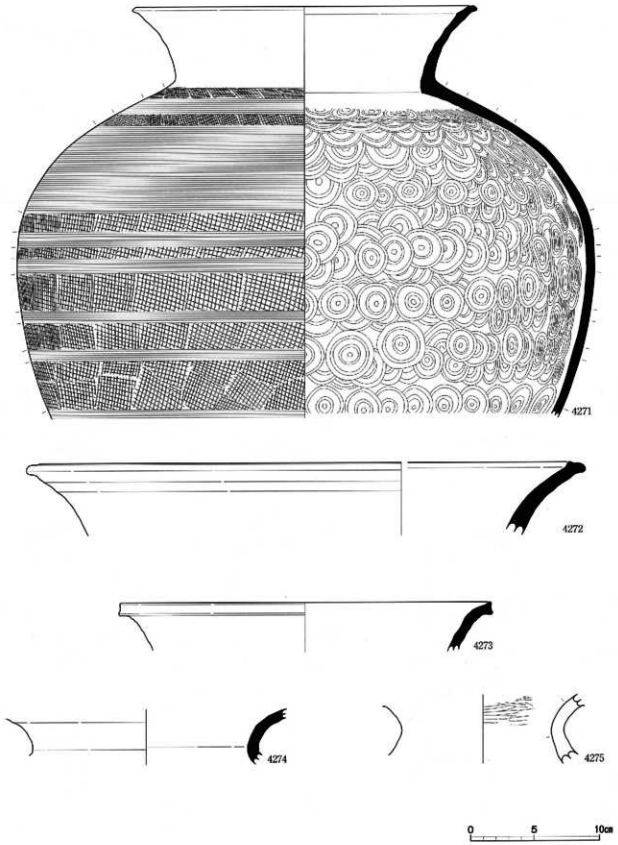
図面四五　遺物実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　土器類



須恵器

縮尺1／3

図面四六　遺物実測図　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　土器類



土師器・須恵器

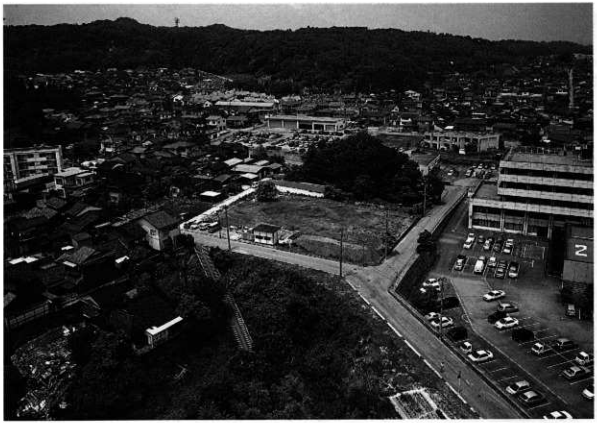
縮尺１／３

図　　版

図版01　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．調査地区遠景（南東）
2．調査地区全景（南）
図版02　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．本調査地区全景（北西）
2．試掘調査地区近景（南東）
図版03　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．竪穴建物址ＳＩ01・02・03全景（南東）
2．竪穴建物址ＳＩ01・02・03全景（北西）
図版04　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．竪穴建物址ＳＩ04全景（南東）
2．竪穴建物址ＳＩ04全景（北）
図版05　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．竪穴建物址ＳＩ04遺物出土状態（東）
2．竪穴建物址ＳＩ04遺物出土状態（南東）
図版06　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．竪穴建物址ＳＩ05・08全景（南）
2．竪穴建物址ＳＩ05・08全景（北）
図版07　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．竪穴建物址ＳＩ06全景（南）
2．竪穴建物址ＳＩ06全景（北西）
図版08　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．竪穴建物址ＳＩ07全景（南西）
2．竪穴建物址ＳＩ07遺物出土状態（南東）
図版09　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．竪穴建物址ＳＩ09全景（南）
2．竪穴建物址ＳＩ11全景（南東）
図版10　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．竪穴建物址ＳＩ11炉址検出状態（南東）
2．竪穴建物址ＳＩ11白色粘土検出状態（南西）
図版11　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．竪穴建物址ＳＩ12全景（南西）
2．竪穴建物址ＳＩ13全景（南西）
図版12　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．土坑ＳＫ01～10全景（北）
2．土坑ＳＫ01～10全景（南東）
図版13　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．溝検出状態（南西）
2．土坑ＳＫ01・02全景（東）
3．土坑ＳＫ03・04全景（北西）
4．土坑ＳＫ03遺物出土状態（南）
5．土坑ＳＫ08遺物出土状態（東）
6．土坑ＳＫ09遺物出土状態（南）
図版14　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
1．土坑ＳＫ11遺物出土状態（南西）
2．土坑ＳＫ11北部遺物出土状態（西）
3．土坑ＳＫ11南部遺物出土状態（西）
4．土坑ＳＫ13遺物出土状態（西）
5．土坑ＳＫ13遺物出土状態（南）
6．土坑ＳＫ13全景（東）
図版15　遺構写真　前田墓所遺跡レオパレス21地区
1．調査地区全景（南）
2．調査地区全景（上方）
図版16　遺構写真　前田墓所遺跡レオパレス21地区
1．溝ＳＤ01全景（南東）
2．溝ＳＤ01全景（北東）
図版17　遺構写真　前田墓所遺跡レオパレス21地区
1．溝ＳＤ01瓦出土状態（北東）
2．溝ＳＤ01漆器出土状態（東）
3．作業風景（北）

図版18　遺構写真　石塚遺跡大井２地区
１．調査地区遠景（南）
２．調査地区遠景（南東）
図版19　遺構写真　石塚遺跡大井２地区
１．調査地区全景（南西）
２．調査地区全景（上方）
図版20　遺構写真　石塚遺跡大井２地区
１．円地ＳＸ01臼玉出土状態（南）
２．円地ＳＸ01臼玉出土状態（北）
図版21　遺構写真　石塚遺跡大井２地区
１．円地ＳＸ01遺物出土状態（北西）
２．円地ＳＸ01遺物出土状態（東）
３．円地ＳＸ01木製品出土状態（南東）
図版22　遺構写真　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区
１．調査地区遠景（西）
２．調査地区遠景（南）
図版23　遺構写真　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区
１．第１トレンチ全景（南）
２．第２トレンチ全景（南）
３．溝ＳＤ03遺物出土状態（東）
図版24　遺物写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
土器類
土師器
図版25　遺物写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
土器類
土師器、須恵器
図版26　遺物写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
土製品
１．焼き窯外面
２．焼き窯内面
図版27　遺物写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
瓦
１．国分寺系平瓦凹面
２．国分寺系平瓦凸面
図版28　遺物写真　越中国府関連遺跡オダケホーム２地区
土器類・土製品・鉄製品・石製品
１．須恵器
２．鞴羽口、鉄製品、石器類、石製模造品
図版29　遺物写真　前田墓所遺跡レオパレス21地区
瓦
１．焼し瓦－丸瓦凹面
２．焼し瓦－丸瓦凸面
図版30　遺物写真　前田墓所遺跡レオパレス21地区
瓦
１．焼し瓦－平瓦凹面
２．焼し瓦－平瓦凸面
図版31　遺物写真　前田墓所遺跡レオパレス21地区
瓦
１．焼し瓦－平瓦凹面・凸面
２．釉薬瓦－平瓦凹面・凸面
図版32　遺物写真　前田墓所遺跡レオパレス21地区
瓦
１．釉薬瓦－平瓦凹面
２．釉薬瓦－平瓦凸面
図版33　遺物写真　前田墓所遺跡レオパレス21地区
木製品
漆器
図版34　遺物写真　石塚遺跡大井２地区
土器類
土師器
図版35　遺物写真　石塚遺跡大井２地区
土器類
土師器
図版36　遺物写真　石塚遺跡大井２地区
土器類
土師器
図版37　遺物写真　石塚遺跡大井２地区
土器類
土師器
図版38　遺物写真　石塚遺跡大井２地区
木製品
鍬、柱材、板状品、棒状品、部材
図版39　遺物写真　石塚遺跡大井２地区
石製品
１．臼玉
２．滑石製円板
３．磨製石斧
図版40　遺物写真　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区
土器類
須恵器

図版〇一　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区



1．調査地区遠景（南東）

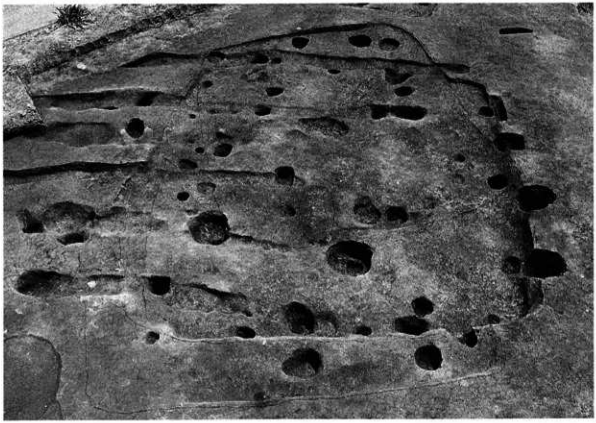
2．調査地区全景（南）

図版〇二　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区

1．本調査地区全景（北西）

2．試掘調査地区近景（南東）

1．竪穴建物址ＳＩ01・02・03全景（南東）



2．竪穴建物址ＳＩ01・02・03全景（北西）

図版〇四　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区

1．竪穴建物址ＳＩ04全景（南東）

2．竪穴建物址ＳＩ04全景（北）

1．竪穴建物址ＳＩ04遺物出土状態（東）

2．竪穴建物址ＳＩ04遺物出土状態（南東）

図版〇六　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区

1．竪穴建物址ＳＩ05・08全景（南）

2．竪穴建物址ＳＩ05・08全景（北）

図版〇七　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区

1．竪穴建物址ＳＩ06全景（南）

2．竪穴建物址ＳＩ06全景（北西）

図版〇八　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区

1．竪穴建物址ＳＩ07全景（南西）

2．竪穴建物址ＳＩ07遺物出土状態（南東）

1．竪穴建物址ＳＩ09全景（南）

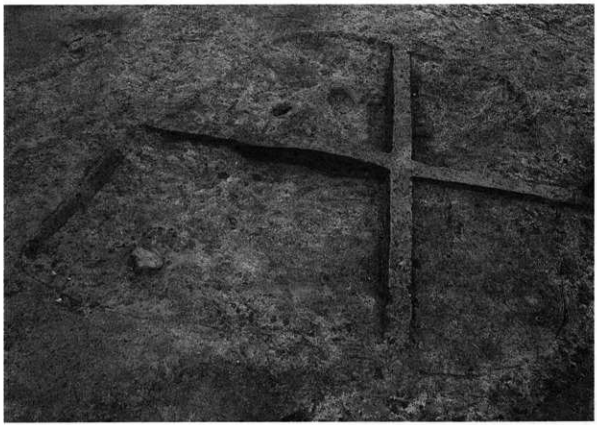
2．竪穴建物址ＳＩ11全景（南東）

図版一〇　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区

1．竪穴建物址ＳＩ11炉址検出状態（南東）

2．竪穴建物址ＳＩ11白色粘土検出状態（南西）

1．竪穴建物址ＳＩ12全景（南西）



2．竪穴建物址ＳＩ13全景（南西）

図版一二　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区

1．土坑ＳＫ01～10全景（北）

2．土坑ＳＫ01～10全景（南東）

1．溝検出状態（南西）

2．土坑ＳＫ01・02全景（東）

3．土坑ＳＫ03・04全景（北西）

4．土坑ＳＫ03遺物出土状態（南）

5．土坑ＳＫ08遺物出土状態（東）

6．土坑ＳＫ09遺物出土状態（南）

図版一四　遺構写真　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区

1．土坑ＳＫ11遺物出土状態（南西）

2．土坑ＳＫ11北部遺物出土状態（西）

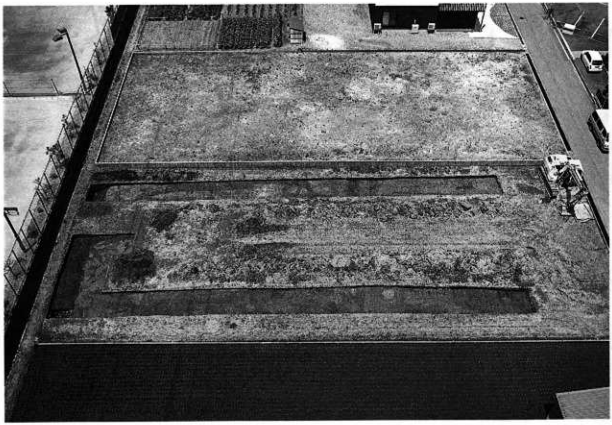
3．土坑ＳＫ11南部遺物出土状態（西）

4．土坑ＳＫ13遺物出土状態（西）

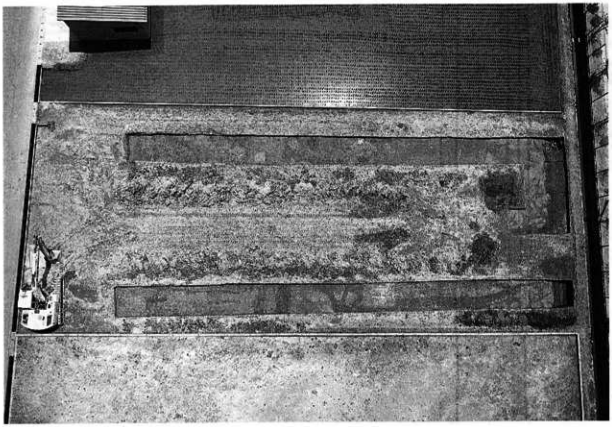
5．土坑ＳＫ13遺物出土状態（南）

6．土坑ＳＫ13全景（東）

図版一五　遺構写真　前田高所遺跡レオパレス21地区



1．調査地区全景（南）



2．調査地区全景（上方）

図版一六　遺構写真　前田鳥所遺跡レオパレス21地区

1．溝ＳＤ01全景（南東）

2．溝ＳＤ01全景（北東）

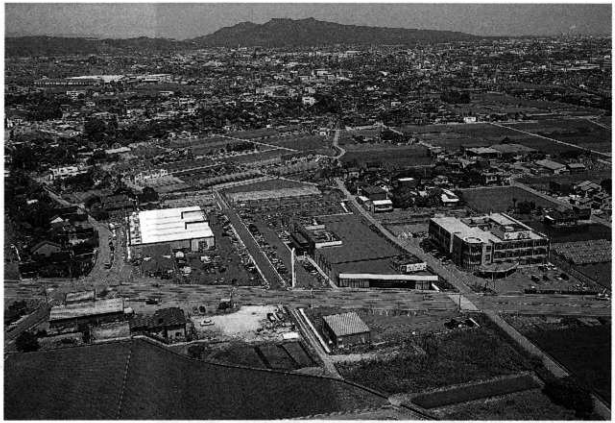
図版一七　遺構写真　前田遺跡レオパレス21地区

1．溝SD01
瓦出土状態（北東）

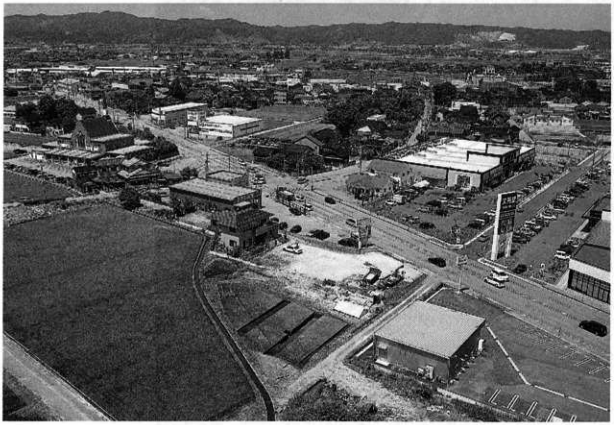
2．溝SD01
漆器出土状態（東）

3．作業風景（北）

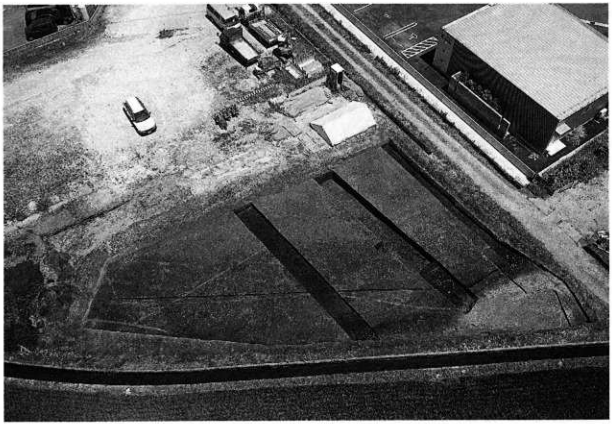
図版一八　遺構写真　石塚遺跡大井2地区



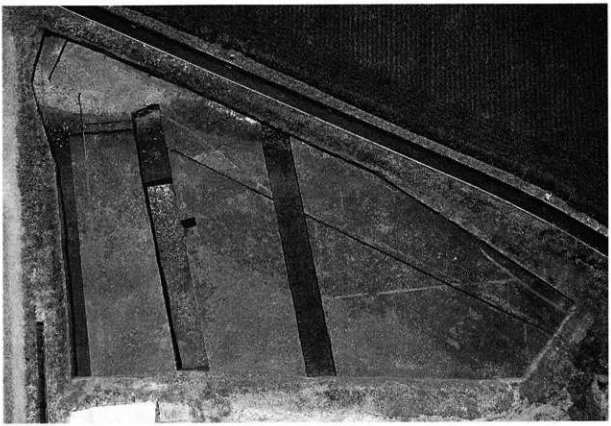
1．調査地区遠景（南）



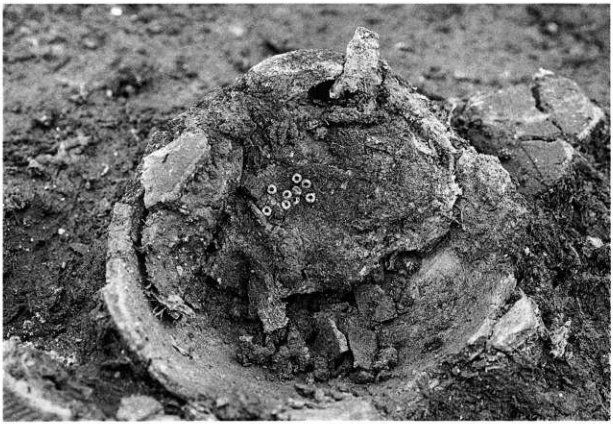
2．調査地区遠景（南東）



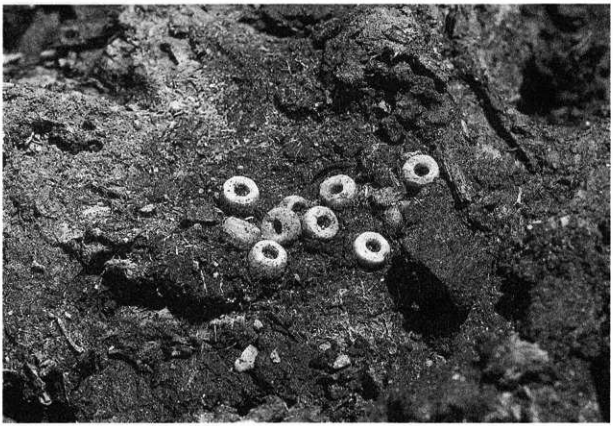
1．調査地区全景（南西）



2．調査地区全景（上方）



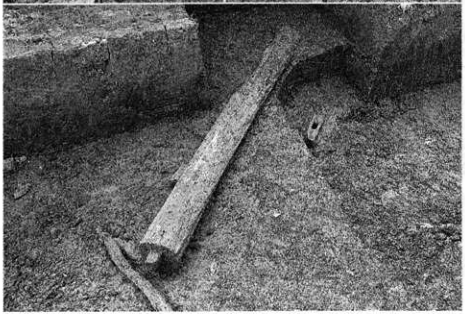
1．凹地ＳＸ01臼玉出土状態（南）



2．凹地ＳＸ01臼玉出土状態（北）

1．凹地ＳＸ01
遺物出土状態（北西）

2．凹地ＳＸ01
遺物出土状態（東）



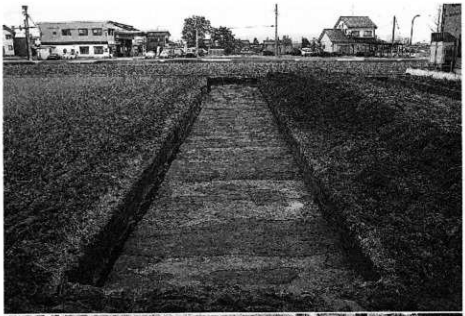
3．凹地ＳＸ01
木製品出土状態（南東）

図版二一　遺構写真　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区

1．調査地区遠景（西）

2．調査地区遠景（南）

図版二三　遺構写真　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区



1．第1トレンチ
全景（南）

2．第2トレンチ
全景（南）

3．溝ＳＤ03
遺物出土状態（東）

図版二四　遺物写真　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区　土器類

1102

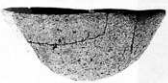
1104

1105

1106

1107

1128


1109

1111

1120

1116

1129

1121

1148

1122

土師器

1141

1143

1144

1216

1158

1164

1203

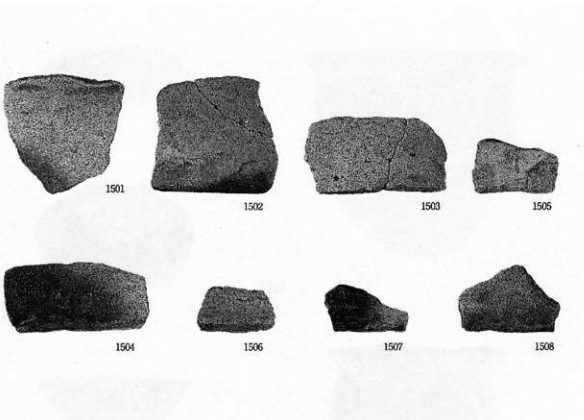
1206

1215

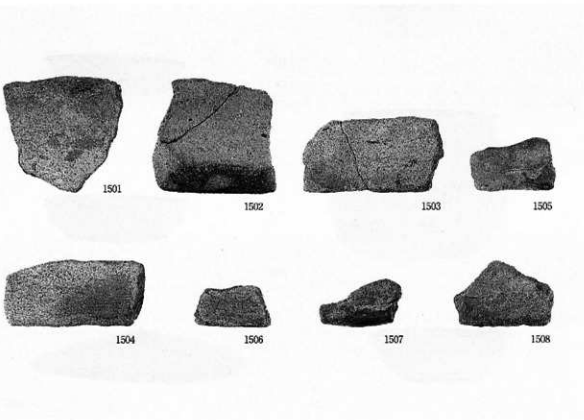
1227

土師器、須恵器

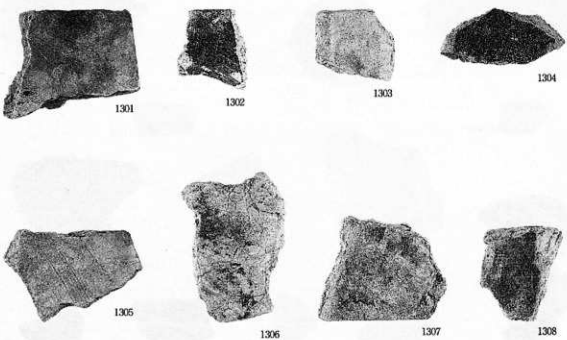
図版二六　遺物写真　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区　土製品



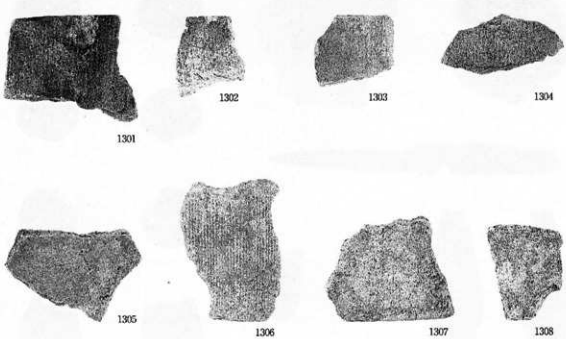
1．置き竈外面



2．置き竈内面

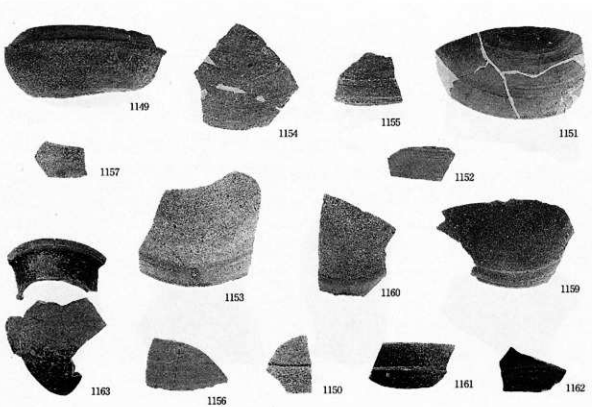


1．国分寺系平瓦凹面

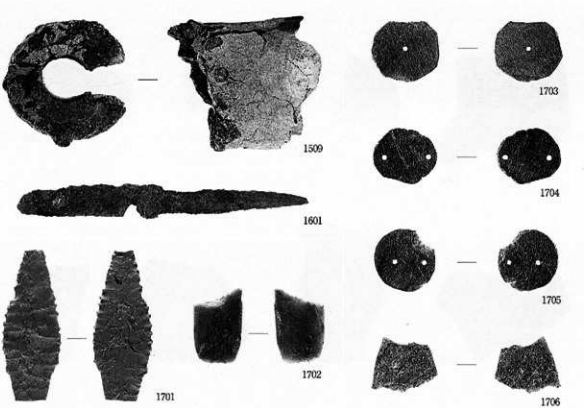


2．国分寺系平瓦凸面

図版二八　遺物写真　越中国府関連遺跡オダケホーム2地区　土器類・土製品・鉄製品・石製品

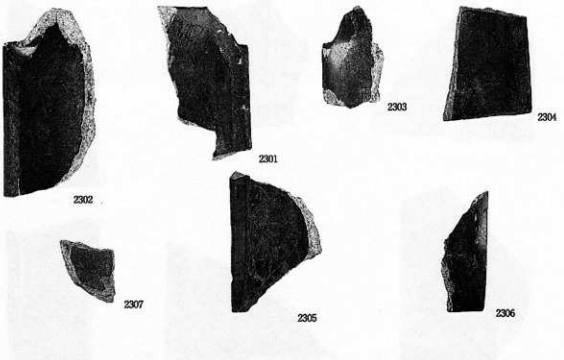


1．須恵器

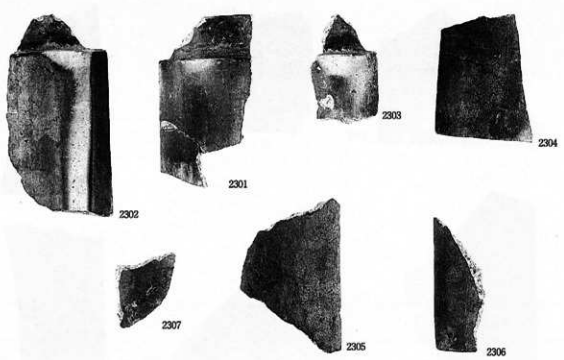


2．鞴羽口、鉄製品、石器類、石製模造品

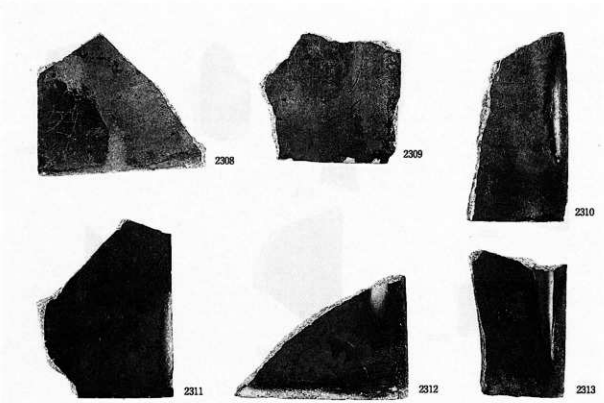
図版二九　遺物写真　前田墓所遺跡レオパレス21地区　瓦



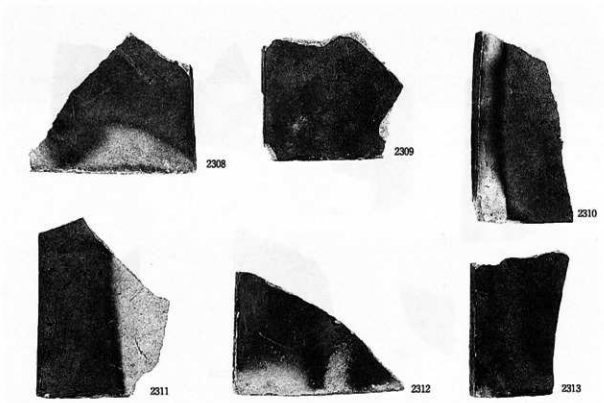
1．燻し瓦－丸瓦凹面



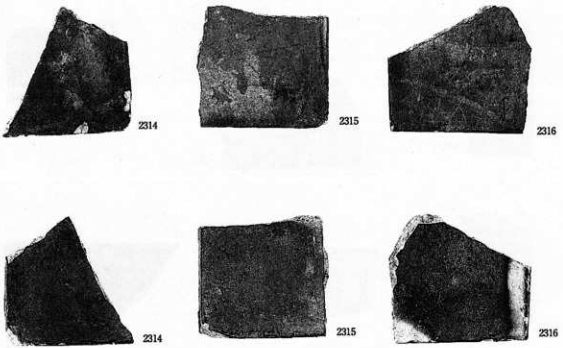
2．燻し瓦－丸瓦凸面



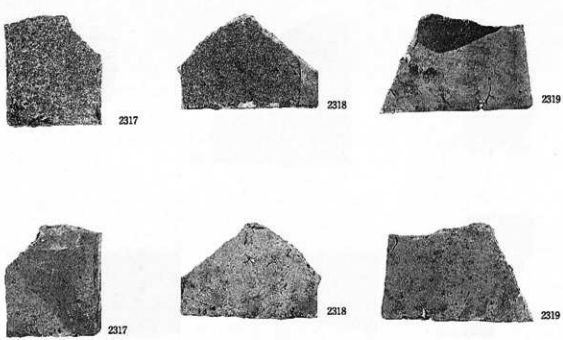
1．燻し瓦－平瓦凹面



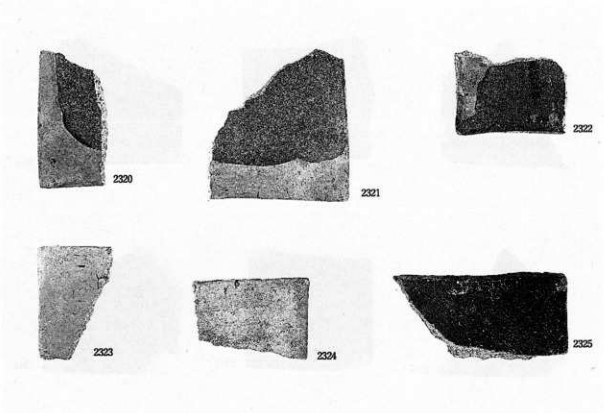
2．燻し瓦－平瓦凸面



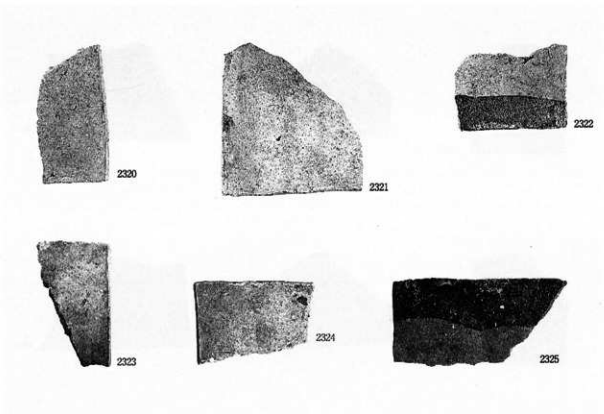
1．燻し瓦－平瓦凹面・凸面



2．釉薬瓦－平瓦凹面・凸面

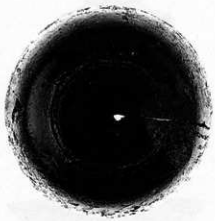


1．釉薬瓦－平瓦凹面



2．釉薬瓦－平瓦凸面

2402



2401

2403

漆器

図版三四　遺物写真　石塚遺跡大井2地区　土器類

土師器

3113

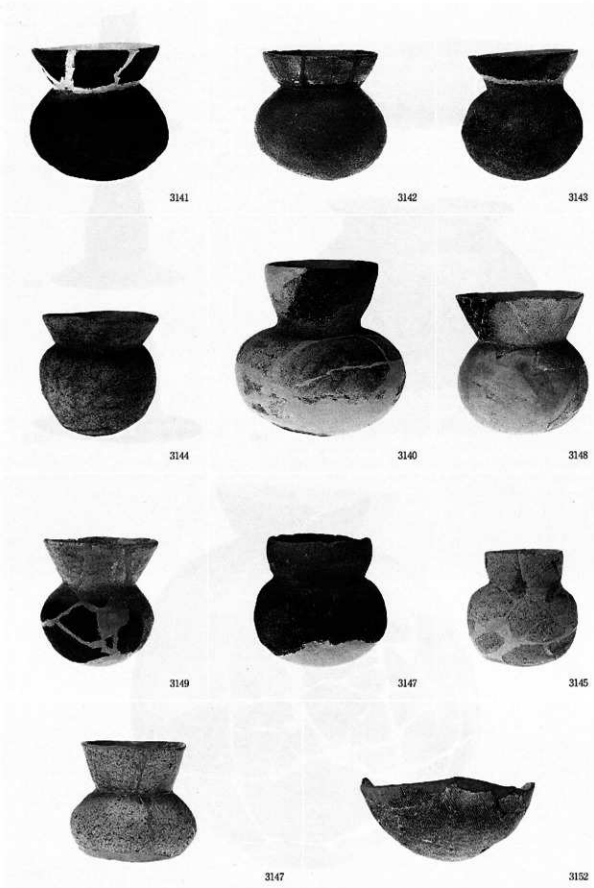
3124

3125

3163

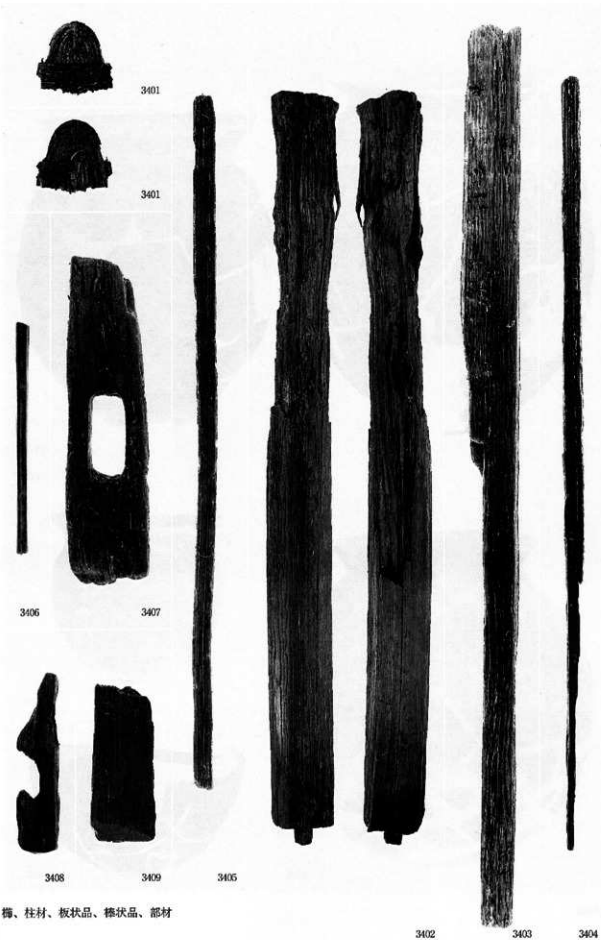
3131

3153



土師器

図版三八　遺物写真　石塚遺跡大井2地区　木製品



梅、柱材、板状品、棒状品、部材

3156

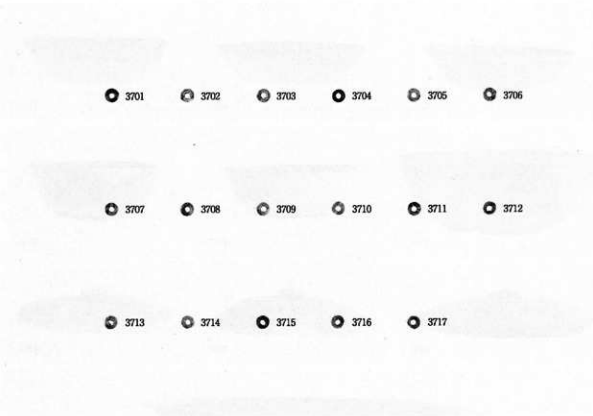
3158

3164

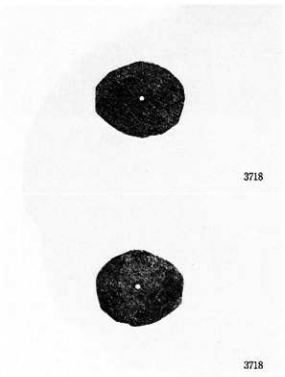
3169

3172

土師器



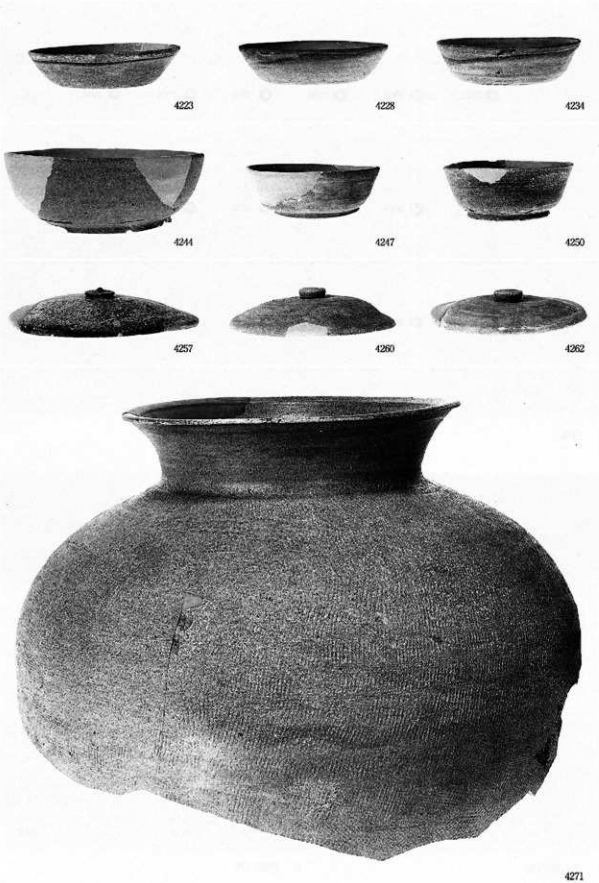
1．白玉



2．滑石製円板

3．磨製石斧

図版四〇　遺物写真　東木津遺跡泉が丘内科クリニック駐車場地区　土器類



須恵器

高岡市埋蔵文化財調査概報第66冊
市内遺跡調査概報XVII

発行者　高岡市教育委員会
富山県高岡市広小路7番50号

2008年3月31日

印刷所　キクラ印刷株式会社
富山県高岡市醍醐48－2